安全にご使用いただくために

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

また、ご使用の前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してから、ご使用下さい。

当製品をご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。

警告

感電、火災の恐れがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1．プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないで下さい。

2．ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。

危険

感電、火災、けがの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1．おもちゃとして絶対にご使用にならないで下さい。また、小さなお子様の近くでお使いになる時は、特別の注意をお願い致します。

2．この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする付属品のみをご使用下さい。

3．次のような場合には、当製品の使用を中止して下さい。
・ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
・ミシンが正常に作動しないとき。
・落としたり、損傷したとき。
・水の中に落としたとき。
このような場合には、最寄りの正規販売代理店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。

4．ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布きれが詰まった状態で使用しないで下さい。モーターが過熱する原因となります。

5．操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の回りでは、細心の注意を払って下さい。

6．常に当製品専用の針板をご使用下さい。不適切な針板のご使用は、針折れの原因となります。

7．曲がった針は使用しないで下さい。

8．裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。

9．糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源スイッチを切って下さい。

10．ミシンカバーを外し、注油、又は説明書に従って調整する場合には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。

11．ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。

12．戸外では使用しないで下さい。

13．酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では、使わないで下さい。

14．プラグをコンセントから抜く前に、必ずミシン本体の電源を切って下さい。

15．プラグをコンセントから抜く場合には、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。

16．以上の使用方法を順守しないために生じた損害に対しては、いかなる場合も当社は責任を持ちかねますので、ご了承下さい。

説明書の保管

当製品を安全にご使用いただくために、この説明書は大切に保管して下さい。

BERNINA®



“Welcome to the BERNINA family!”

この度は、ベルニナ· ソーイングおよび刺しゅう用コンピュータミシン· アーティスタをご購入いただき誠にありがとうございます。あなたのソーイング· ライフにおいてもっともエキサイティングな出来事であったことと思います。

お客様にご満足いただける卓越したスイス· クオリティと、未来を見据えたソーイングテクノロジーを先取りして開発した、他に類を見ない顧客サービスに支えられたベルニナ社の製品をお届け出来ることを誇りに思う次第です。１００年以上にわたる年月を越えてこのファミリー経営のベルニナ社を支えて来た原動力はこの誇りであり、私もこのベルニナ社の伝統を継承してゆく考えでおります。

名前が示すとおり、«アーティスタ»ソーイング· コンピュータは、あらゆるソーイングにおいて無限の喜びを可能にしてくれる、まさしく芸術品です。あなたの創造性を鼓舞し、あなたが意図するアイデアを最高の形で実現させる重要なお手伝いができ、大変光栄に思っております。

さらに、無限のソーイングを全て可能にする豊富なソーイング· アクセサリーと、実践的でクリエイティブなベルニナ· ソフトウエアーで、ベルニナ流のソーイングを存分にお楽しみ下さい。

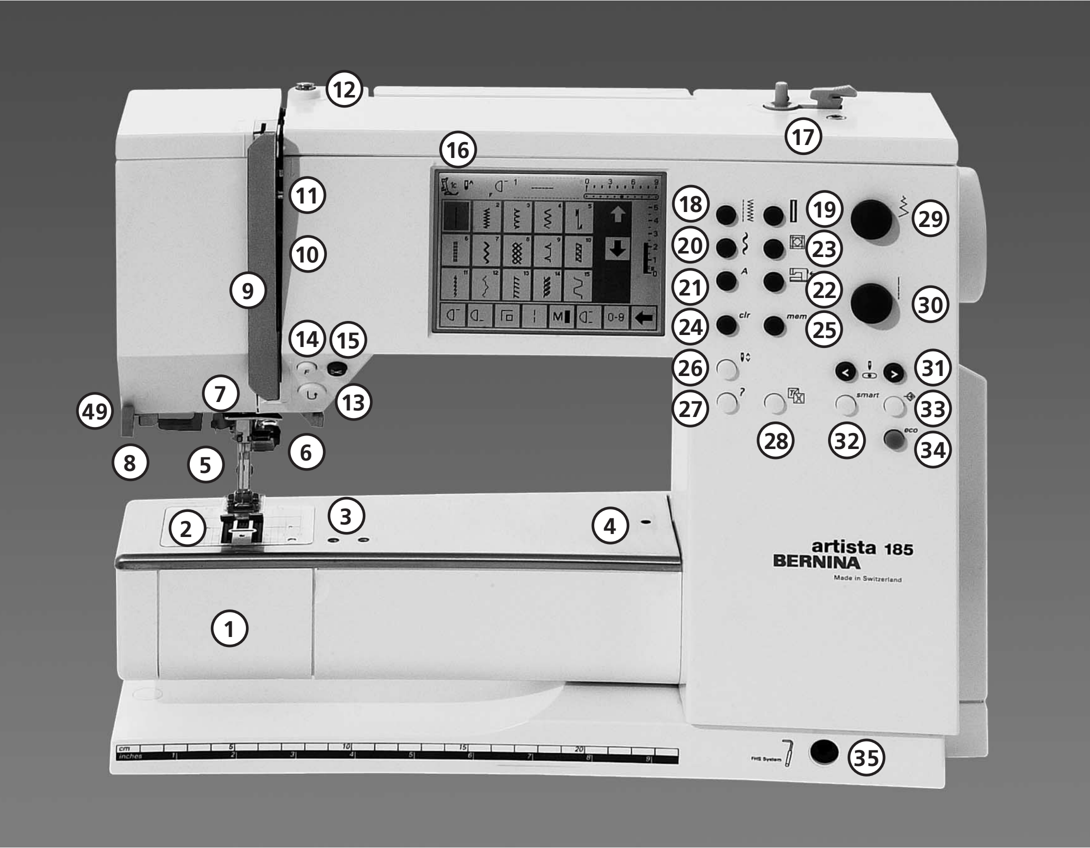
H.P. Ueltschi

H.P. Ueltschi
BERNINA Sewing Machine
Company

www.bernina.com

030866.51.10_0401_a185_JP

各部の名称


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
49
artista 185
BERNINA
Made in Switzerland

前面


36
37
38
39
50
BERNINA
Made in Switzerland

背面



左側面



右側面

1 釜カバー
2 針板
3 ソーイングベッド
4 縫い縫い枠(オプション)取付け穴
5 押え金
6 針止め
7 針元糸案内
8 上糸糸通し機
9 天秤カバー
10 上糸掛け糸道
11 天秤
12 下糸巻き案内
13 針元返し縫いボタン
14 お好み機能ボタン
15 自動糸カッター
16 スクリーン
17 糸巻きスイッチ／糸切り
18 実用縫いグループ選択ボタン
19 ボタンホールグループ選択ボタン
20 模様縫いグループ選択ボタン
21 文字グループ選択ボタン
22 刺しゅう模様縫いグループ選択ボタン
23 キルティングステッチ、16 方向縫い選択ボタン
24 ≪clr≫クリアボタン
25 ≪mem≫メモリーボタン
26 針上下停止位置選択ボタン
27 ヘルプ機能ボタン
28 オン・ボード・マニュアル・ボタン
29 振り幅調節つまみ
30 送り長さ調節つまみ
31 針基線選択ボタン
32 スマート機能ボタン
33 セットアップ機能ボタン
34 ≪eco≫エコ機能ボタン
35 膝押え上げレバー差し込み口
36 押え上げレバー
37 キャリングハンドル
38 糸こまホルダー
39 ソーイングテーブルソケット
40 糸切り(マニュアル)
41 押え圧調節つまみ
42 はずみ車
43 電源スイッチ
44 電源コードソケット
45 送り歯ドロッププッシュボタン
46 フットコントローラーコードソケット差込み口
47 刺しゅう機コードソケット差し込み口
48 パソコン接続用シリアルポート
49 レンズホルダー
50 ソーイングライト



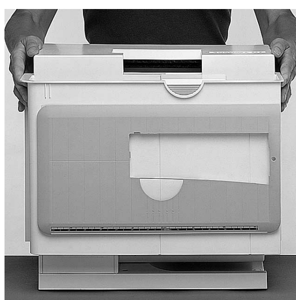
キャリングケース

キャリングケース

ミシンをほこりや汚れから守ります。
また、付属品のケースとしても利用できます。

付属品

・フットコントローラー
・使用説明書
・電源コード
・保証書
・膝押え上げレバー
・ソーイングテーブル用シームガイド
・ソーイングテーブル
ソーイングテーブルを取り外す時は、上に持ち上げてから取り外してください。



取り外し方

キャリングケースを取り外すには、両手で両側を持ってから、真上に持ち上げるようにします。

予備の糸立て棒は、キャリングケースをかぶせる際、必ず取り外しておいて下さい。

付属品ボックス



標準付属品の収納

・ボックス底にある左右の足を、かちんと音がするまで開くと、自立型のボックスを立てることができます。
・付属品ボックスには、大小各１個の引き出しがついています。また、内部はボビン収納用に２つ、コード付き押え金収納用に２つ、およびコードなしの押え金用に１つの収納用コンパートメントに分かれています。コンパートメントは、箱の中に保管することができます。また別売りオプションの引き出しおよびコンパートメントを追加することも可能です。
・ボビンは指定のボビンホルダーに保管します。
・ボビンを取り出すには、ホルダー部分（Ａ）の下を、軽く押します。
・押え金は、指定のハンガーにつるします。
・その他の付属品は、写真のように保管します。

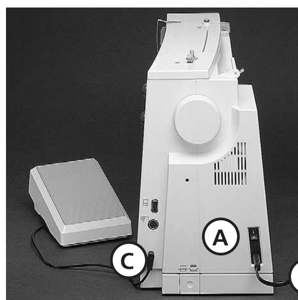
スーツケースシステム（別売りオプション）

・　スーツケースシステムは、キャスター付ですのでミシンの持ち運びにも便利です。

標準付属品

・ボビン4個（およびボビンケースの中に1個）
・針（H）1セット
・シームリッパー
・ドライバー（小）
・特殊ドライバー
・ブラシ
・シームガイド
・ウレタンパッド
・＃1C スーパー模様押え
・＃2A オーバーロック押え
・＃3C ボタンホール押え
・＃3A 自動ボタンホール押え
・＃4 ファスナー用押え
・＃5 まつり縫い押え
・＃8 ジーンズ押え
・＃18 ボタン縫い付け押え
・＃20C オープン刺しゅう押え
・＃40C 横送り縫い押え
・高さ調節板
・垂直型糸立て棒
・糸こまカバー3種類
・オイル
・CPS模様交換ソフト CD－ROM
・ART リンク刺しゅうソフト CD-ROM
・**自動ボタンホール押え用布案内板**

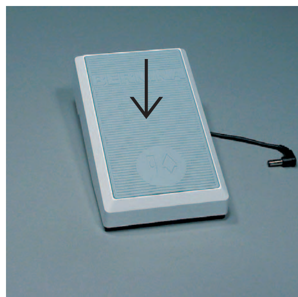
電源コード



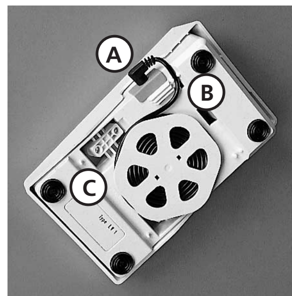
電源コード
キャリングケースの中に収納されています。
- プラグＡをミシンに接続します。
- プラグＢを電源コンセントに差し込みます。

フットコントローラ - 用コード
- プラグＣをミシンに接続します。

フットコントローラー

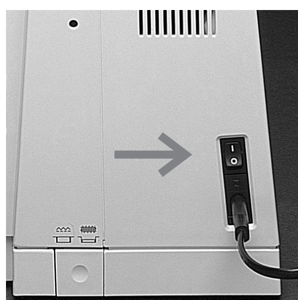


ソーイングスピード
- ペダルの踏み加減でスピードを調整します。
- ペダルのかかと部分（矢印）を踏んで針の上げ下げが出来ます。



コードの収納方法
- 裏側に巻き取ります。
- プラグは、Ａの差込穴に差し込みます。

電源スイッチ



電源スイッチ
電源スイッチは、ミシンの右側下（矢印）にあります。
- １：スイッチはオン
- ０：スイッチはオフ

照明ランプは、セットアップ・プログラムで« **点灯する** »、又は« **点灯しない**» を選択します。« **点灯する**» を選んだ時は、電源スイッチに連動します。

「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

ソーイングテーブル



広いソーイングテーブル
- 作業スペースを広げます。

取り付け方
- 針と押え金を上げます。
- フリーアーム部に差し込み、強く止まるまで押し込みます。

取り外し方
- 左方向に引いて、取り外します。

布ガイド
- テーブルの手前下の溝に沿って、右方向からスライドさせながら差し込みます。
- テーブル上で安定した布ガイドが可能になります。

定規
- ソーイングテーブルの定規の« ０» は、針基線の中央を基準としています。

膝押え上げレバー（フリーハンドシステム）

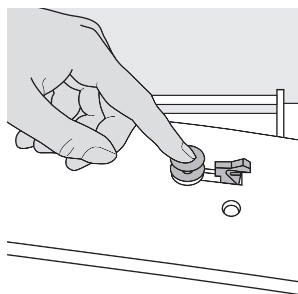


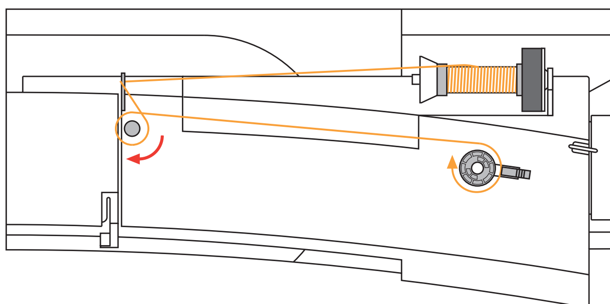
押え金の上下
- レバーで押え金の上げ下げが出来ます。
- 膝で右に押します。
- 押え金が上がり、同時に送り歯が下がります。上糸調子も、同時に開放されます。
- 縫い出すと、送り歯は自動的に上がります。

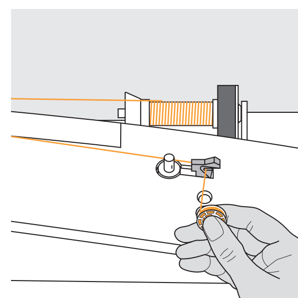
取り付け方
- 膝押え上げレバーは、キャリングケースの中に収納されています。
- レバーの差し込み口は、ミシンの土台の前方右下にあります。
- ミシンを正面にして、レバーが膝の右側に来るように座ります。

メモ：
レバーの角度は、調整可能です。最寄りの正規販売代理店にご相談下さい。

下糸の巻き方





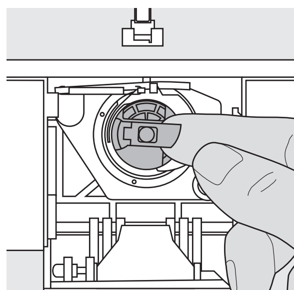


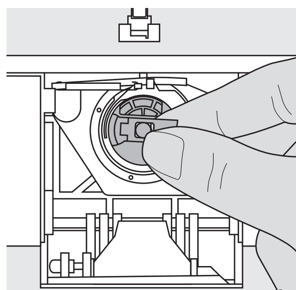
下糸を巻く
- 電源スイッチをオンに。
- 空のボビンを糸巻き軸に差し込みます。

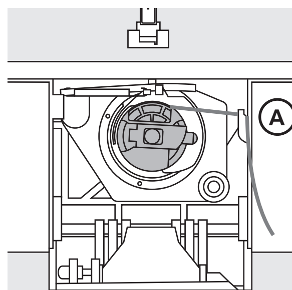
糸の通し方
- 糸を図中の矢印に従い時計回りに一巻きし、
- 空のボビンに糸を数回巻きつけ、糸巻き用の糸切りで余分な糸をカットします。
- ボビン押えをボビン側に倒します。
- フットコントローラーを踏み込みます。
- ボビンが一杯になれば、モーターは自動的に止まります。
- ボビンを外します。

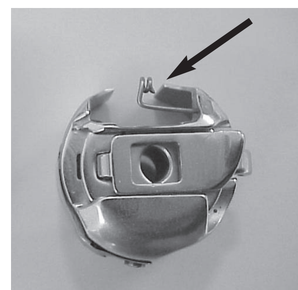
糸切り
糸切りで糸を切ります。

ボビンケース









取り出し方
- 針を上に上げ、
- 電源をオフ«○»、
- 釜開閉カバーを開け、

ボビンケースの爪の部分をつまんで、取り出します。

装着方法
- 爪の部分をつまみ、
- ボビンケースの開口部を上にして、
- 釜に装着します。

開閉カバーを閉めます。

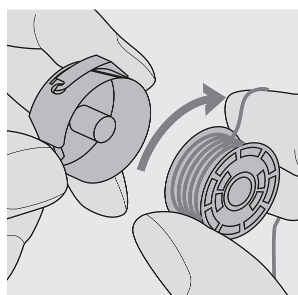
下糸カッター
- ボビンケースを差し込み、
- Aのカッターで余分の糸を切ります。

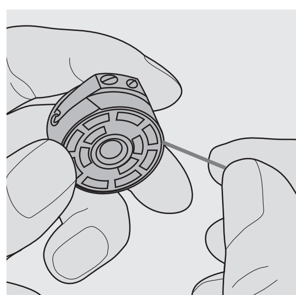
メモ:
通常は、下糸を持ち上げる必要なく、最適な下糸の長さで縫い始められます。

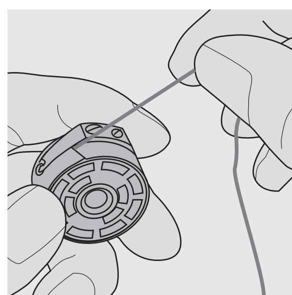
注意:
刺しゅうするときはミシンに同梱された糸案内付の刺しゅう用ボビンケースをご使用下さい。

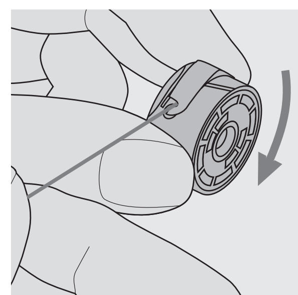
「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

ボビンの入れ方



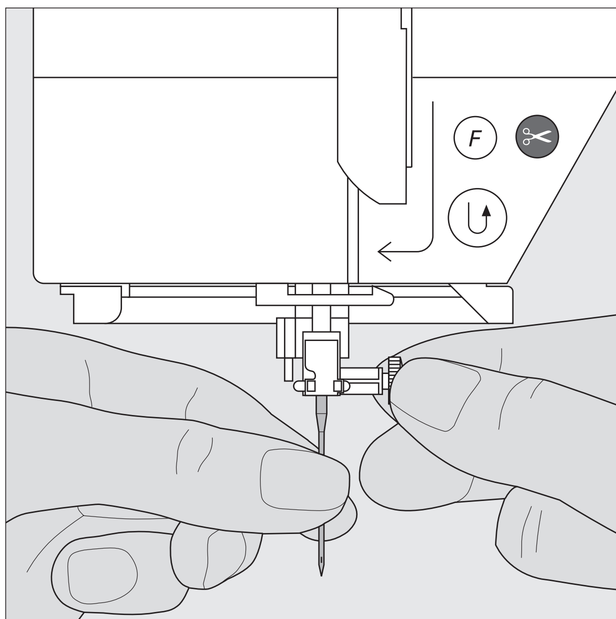






- 糸の巻き方向が時計回りになるように、注意してボビンをボビンケースに入れます。
- 糸を時計と反対方向に引きながら切り溝の中に入れ、
- バネの下を通して糸がバネの端のT字型溝を通って、だ円形の窓から出るまで引っ張ります。
- 糸の端を引っ張ると、ボビンが図のように時計回りに回ることを確かめて下さい。

針の交換

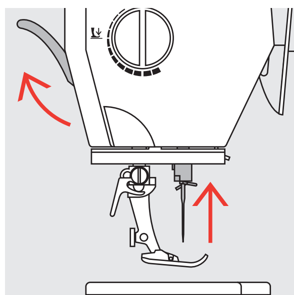


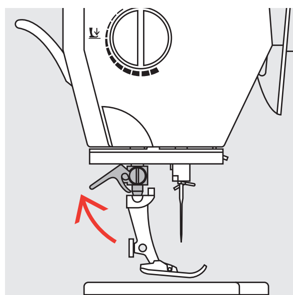
針のとり外し方
- 針を上げ、
- 電源をオフにしてから、
- 押えを外します。
- 指先でネジを緩め、
- 針を下に引いて、外します。

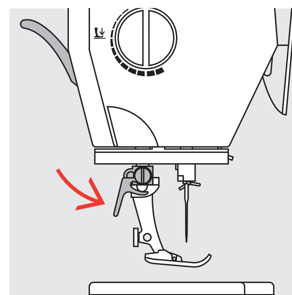
針の取り付け方
- 針の平らな側が後ろになるように持ち、
- そのまま、一杯まで差し込んでから、
- ネジをしめます。

「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

押えの交換







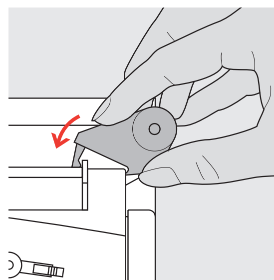
押え金の交換方法
- 針と押え金を上げ、
- 電源をオフ≪0≫にします。

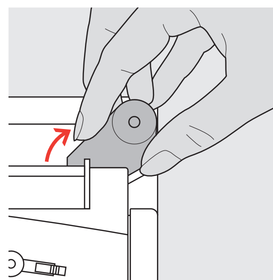
押え金止めレバーを上げる
- 押え金止めレバーを持ち上げ、
- 押え金を取り外します。

押え金の取り付け方
- 押え金を上に一杯まで差し込み、
- 押え金止めレバーを下げます。

「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

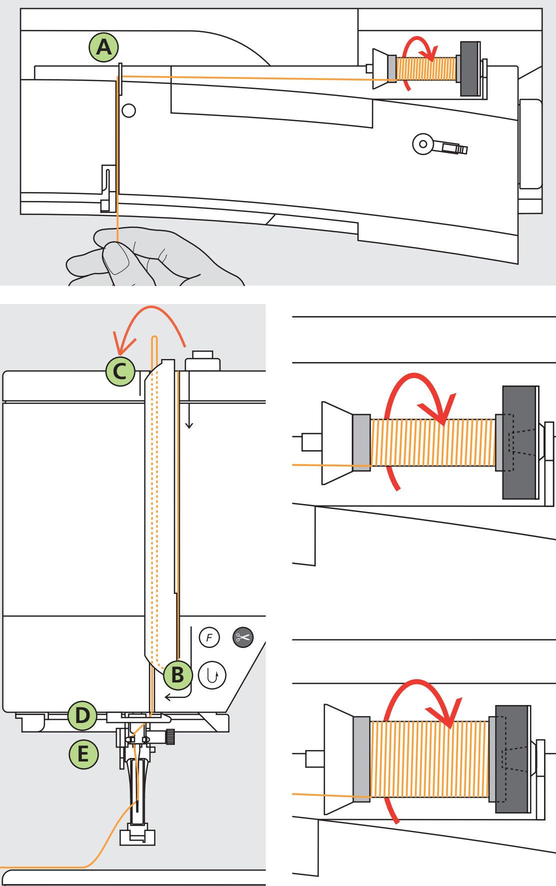
補助糸立て棒（垂直式）





垂直式糸立て棒
- 垂直式の補助糸立て棒は標準アクセサリーに含まれています。
- 取り付け方は、図のように、右側から回転させるようにして取り付けます。
- 取り外し方は、逆の方向に回すようにして外します。
- 2 本針などで、2 本以上の糸を使う時に使用します。

上糸のかけ方



糸こまのセット方法

- 針を上に上げて、押えも上げます。
- 電源をオフ≪０≫にします。
- パッド付糸こま土台を図のように取付けます。
- 糸こまが手前にまわるようにセットします。
- 糸こまの直径に合った糸こま押えで平らな面を糸こま側にして隙間のないように糸こまを固定します。
- 図中Ａの糸案内に糸を通します。
- 次に、上糸テンションの糸道に通します。

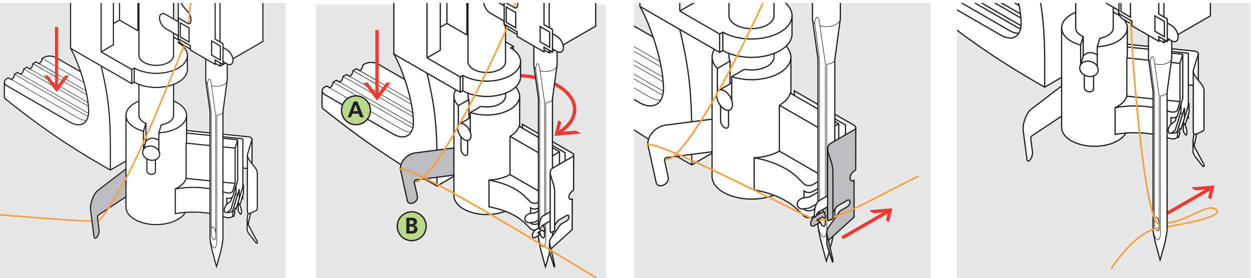
下へ
- 天秤カバーの右側に沿ってBへ、

上へ
- 天秤カバーの左側に沿ってCまで通し、

下へ
- 最後にD、Eそれぞれの糸掛けに通します。

「安全にご使用頂くために」のページをご参照下さい。

上糸糸通し



糸をフックに掛ける
- 押え金を下げ、
- 上糸をBのフックに軽くひっかけ、

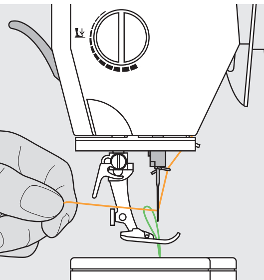
糸通し機のレバーを下げる
- Aのレバーを押し下げ、
- 同時に糸をBのフックに巻きつけながら、針の右側にもってきて、

糸を針の前へ
- 針の前方に糸をのばし、
- 糸がフックにひっかかるようにし、

レバーを開放する
- Aのレバーと糸を離せば完了です。

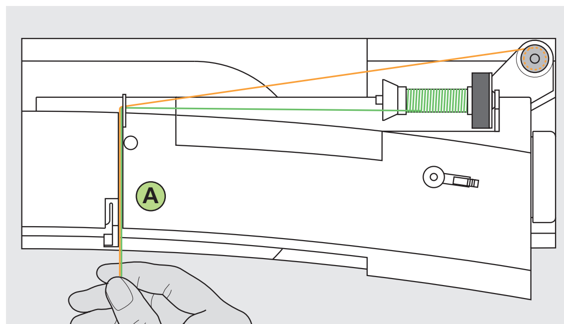
輪になっている糸を後ろへ引くと糸が針穴に通ります。

下糸の引き上げ方



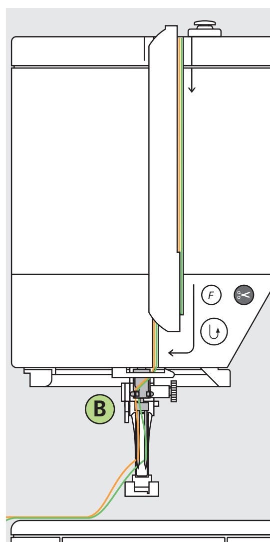
下糸の引き上げ方
- 下糸を下糸カッターでカットしたときは、下糸を引き上げる必要はありません。
- 上糸を手で持ったままで、
- 一針だけ縫います。
- 上糸を引くと、下糸が上がってきます。
- 両方の糸を押え金の溝を通して、横に引き出し、
- 糸切りで切ります。

注意
特殊な縫い方においては下糸を必ず引き上げることも必要です。



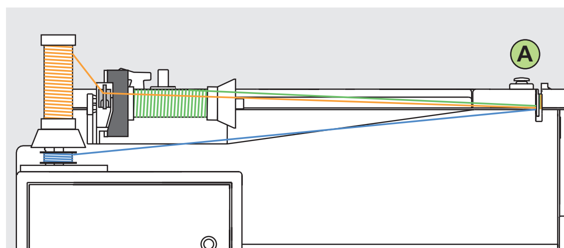
2本針の糸通しについて

1本目の糸を通す
- 糸コマを水平式の糸立て棒にセットします。
- 糸を、溝の前からAのテンションディスクの右側に通します。
- ふつうに糸かけをしながら、Bの糸ガイドの右側から右側の針に糸を通します。



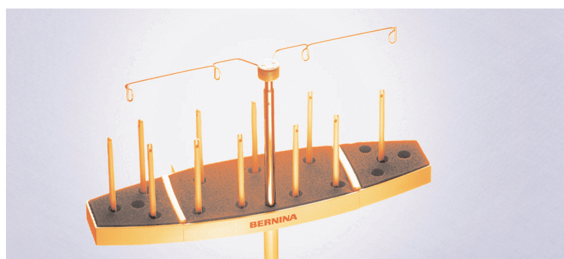
2番目の糸を通す
- 糸コマを垂直式の糸立て棒にセットします。
- 糸を、溝の前からAのテンションディスクの左側に通します。
- Bの糸ガイドの左側から、左側の針に糸を通します。
- 右側の糸とからんでいないことを確認してください。

ご注意：垂直糸立て棒をご使用になる時は、糸こまの糸が滑り落ちて絡みつかないように、必ずアクセサリー中のフォーム付糸立て土台をご使用下さい。



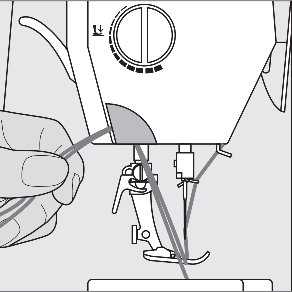
3本針の糸通しについて
- 糸コマ2本と、一杯に糸を巻いたボビンが1個必要です。
- 糸コマを1本、水平式の糸立て棒にセットします。
- 2本目の糸コマとボビンは、糸コマディスクで隔てるようにして、垂直式糸立て棒にセットします。その際、糸コマとボビンは、同じ方向に回るようにします。
- 2本の糸をAのテンションディスクおよびBの糸ガイドの左側に、もう1本を右側に来るようにして、通します。

注意
追加の糸ガイド（別売りオプション）を使うと、垂直式の糸立て棒にセットした糸がスムーズに送られるようになり、失敗が少なくなります。



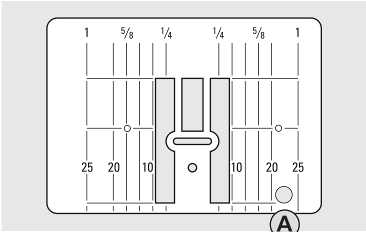
マルチ糸ホルダー
（別売りオプションとなります。）

糸切り（マニュアル）

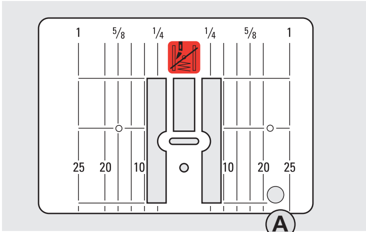


・上糸と下糸両方を、前から後ろの方向へ引っ掛けるようにして糸を切ります。
・そのままで縫い始めると、糸は自動的にはずれます。

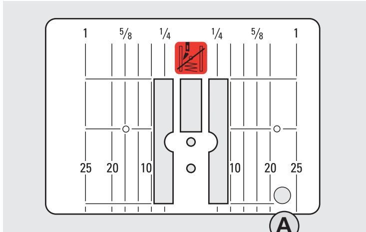
針板



9mm針板



5.5mm針板（別売りオプション）



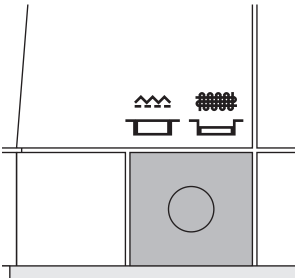
直線縫い用針板
（別売りオプション）

針板上のマーキング
・針板にはシームガイドラインがミリとインチの両方で表示されています。
・手前の表示がミリで、後方がインチです。
・シームガイドラインは、針とシームガイドラインの距離を示します。
・針の刺す位置が、ゼロとなります。（針位置が中央の場合。）
・ミリおよびインチのシームガイドラインは、中心から左右両方向にあります。
・布端をシームガイドラインに沿わせて縫います。
・横方向のマーキングは、コーナー部分やボタンホールを縫うときに便利です。

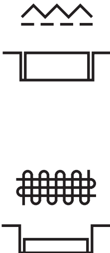
針板の取り外し方
・電源をオフ（0）にします。
・押え金と針を上位置に上げます。
・針板の右後ろコーナーを押し下げ、カチンと外します。

針板の取り付け方
・Aの開口部分に針板を合わせて、カチンとはまるまで押し下げます。

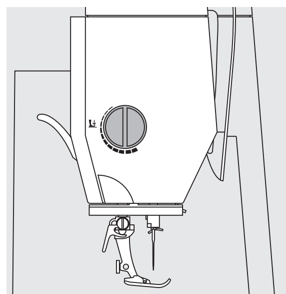
送り歯ドロップ機構

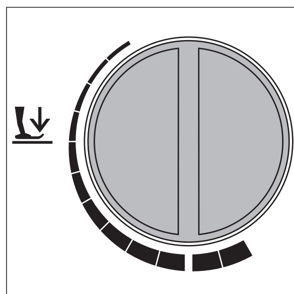


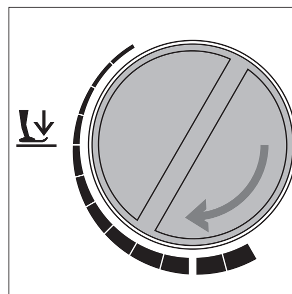
ドロップボタンは右側面にあります。
・ボタンの上がっている状態では送り歯は上にあり、普通縫い用の設定となっています。
・ボタンを押すと、送り歯が下がり、つくろい縫いや刺しゅう等、フリーハンド縫い用の設定となります。

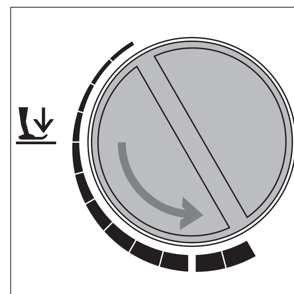


押え圧力調節









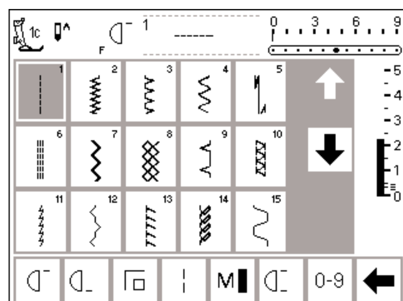
左側面に調節つまみがあります
調節つまみはミシンランプカバーの左側にあります。

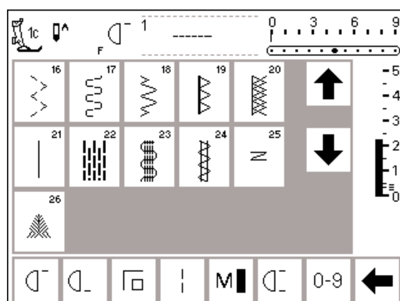
標準押え圧力
・ 通常のソーイング

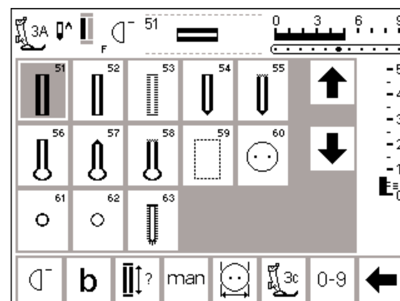
押え圧力を弱くする
・ジャージーやソフトなニット地やキルティングなどに。
・生地が伸びるのを防ぎます。
送りに影響を受けない程度に調節します。

押え圧力を強くする
・薄地や、滑りやすい生地やキルティングに。
・布送りを良くし、パッカリングを防ぎます。

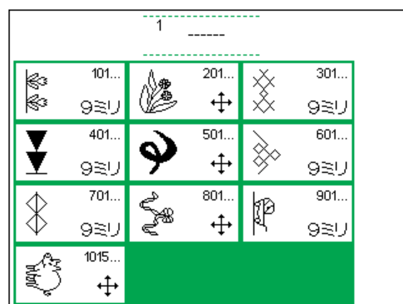
実用縫い模様

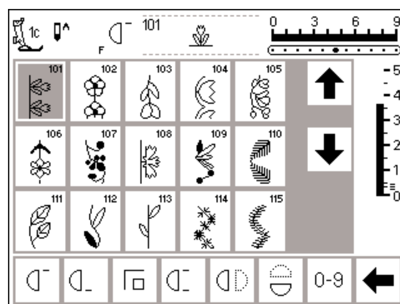


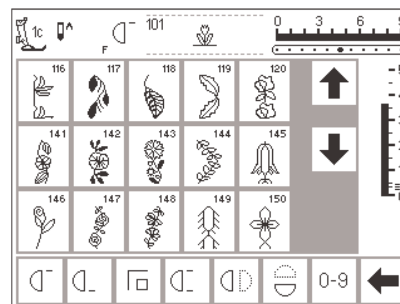


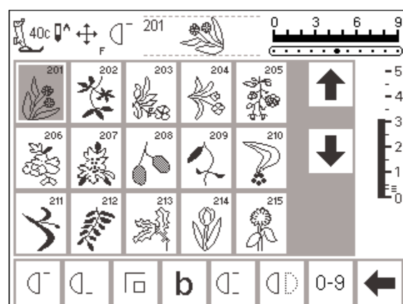


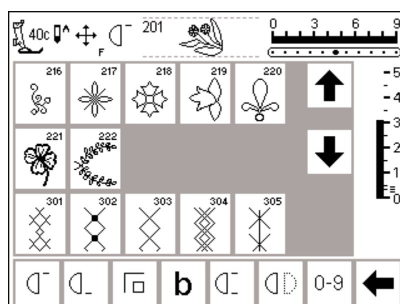
9mm と40mm 幅の飾り縫いステッチ

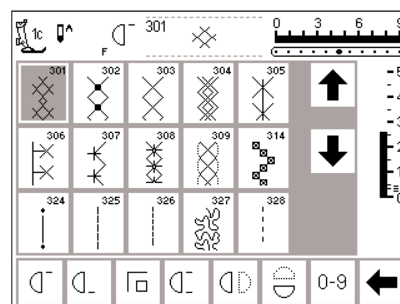


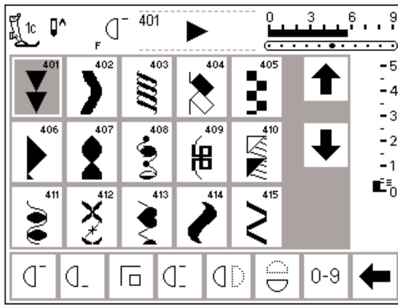


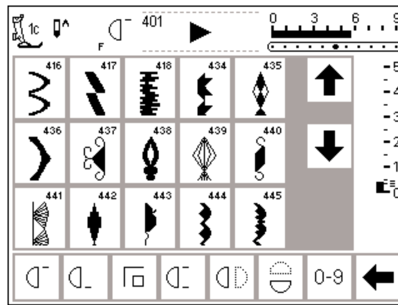


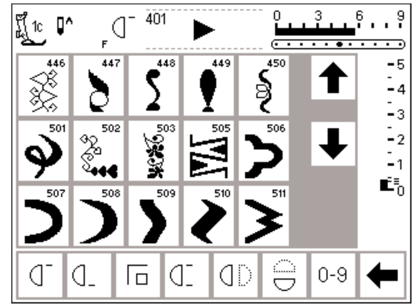


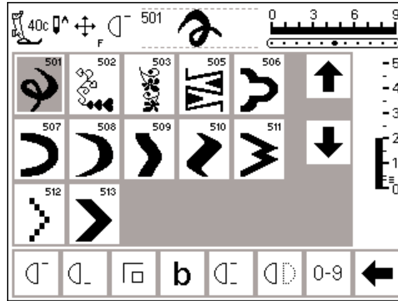


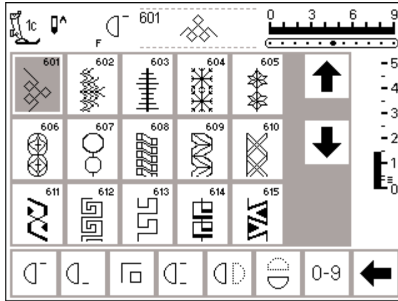


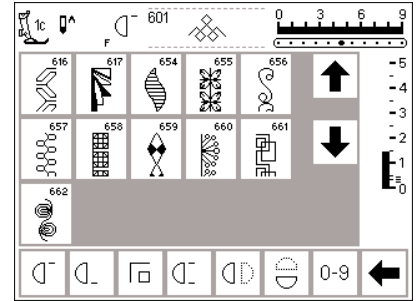


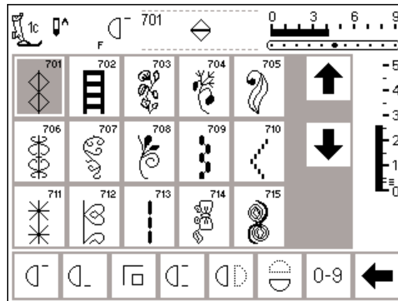


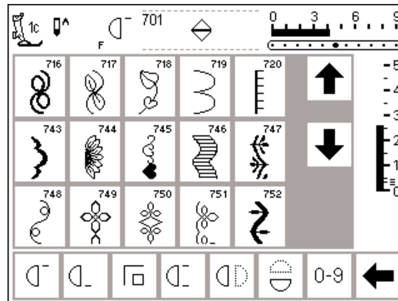


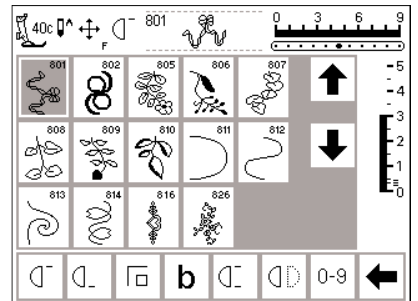


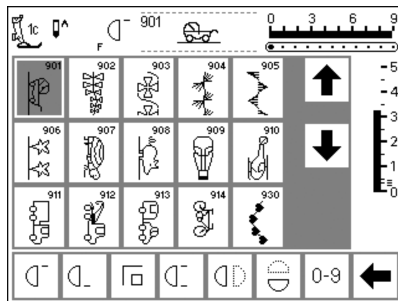


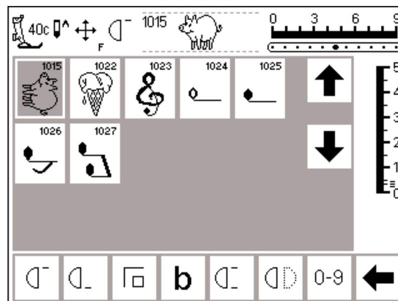




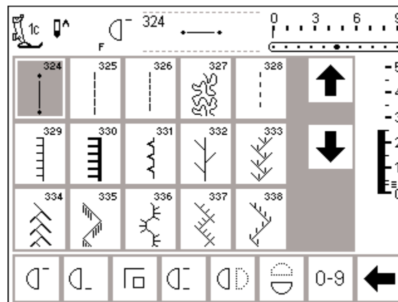


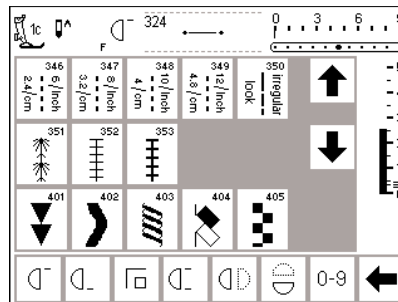




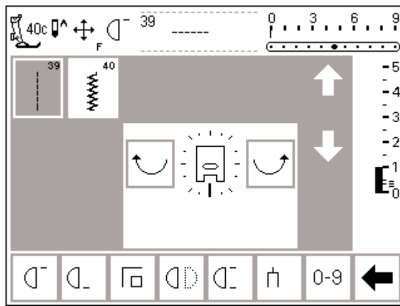


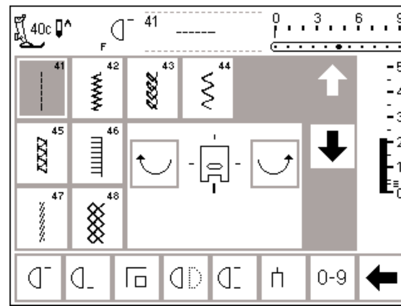
パッチワーク・キルティング用ステッチ



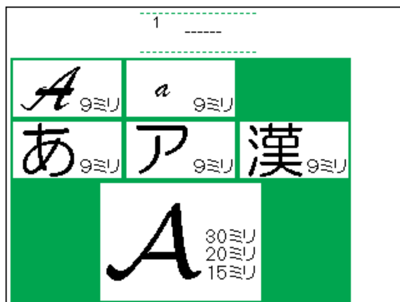


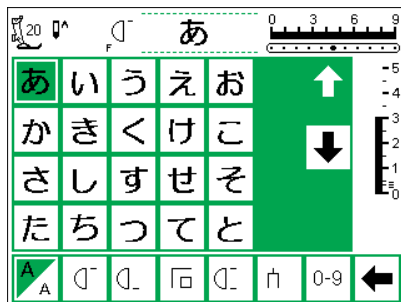
16方向（パノラマ）と4方向（パッチ）縫い模様

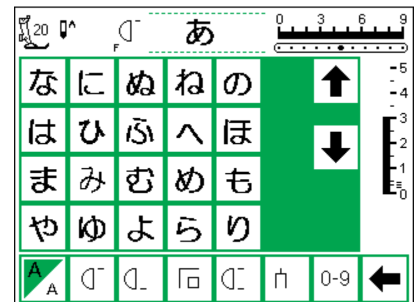


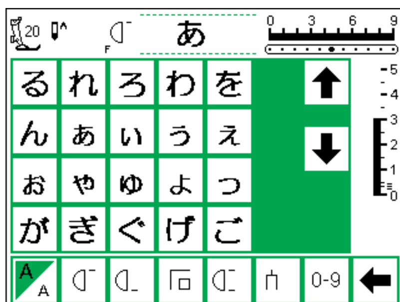


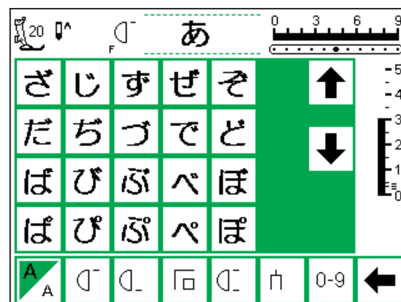
文字と数字

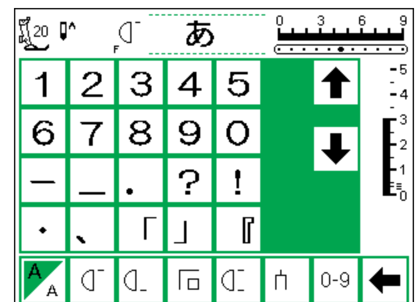


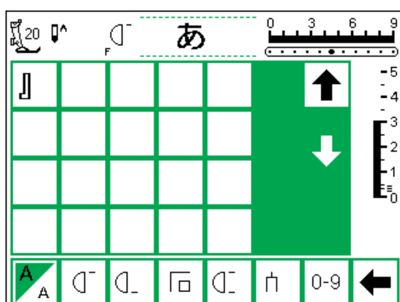


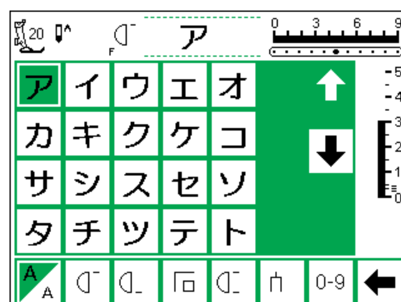


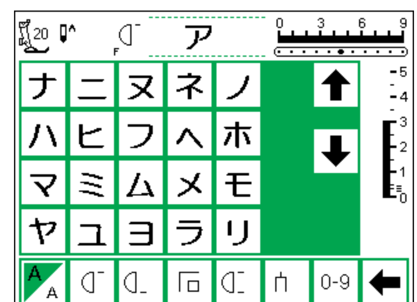


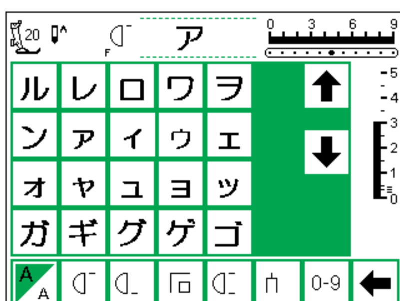


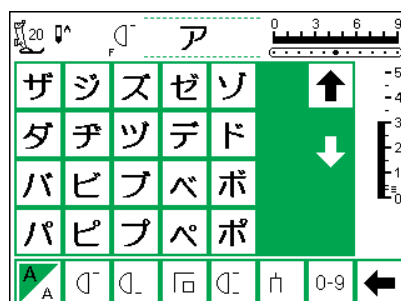


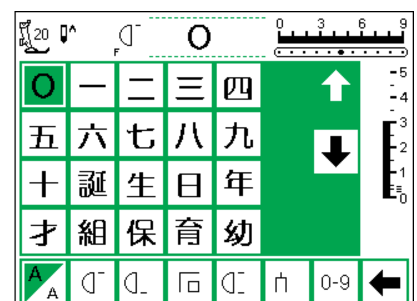








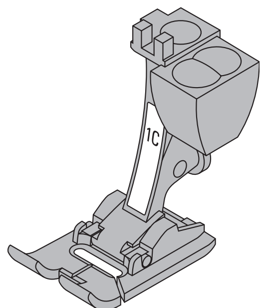




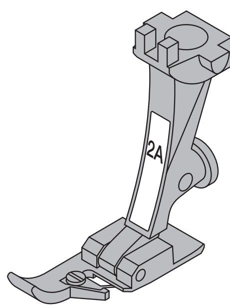
稚	園	小	中	学
校	月	火	水	木
金	土			

押え金

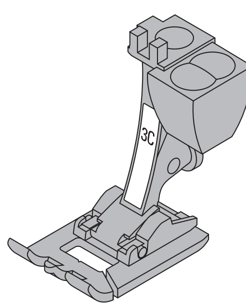
注意;押え金番号の後ろについているＣの文字は、その押え金に布ガイドがついている，または９ｍｍ幅のステッチが可能なセンサーがついていることを示しています。布ガイド付きの押え金をミシンに取り付け、ステッチを選択すると、振り幅は通常の5.5ミリではなく、9ミリとなります。この文字は必ずしもすべての押え金のついているわけではなく，また画面上の押え金表示機能でも表示されないことがあります。



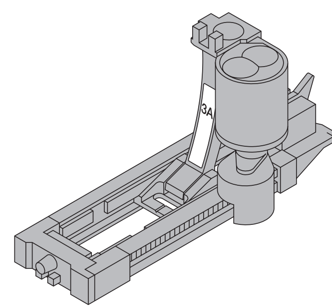
#1C
スーパー模様押え
実用縫い、模様縫い



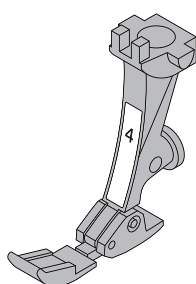
#2A
オーバーロック押え
オーバーロック縫い
布端かがり



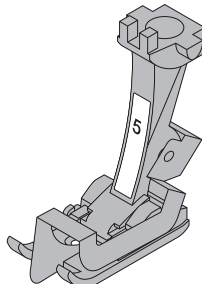
#3C
ボタンホール押え
ボタンホール縫い



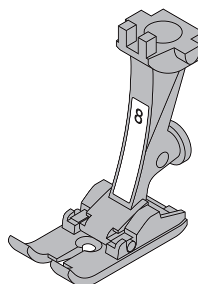
＃３Ａ
自動ボタンホール押え
フラットな部分でのボタンホール縫い、自動つくろい縫い



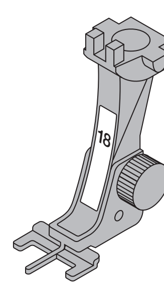
#4
ファスナー押え
ファスナー付けに



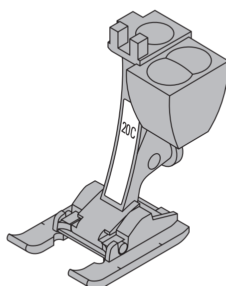
#5
まつり縫い押え
まつり縫い、エッジ縫いに



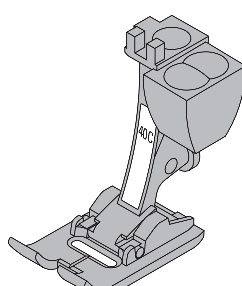
#8
ジーンズ押え
厚手の生地の直線縫いに



#18
ボタン縫い付け押え
ボタン、スナップおよび鳩目を縫うときに



＃２０Ｃ
オープン刺しゅう押え
刺しゅう、アップリケ、サテンステッチ模様、文字、モノグラム

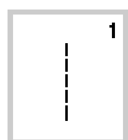


#40C
横送り模様押え
横送り模様に

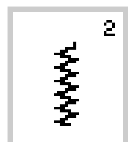
特殊ベルニナ押え

ほとんどのソーイングは付属の標準押え金で可能ですが、キルティングや、伝統的な手法を使ったソーイング、クラフト、ホームデコレーション、洋裁など、特殊な作業に必要な押え金がオプションで用意されています。
詳しくは、ベルニナ正規販売代理店へお問い合わせください。

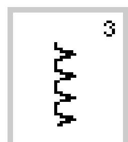
実用縫い模様



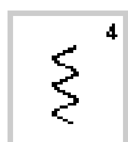
1 直線縫い
伸縮性のない生地。すべての直線縫い。



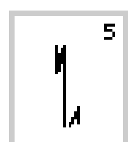
2 ジグザグ縫い
あらゆる生地。薄地でのジグザグ縫いや、ゴムひもやレースの縫い付けなど。



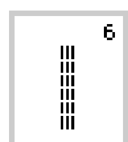
3 バリオーバーロック
主に薄地のジャージー等、伸縮地の縁かがりやオーバーロック縫い。



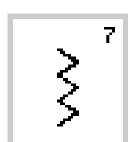
4 ランニングステッチ
あらゆる生地。つくろい縫い、パッチの縫い付けや補強縫いなど。



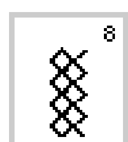
5 自動止め縫い
あらゆる生地。直線縫いの始めと終りを自動的に止め縫いします。



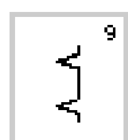
6 トリプルステッチ
厚くて丈夫な生地。補強縫いに。



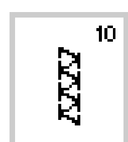
7 トリプルジグザグ
厚くて丈夫な生地。補強縫い、トップステッチやヘム縫い、飾りステッチ､カウチングなどに。



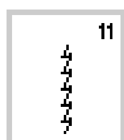
8 ネットステッチ
インターロック地や滑らかな生地に。 トップステッチやヘム縫いに。



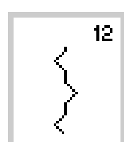
9 まつり縫い
あらゆる生地。くけ縫いやソフトなジャージー、薄地のシェルタック、飾り縫いなどに。



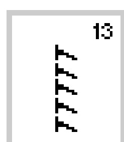
10.ダブルオーバーロック
あらゆるニット地。縫うと同時に縁の始末ができます。



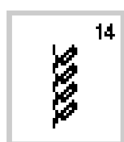
11.スーパーストレッチ
非常に伸縮性の強いニット地やライクラ地などの縫い合わせ。



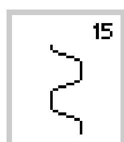
12 ギャザリングステッチ
あらゆる生地、ゴムひもを使ったシャーリング、キルト綿等突き合わせ縫い。



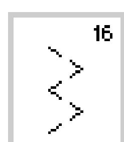
13 ストレッチオーバーロック
中厚地のニット地、タオル地その他腰のある生地。



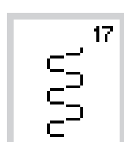
14 ジャージーステッチ
天然、混紡、あるいは化繊やデリケートなニット地。飾り縫い、縁かがり、繕い等に。



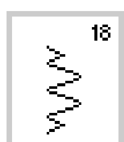
15 ユニバーサルステッチ
フェルト等厚地の生地またはレザー等 突き合わせ、飾り縫い等。



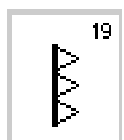
16 二点ジグザグ
目の粗い生地、布端の補強に、エラスティックや飾り縫いに。



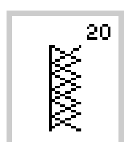
17 ライクラステッチ
二方向伸縮性のニット地に、フラットな突き合わせ、縁縫い、下着などに。



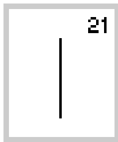
18 ストレッチステッチ
すべてのストレッチタイプの生地に、スポーツウエアーなど。



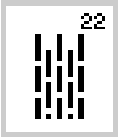
19 強化オーバーロック
中厚地のニット地、ジャージー、タオル地や、固めの織物に。



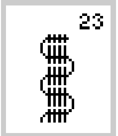
20 ニットオーバーロック
機械編みや、手編みのあらゆるニット地に。縁かがりと縫い合わせを同時に仕上げます。



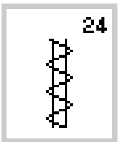
21 しつけ縫い
しつけ縫い。



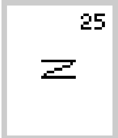
22 自動繕い縫い
薄地や中厚地の布の自動繕い縫い。



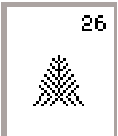
23 自動強化繕い縫い
厚地の自動繕い縫い。



24 自動かんぬき止め縫い
ポケットの両端やあき止まりなど、ほつれやすい個所やベルトループに。

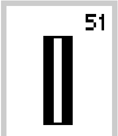


25 自動かんぬき止め縫い
ポケットの両端やあき止まりなど、ほつれやすい個所やベルトループに。

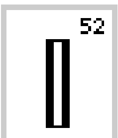


26 フライステッチ（大型）
中厚手の生地、ポケットの端部分、ファスナーおよび開口部分の補強に。

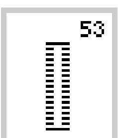
ボタンホール縫いと用途



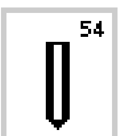
51 標準ボタンホール
薄手から中厚手の生地。ブラウス、シャツ、ズボン、寝具等に。



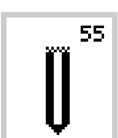
52 標準ボタンホール（幅小）
薄手から中くらいの厚さの生地。 ブラウス、シャツ、ドレス、ズボン、幼児服等。



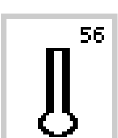
53 ストレッチボタンホール
木綿、化繊、シルクウールのあらゆる伸縮性ある生地。



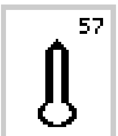
54 鳩目ボタンホール
厚地で伸縮性のない生地。ジャケット、コート、ズボン等。



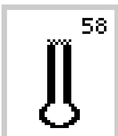
55 ラウンドボタンホール
中および厚地の生地に、ジャケット、レインコートなどに。



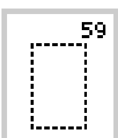
56 標準鳩目ボタンホール
厚地、伸縮性のない生地。
ジャケット、コート、ズボン、レジャーウェア等に。



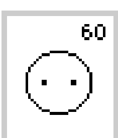
57 ポイント鳩目ボタンホール
伸縮性のない堅い生地に。
ジャケット、コート、レジャーウェアに。



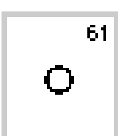
58 強化鳩目ボタンホール
堅い、伸縮性のない生地に。ジャケット、コート、レジャーウェアに。



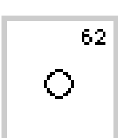
59 直線縫いボタンホール
ボタンホールの準備縫いに、ポケットの開口部に。



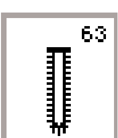
60 ボタン付け
二つ穴、または四つ穴のボタン付けに。



61 ジグザグ・アイレット
紐穴や、リボンやバンド穴、飾り縫いに。



62 直線アイレット
紐穴や、細いリボン穴に。

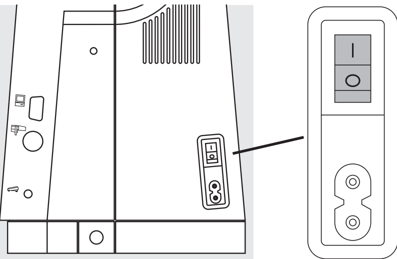


63 手縫い風ボタンホール
薄手から中位の織地に。ブラウス、ドレス、レジャーウェア、寝具等。

ボタンホールの詳細については、ソーイングマニュアルの 21-30 ページをご覧ください。

スクリーン操作

アーティスタは外部操作ボタンとつまみ、及びタッチスクリーンの両方で操作します。



ミシンの電源を入れる

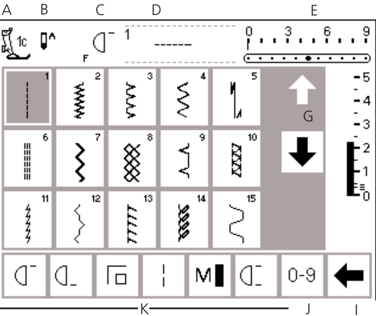
- スイッチの≪ Ｉ ≫を押してオンにします。



*Welcome*メッセージが約３秒間画面に表示されます。

- *Welcome*

このスクリーンはセットアップ機能で出さないようにすることも出来ます。

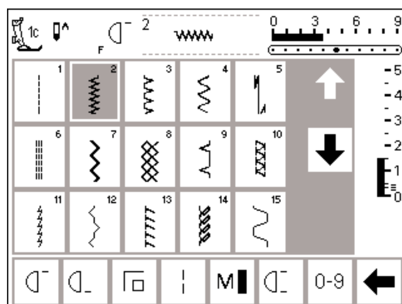


実用縫いスクリーン

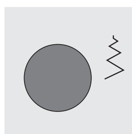
- Welcome メッセージが消えると実用縫いスクリーンが表示されます。
- スクリーンには次の情報が含まれています。

A 基本の押え金の表示
B 針上下停止位置表示
C ≪F機能≫ボタンにセットされた機能の表示
D 選択した模様の番号
E 振り幅（基本セッティングが点滅）
F 針基線（11ポジション）
G 画面スクロール上下矢印
H 送り長さ（基本セッティングが点滅）
I 機能スクロール用矢印
J 選んだ模様は黒く強調して表示されます。
K 機能ツールバー

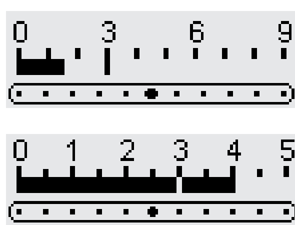
スクリー-ン操作、模様の選択、模様の表示、機能の選択



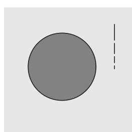
模様の選択
- 縫いたい模様ボタンをタッチして選びます。
- 選んだ模様が黒く強調されて表示されます。
- すべての模様には番号がついています。



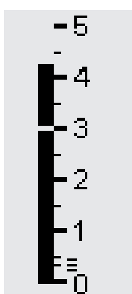
振り幅の調節方法
ミシンパネル右上の一番上のつまみを回します。



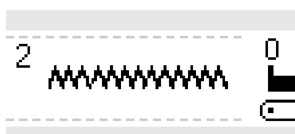
- 変更した振り幅が画面の中の振り幅表示に現われます。
- 基本セッティングが点滅しています。
- 変更された模様のセッティングで表示されます。
- センサー付きの押え金を使用すると自動的に振り幅を最大9ミリにセットします。
- センサーのついていない押え金を使うと自動的に最大振り幅が5．5ミリにセットされます。
- 画面上の振り幅表示も押え金のタイプに合わせて9ミリ、または5ミリ表示に切り替わります。



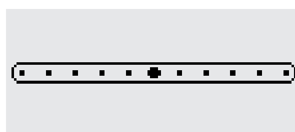
送り長さの調節方法
- ミシンパネル右上の上から2番目のつまみを回します。

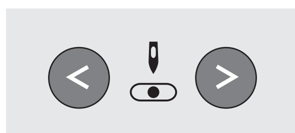


- 変更した送り長さが画面の中の送り長さ表示に現われます。
- 基本セッティングが点滅しています。
- 送り長さは、通常0mmから5mm の間で変更できます。



選択した模様の表示
- 模様番号が画面上部に表示されます。
- 選んだ模様が変更された振り幅や送り長さと一緒に画面上に表示されます。
- 表示されるサイズは原寸大ではありません。

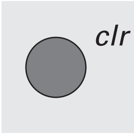




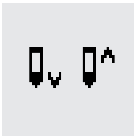
針基線の移動
- 左（ ＜ ）、または右（ ＞ ）の針基線ボタンを押します。
- 一回押すたびに、針基線が一つずつ移動します。



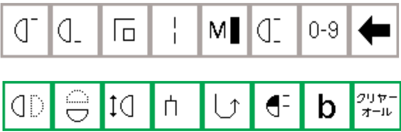
基本押え金表示
模様に適した基本の押え金がスクリーン左上に表示されます。



基本セッティングに戻す
- 外部プッシュボタン≪clr≫を押します。
- 模様などが基本セッティングに戻ります。



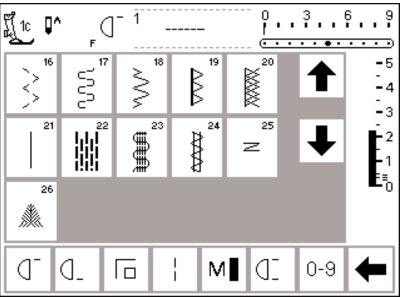
針上下停止位置表示
- 針上下停止機能プッシュボタンを押します。
- 上または下向きの矢印が表示されます。
- 矢印が下に向いていると、ミシンは常に針が下に下りた状態で止まります。
- もう一度押すと、矢印が反対に向きます。



機能の選択方法
- 選びたい機能ボタンにタッチ。
- 機能が起動してボタンが黒く表示されます。（同時にいくつもの機能を起動することも出来ます。）
- 画面に表示されていない機能を探すには機能ツールバー右端のスクロール用矢印≪←≫をタッチします。
- 必要に応じて他の機能も起動してみてください。
- スクロール用矢印をタッチして他の機能を画面に表示します。
- 機能ツールバーは後述のセットアップ機能で自分に使い易くセットできます。
- 機能ツールバーについての詳細は、24～31 ページをご覧ください。

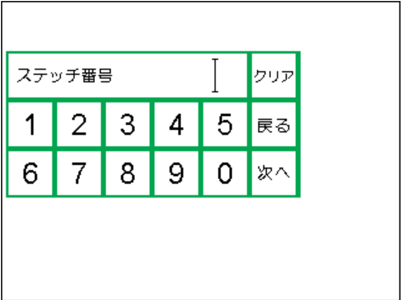
模様の選択方法

ステッチは、以下にあげる 2 つの方法のどちらを使っても選択することができます。



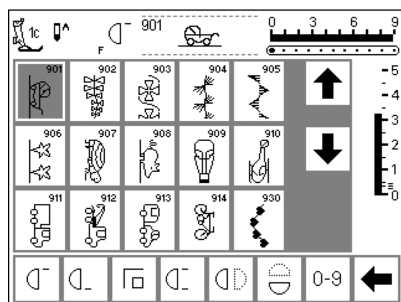
画面のスクロールにより直接選択する方法

- 画面右のスクロール用矢印≪↓≫（下向き）を一回タッチして下さい。
- 最上段の模様の行が消えて、下から新しい模様の行が現われます。
- 今度はスクロール用矢印≪↑≫上向きを一回タッチして下さい。
- 最上段が再び現われて、最下段スクリーンから消えます。
- 押し続けると画面上の模様が下から上に移動します。
- 上下のスクロール機能は、ステッチを見つけやすくするためについています。
- ステッチを目で探す場合に使います。
- お目当てのステッチが見つかったら、タッチして選択します。



模様を番号で選ぶ方法
- 画面下の機能ツールバーで模様番号選択機能≪0-9≫をタッチします。
- 画面が模様番号選択機能の画面に変わります。
- 選びたい模様の番号の数字ボタンをタッチして入力します。
- 画面上に入力した番号が表示されます。

入力の訂正方法
- 間違って番号を入れたり、番号を変更したい時は、«クリア»ボタンをタッチします。
- カーソルが左に移動して下の桁から一つずつ数字を消します。
- 正しい番号を入力します。



番号を確認して次の画面へ

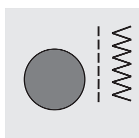
- ≪ｏｋ≫ボタンをタッチして確認します。
- ≪ｏｋ≫ボタンをタッチして模様画面を表示します。
- 番号で選んだ模様が黒く強調されて表示されます。

キャンセルして元の画面へ戻る

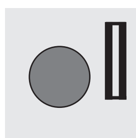
- ≪戻る≫ボタンをタッチします。
- 元の画面が現われます。
- 番号で入力した模様はキャンセルされました。

ご注意！
模様にない番号を入力しても画面は反応しません。

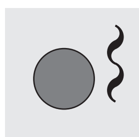
模様メニューの操作方法



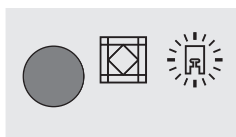
実用縫いステッチ



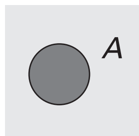
ボタンホール



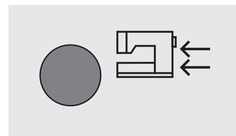
飾り縫いステッチ



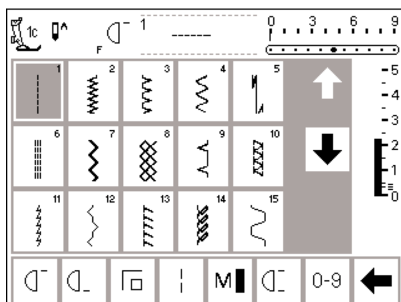
パッチワーク・キルト・横送り縫い



文字・数字

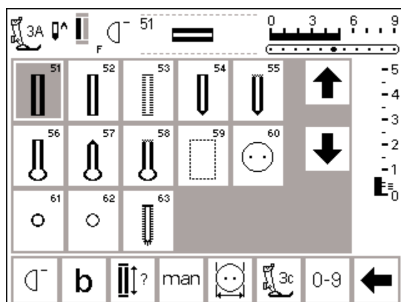


刺しゅうモード



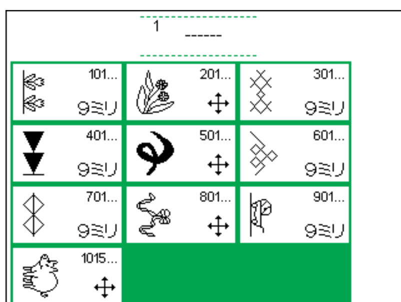
実用縫い模様メニュー

- 実用縫い模様画面が現われます。
- 直線縫いが自動的に選ばれています。
- 画面には15種類の模様が表示されます。
- 他の模様を画面に表示するにはスクロール矢印をタッチします。



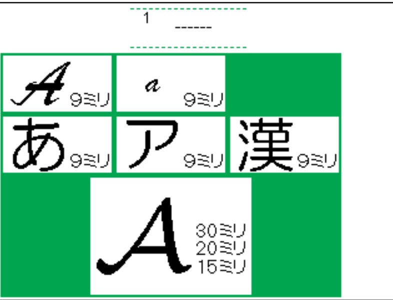
ボタンホール メニュー

- ボタンホールメニュー画面が現われます。
- アイレットや、ボタン付けプログラムも含まれています。

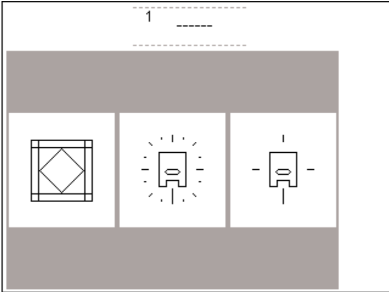


飾り縫い模様メニュー

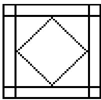
- 飾り縫い模様メニュー画面が現われます。
- 模様パターンやサイズを選べます。
- 9ミリの飾り縫い模様です。
- 横送り模様にはクロスの矢印が表示されています。
- 模様ボタンをタッチして選びます。

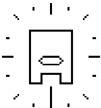


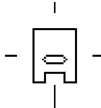
文字メニューボタン
- 文字メニューガ現われます。
- 縫いたい文字ボタンをタッチして選びます。



キルティングステッチ／横送り模様メニューボタン
- 三種類の画面が現われます。
- 縫いたい画面のボタンをタッチします。
- 各カテゴリーの模様画面が現われます。


キルティングステッチ


16 方向縫い

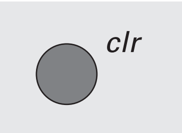

4 方向縫い

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

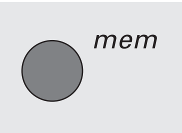
セットアップメニュー
- セットアップメニューボタンを押します。
- メニュー画面が現われます。
- ご自分のご使用に便利なようにセットアップ機能を使って編集します。
- 模様や機能を組み合わせて編集できます（マイスクリーンセッティング）。
- マイスクリーンセッティングを恒久的に保存できます。

保存したマイスクリーンセッティング画面から自在に操作が可能です。
不要になればいつでも基本セッティングに戻せます。

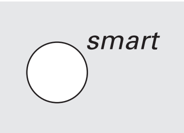
外部機能ボタンの解説



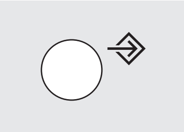
≪clr≫クリアボタン
- clrボタンを押します。
- 振り幅、送り長さ、針基線、糸調子およびバランスが基本セッティングに戻ります。
- ほとんどの機能がキャンセルされます。



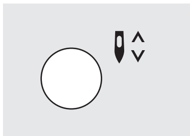
≪mem≫メモリーボタン
- memボタンを押します。
- メモリーがオープンされ、画面上にメモリー域が現われます。
- 画面上の三段目の模様表示がメモリー域に置き換えられます。
- memボタンをもう一度押すとメモリー域が画面から消えます。
- 詳細はメモリーの章をご参照下さい。



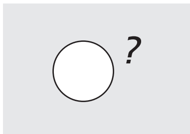
≪smart≫スマート機能ボタン
- smartボタンを押して下さい。
- 画面で使っているそのままの状態（振り幅、送り長さ、針基線、糸調子およびバランスを変更した状態）でステッチ／機能を保留します。
- 別のステッチを選んで、縫って下さい。
- smartボタンをもう一度押して、先ほど保留したステッチを呼び戻します。
- このようにして、smart機能を使って、同時に異なるマルチソーイングをこなせます。



≪セットアップ≫機能ボタン
- セットアップ機能ボタンを押します。
- セットアップメニュー画面が現われます。
- ご自分で使いやすく、便利なように機能やステッチをセット出来ます。
- 頻繁に使うステッチや機能を自分の画面に集約してマイスクリーン画面（マイ スクリーン）を構成することも可能です。
- セットアップ下状態で保存することも可能です。
- 基本のセッティングに戻すことも出来ます。

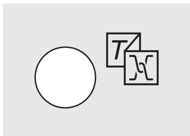


針上下停止位置選択ボタン
- ボタンを押します。
- 画面上の矢印の向きが変わります。
- この矢印のむいている場所で針は止まります。
- もう一度ボタンを押すと画面上の矢印の向きが変わります。

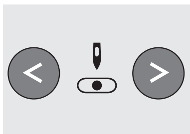


≪？≫ヘルプボタン
- ヘルプボタンを押します。
- 次に画面上の模様ボタンや機能ボタンをタッチしてみてください。

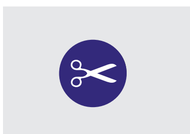
タッチした模様や機能の解説が画面に表示されます。



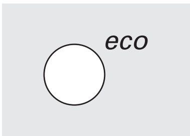
オン・ボード・マニュアル
- ボタンを押します。
- 次の三種類のメニューが画面に表示されます。
  1）糸調子
  2）チュートリアル（説明書）
  3）ソーイングコンサルタント（布、糸、針、縫い方、自動糸調子等の解説）
- 画面をタッチして選びます。
- 選んだ解説が画面上に現われます。



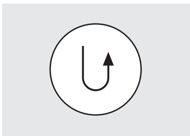
針基線選択ボタン
- 左、または右のボタンを押します。
- 針基線が選んだ方向へ移動します。
- 全部で11個の針基線があります。左右にそれぞれ5個および中央部分となります。



自動糸カッター
- 糸カッターボタンを押してください。
- 上糸および下糸を、自動的にカットできます。



≪eco≫機能ボタン
- eco機能ボタンを押します。
- 機能を一時的に停止し、使用電力を50%節減します。
- 長時間にわたって、作業の中断を余儀なくされた時などに便利です。
- すべてのセッティングはそのまま保留されます。
- スクリーンセーバーが起動して、画面を暗くします。
- 作業を再開するには、ecoボタンをもう一度押すだけです。



手元返し縫い機能ボタン
- フットコントローラーを踏んだままでボタンを押します。
- 縫い始めや縫い終りに止め縫いします。
- 押している間返し縫いを続けます。
- ボタンホールのサイズをプログラムするのにも使います。
- 自動つくろい縫いで長さをプログラムするのにも使います。
- 自動直線止め縫い＃５のステッチでもスイッチとして使います。
- 刺しゅう機（別売りオプション）を接続時には、スタート、ストップボタンとして機能します。



≪F≫（お好み機能）ボタン
- このボタンはいかようにも、ご自分の好みの機能をプログラムして使うことが出来ます。
- キャンセルすることも、何度でもプログラムし直すことも可能です。
- 詳しくは、セットアップの章をご参照下さい。

オン・スクリーン機能

画面上に配備された機能は、タッチセンサーで起動でき、起動中の機能は黒く強調されて表示されます。

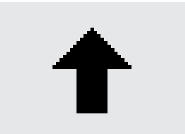
選んだ機能をキャンセルするには、個々の機能のボタンを再度タッチするとキャンセルできます。

«ｃｌｒ»クリアボタンを押せば、以下の例外機能を除くすべての起動中の機能が一度にキャンセルできます。

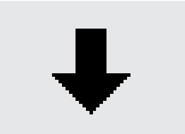
例外の機能：
針上下停止位置／ソーイングスピード／2本針振り幅限定機能
これらの機能は、常に個々にキャンセルします。

一般的な機能

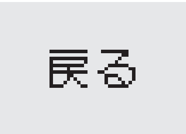
次の標準的な機能が画面に表示されます。
いろいろな作業に使いますので、以下に説明します。



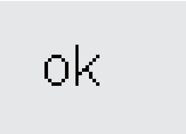
上にスクロールする
- 何度かタッチします。
- 画面が上にスクロールします。



下にスクロールする
- 何度かタッチします。
- 画面が下にスクロールします。



«戻る»ボタン
- «戻る»ボタンにタッチします。
- 機能の完了や画面の終了を指示します。
- 以前の画面に戻ります。



≪OK≫ボタン
- タッチして調節や選択を確認します。
- プログラムされた調節や選択内容を縫う用意が完了しています。

機能ツールバー

以下の機能が、各種模様縫い画面の下に常に表示されています。8種類以上の機能（ただしメモリーを使っているときは4種類）が機能ツールバーにセットされている場合は、残りの機能ボタンは隠れています。その場合は、画面下右端の矢印をスクロールすると、隠れているボタンを表示することができます。隠れている機能が起動しているときには、矢印が点滅しています。

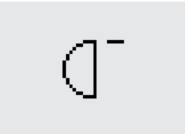


実用縫い用の機能ツールバー

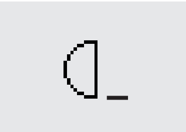


矢印でスクロールして表示します。

注意;
スクロール用の矢印と0—9（模様番号で選択する）ボタンは、常に画面に表示されますので、いつでも使用することができます。合計8個の機能（メモリー使用中は4個）が、画面に表示されます。



模様頭出し機能
- 機能ボタンにタッチして起動します。
- 針目を模様やメモリーの内容の先頭に戻します。
- ボタンは２～３秒間黒くなって、元に戻ります。

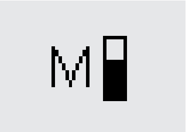


一模様縫い機能
- 機能ボタンをタッチして起動します。
- 1つのパターンまたは組み合わせに含まれる指定した一部分を縫い終わると、ミシンが自動的に停止します。



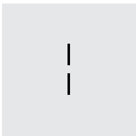
一点止め縫い機能
- 機能ボタンをタッチして起動します。
- ステッチの縫い始めと縫い終わりを 4 針で一点止め縫いします。
- メモリーと一緒に使うとメモリーの内容の縫い始めと縫い終りで止め縫いします。

適用：
- 飾り模様を使ってモチーフを縫う時
- 個々の文字を縫う時
- 文字とステッチを組み合わせて縫う時



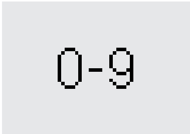
ソーイングスピード選択機能
- 機能ボタンを一回ずつタッチすると、1/4、2/4、3/4、4/4の表示が現われ、最高スピードを制御します。
- 各スピード域でのトップスピードを、各225針、450針、675針、900針 / 分にコントロールします。

適応：
- 刺しゅうなどの細かい複雑な作業での正確なスピードコントロールに。
- フリーハンドキルティングなどに。
- お子様の実習に。



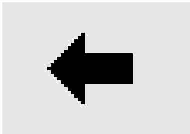
ロングステッチ機能
- 機能をタッチして起動します。
- ミシンは2針に一回縫います。(5ミリの送り長さの縫い目では10ミリで縫えます)。
- いろいろなステッチとの組み合わせが可能です。

適用:
- 直線縫いでしつけ縫いに。
- トリプルステッチ直線と使ってトップステッチに。



ステッチ番号で模様を選択
- 数字の表示にタッチします。
- 適当な数字の組み合わせにタッチしてステッチを選択します。

応用:
- 各ステッチをすばやく選択できます。
- メモリーへの入力もすばやく処理できます。

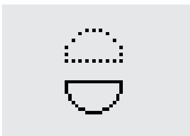


機能スクロール

一回ずつ、またはタッチしつづけると、

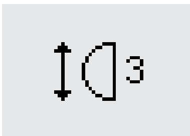
と機能を見て調べることができます。

応用:
- 使用できる機能をすべて見てみましょう。
- 個々のモチーフやメモリーにあるステッチと機能を組み合わせてみましょう。



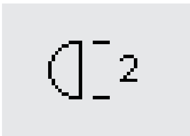
模様反転機能ー上下
- 表示にタッチします。
- 選択したステッチが上下の反転模様で縫えます。

応用:
- 装飾縫い
- メモリーを使ったパターンの組み合わせ



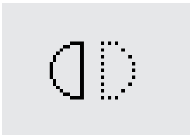
模様拡大機能2ー5倍
- 一回、または何度かタッチします。
- 選択したステッチによって2ー5の数字が出ます。
- 選択したステッチの長さを2ー5倍に長くすることができます。
- 拡大したステッチでメモリーにプログラムできます。

応用:
- いろいろなステッチを拡大してみましょう。
- ステッチを組み合わせて、メモリーに保存できます。

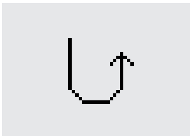


一模様縫い機能1ー9
- 繰り返し縫う回数をボタンにタッチして、数字を選択して下さい。
- 1=各ステッチ、または一組のステッチが終わるたびにミシンが停止します。
- 2~9=ステッチや一組のステッチが選択した回数だけ繰り返された後にミシンは停止します。

応用:
- 各モチーフを縫います。
- 実用縫いと4方向縫いを組み合わせます。
- メモリーに保存したパターンを、選択した回数縫うことができます。

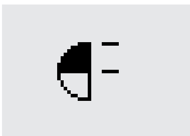


模様反転機能ー左右
- 表示にタッチします。
- 選択したステッチが左右の反転模様で縫えます。



連続返し縫い機能
- 表示にタッチします。
- 連続して返し縫いで縫えます。

応用:
- 直線縫いかランニングステッチでかがってみましょう。
- 袖やズボンに装飾縫いをしてみましょう。



1/2 模様機能
- 表示にタッチします。
- ステッチパターンの半分のところでミシンが停止します。

応用:
- 角の仕上げに。
- 新しいパターンを作りましょう。

二本針の制限
- 何度かタッチして 2 から 8 のうちの数字を選択します。
- 数字は針と針の間の距離をミリ単位で表しています。
- ステッチの幅は、自動的に制限されています。
- こうして、針が押え金や針板に当たったり、針折れが起こるのを防いでいるのです。

応用：
- ピンタックを縫ってみましょう。
- ニットの縁かがりをしてみましょう。
- ヘムステッチを試してみましょう。
- 装飾縫いをしてみましょう

バランス
- 表示にタッチしてバランス画面を開きます。
- 前進と返し縫いのステッチバランスを修正します。
- 横送り縫いのステッチを修正します。

応用：
- たとえばネットステッチのような実用縫いのステッチを減らしたり増やしたりしてみましょう。
- 装飾縫いー新しく見えます。
- 違う生地にボタンホールを合わせてみましょう。
- 違う生地に横送り縫いのステッチを合わせてみましょう。

クリアオール機能
- セットアップ機能で変更された機能以外はすべてクリアして標準セッティングに戻します。
- 連続返し縫い機能
- 一模様縫い機能
- 左右模様反転機能
- 模様拡大機能
- 送り長さ
- 針基線
- 2本針振り幅制限機能
- 針停止位置機能
- 文字サイズ
- ボタンホールメモリー
- ロングステッチ機能
- 一点止め縫い機能
- 上下模様反転機能
- バランス機能
- 振り幅
- 1/2 模様機能
- ウィング針振り幅制限機能
- ソーイングスピード限定機能
- モノグラムサイズ機能
- 糸調子調節機能

注意;
さらに、上糸調子の調節とウィング針振り幅制限機能の2つを、セットアップ機能の編集画面で、機能ツールバーに指定することができます。（詳しくはセットアップ機能の項目をご覧ください。）

セットアップ機能

次の機能がセットアップ・プログラムに用意されています。ソーイング画面で使用することができますが、特に指定しないかぎり、画面下のツールバーに表示されることはありません。

詳しくは、セットアップ・プログラムの項目をご覧ください。

マイスクリーン機能
- ボタンにタッチします。
- 画面が表示されます。

使い方
- よく使う模様をまとめておくと便利です。

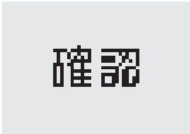
ヘムステッチ（ウィング）針
- ヘムステッチの表示はセットアップで組み込めます。
- ステッチの幅は自動的に制限されています。
- こうして、針が押え金や針板に当たったり、針折れが起こるのを防いでいるのです。

糸調子の調節
- **ツールバーにはセットされていません。**
- セットアップ・プログラムでツールバーに表示するよう指定できます。
- ボタンをタッチすると、画面が開きます。
- 選んだステッチのテンションのみを調節できます。
- テンションの変化を画面上で見ることができます。
- 標準セッティングは、細線で表示されます。
- **≪リセット≫**をタッチすると、標準セッティング（工場出荷時の設定またはセットアップ画面で指定した値）に戻ります。

応用：
- ヘムステッチを試してみましょう。
- 装飾縫いをしてみましょう。

メモリー操作機能

外部メモリーボタンを押してメモリーを起動させると以下のような機能ボタンが画面下部に表示されます。



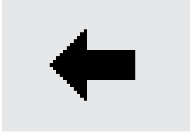
チェック
・ 表示にタッチします。
・ メモリーの内容が表示されます。

応用:
・ メモリーの内容をチェックしたり訂正したりしましょう。

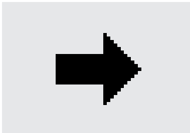


削除
・ 表示にタッチします。
・ カーソルの左側で各ステッチや文字を削除します。
・ ステッチの組み合わせを削除します。

応用:
・ メモリーの訂正ができます。
・ メモリーの内容を完全に削除します。



左にスクロール
・ 何度か表示にタッチします。
・ メモリーの内容が後ろからスクロールします。



右にスクロール
・ 何度か表示にタッチします。
・ メモリーの内容が前向きにスクロールします。



メモリーの選択
・ 開いたメモリー域は数字で表示されます。
・ メモリーバンクの内容を表示するには、チェックを押します。
・ ≪戻る≫ボタンにタッチしてメモリーを閉じます。
・ メモリー操作を終わるには、画面右横の≪mem≫ボタンを押します。

応用:
・ メモリーで作業します。
・ ステッチの組み合わせを保存します。



保存
・ 表示にタッチします。
・ 各ステッチ、ステッチの組み合わせ、文字等を保存します。
・ メモリーは閉じられます。

応用:
・ メモリーにプログラムした内容を保存しましょう。

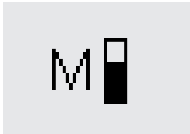


メモリーの内容を編集
・ 表示にタッチします。
・ メモリーバンクをスクロールして、編集したいステッチを選択します。
・ 変更したい機能を選択します。送り長さ、振り幅、針基線、ソーイングスピード、ロングステッチ、糸調子、反転模様、拡大模様およびバランス等を変更できます。
・ コンビネーションに止め縫い機能を追加したり、メモリーバンクに分割機能を追加することもできます。

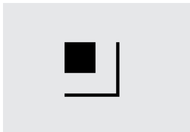
応用:
メモリーの内容を訂正したり変更したりしてみましょう。

メモリー編集機能

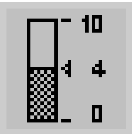
«**編集**»ボタンをタッチすると、画面中央にメモリーの編集画面が表示されます。«編集»を起動すると、«削除»を除く機能ツールバーの機能は、«編集»を閉じるまでは休眠状態になり、使えません。



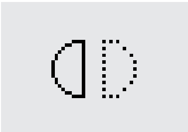
ソーイングスピード選択機能
・ 機能ボタンをタッチすると、スピードを選択できます。
・ 選択したスピードが表示されます。
・ 最高速度は、900針/分です。(セットアップ・プログラムで速度変更をしている場合は、この限りではありません。)
・ ソーイングスピードを、1回1/4ずつ増減することができます。



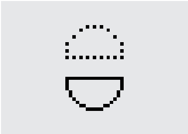
一点止め縫い機能
・ 表示にタッチします。
メモリーで、ステッチとステッチの間に行うよう、組み込んでおくことができます。



上糸調子の調節
・ ボタンを押すと、テンション画面が表示されます。
・ テンションの変更は、その場で選択されているステッチのみに影響を与えます。
・ 変更は、画面に表示されます。
・ 標準設定もまた、画面に表示されます。
標準設定(工場出荷時の設定、またはセットアップ画面で設定した値)に戻すには、≪**リセット**≫をタッチします。



模様反転機能ー左右
・ ボタンをタッチします。
・ 選択したステッチが、左右反転した状態で縫えます。
・ 変更は、画面に表示されます。



模様反転機能ー上下
・ ボタンをタッチします。
・ 選択したステッチが、上下反転した状態で縫えます。
・ 変更は、画面に表示されます。

メモリーの分割
- ボタンをタッチします。
- メモリーの内容は、最高255個のセクションに分かれています。
- メモリーのセクションは、どれも好きなように分割することができます。
- すべてのセクションを合計すると、1023個のステッチをメモリーに保存することができます。

模様拡大機能2—5倍
- 好きな回数タッチします。
- 選択したステッチにより、2～5までの数字が表示されます。
- 選択したステッチの送り長さが、2倍から5倍の大きさになります。
- ステッチの数（密度）には、影響はありません。
- ステッチの拡大は、メモリーにプログラムすることができます。

バランス
- 表示にタッチして、バランス画面を開きます。
- 前進および返し縫いのステッチのバランスを修正します。
- 横送り縫いのステッチを修正します。

ロングステッチ機能
- ボタンにタッチします。
- 2針に1回、縫います。最大10mmの長さのステッチが可能です。

文字サイズ
- 好きな回数タッチします。
- 画面の半分が、ハイライトで強調されて表示されます。
- 大きなAがグレーで強調されている時は9mm、小さなAの場合は6mmとなります。

モノグラムのサイズ
- モノグラムを選択すると、編集画面で、文字サイズの代わりに表示されます。
- モノグラムでは、サイズ1で、30mmを指します。（自動的に設定されます。）
- ボタンを押すと、中央の部分が起動します。（2で、20mmを指します。）
- もう一度ボタンを押すと、右側の部分が起動します。（3で、15mmを指します。）

ボタンホールプログラム機能

ボタンホールを選択すると、以下の機能がツールバーに表示されます。

ボタンホールの長さーサイズを直接入力する
- 表示にタッチしてサイズ入力画面を開きます。
- ボタンのサイズをミリで入力します。
- 長さがボタンホール表示の右側に出ます。
- ボタンの厚みを考慮して自動的に 2 ミリ加算されボタンホールを縫います。

応用:
- もしボタンのサイズを知っていたら素早く便利です。

ボタンホールの長さー画面上で測る
- 表示にタッチして測定画面を開きます。
- ボタンを画面の左下の隅に軽く押し当てて測ります。
- ボタンホールの長さは、ボタンの厚みを考慮して自動的に 2 ミリ加算してプログラムされます。

応用：

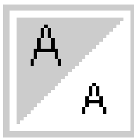
ボタンホールのサイズを決定するのに便利で簡単な方法です。

手動式のボタンホール
- 表示にタッチします。
- 手順に従います。（ボタンホールのタイプによって 4—6 ステップ）

応用:
- 個別に手動でボタンホールを縫う時に
- ボタンホールの修繕に

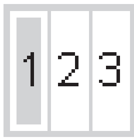
ステッチカウント式ボタンホール
- ボタンホールを選択します。
- 表示にタッチします。
- ステッチカウント式ボタンホールが起動します。

以下に挙げる機能の中には，文字，数字，モノグラムが選択されているときにはいつでも画面左下に表示されるものが含まれています。その場合、ツールバーに通常表示されている機能が 1 つ、隠れて表示されないようになります。



文字のサイズ
- 文字または4種類の字体からどれか1つを選択していると、画面左下に表示されます。
- 何回かタッチしてください。
- 画面の半分がハイライトで強調されて表示されます。
- グレーでハイライト表示されている方が、適用される文字サイズとなります。大型は 9 mm、小型は 6 mmです .

適用
- サイズの変更。
- サイズの変更をメモリーするとき。



モノグラムのサイズ
- モノグラムを選択すると、編集画面で、文字サイズ機能の代わりに表示されます。
- 何回か押して、選択してください。
- 選択した回数が、ハイライト表示されます。
- モノグラムのサイズは、1番=30mm、2番=20mm、3番=15mmです。

適用
- サイズ変更をするとき。

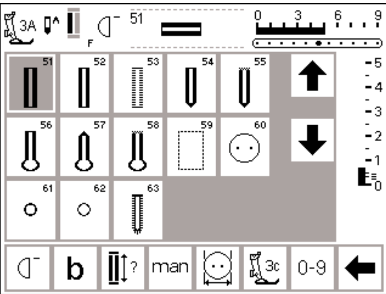
オンスクリーン· メッセージ

操作中に必要が生じた場合、画面に次のようなメッセージが表示されることがあります。これらは、使用中のステッチおよび機能に関するお知らせ、警告または確認等です。ここでは、ミシンの操作に関するものおよびその対処方法のみをご紹介しておきます。(刺しゅう機に関しては、刺しゅう用マニュアルをご覧ください。)

メッセージ内容	対応処理
「下糸を確認してください。」	下糸がなくなっていないか確認します。必要ならば、新しく巻き取り、ボビンを交換してください。交換するまでミシンは動きません。
「上糸を確認してください。」	上糸がなくなったり、切れたりしていないか確認します。必要ならば、糸を交換してください。交換するまでミシンは動きません。
「糸巻きがオンになっています。」	下糸巻取装置がオンになっていないか確認します。もしオンになっている場合には、フットコントローラーは使えず、ミシンは動きません。すぐにオフにしましょう。注意; このメッセージは、下糸を巻き取っているときにも表示されます。画面をクリアするには、« 戻る» をタッチしてください。
「このメモリーの内容を削除しますか?」	メモリーからステッチや機能を削除するときに、確認のため表示されます。« OK » をタッチすると、削除できます。« 戻る» を押せば、削除されません。
「マイスクリーンのメモリーがいっぱいです。」	新しくステッチを保存するには、どれか保存されたステッチを 1 つ削除する必要があります。
「メモリーがいっぱいです。」	新しくステッチを保存するには、どれか保存されたステッチを 1 つ削除する必要があります。
「この機能はマイスクリーンには登録できません。」	多方向縫いのステッチおよびモチーフ(4 方向縫い、16 方向縫いおよび文字)は、マイスクリーンに保存できません。他のメニューから、他のステッチを選択してください。
「メモリーには何も保存されていません。」	まずデザインを保存してください。その後、縫うことができます。
「メインドライブに問題が生じました。回転釜をチェックしてください。」	電源を切って、釜周辺に詰まっている糸クズを取り除いてください。

ボタンホール

ボタンホールは装飾的な効果にも使うことができる実用的なステッチです。アーティスタ185では幅広い選択肢をご用意いたしました。すべてのボタンホールは、さまざまな方法でプログラムして縫うことも可能です。



ボタンホール / ボタン付けプログラム / アイレット

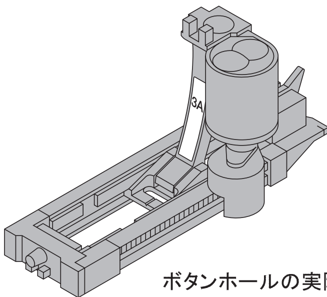
- 画面右横にあるボタンホール用の外部ボタンを押します。
- 画面にはボタンホールとアイレットの全種類の概観が表示されます。

51 標準タイプバータック
52 標準タイプ（幅小）–（エアローム）
53 標準タイプ伸縮地用
54 ラウンドエンド標準タイプ（標準バータック付）
55 ラウンドエンド標準タイプ（水平バータック付）
56 はと目（標準バータック付）
57 はと目（扇型バータック付）
58 はと目（水平バータック付）
59 直線縫いボタンホール
60 ボタン付けプログラム
61 ジグザグアイレット
62 直線縫いアイレット
63 手縫い風ボタンホール

ボタンホール／ボタン付けプログラム／アイレットの選択

- 選んだボタンホールをタッチします。
- 選んだボタンホール、アイレットまたはボタン付けプログラムが起動します。

自動式標準と伸縮ボタンホール（自動長さ調節）

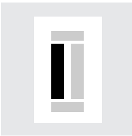


ボタンホールの実際の縫い方は。ソーイングの部の25ページを参照。

穴かがりは左右両方とも同じ方向に縫われます。
ご注意！
布ガイド付きボタンホール押え＃3Cは生地の上に平らになるようにして下さい。つまり、縫い代の折り返しの上に置いたりしないように。さもなければ、長さを正確に測ることができないからです。

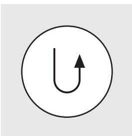
自動式ボタンホール

- ボタンホール押え＃3C についているセンサーが自動的に長さを測定します。
- ボタンホールの長さはすべて 4－29 ミリです。



最初の穴かがりを縫う

- 縫う場所が画面に表示されます。（押え金表示の右側）
- 最初の穴かがりを前進で縫い、適当な長さでミシンを止めます。



ボタンホールをプログラムする

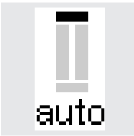
- ≪手元返し縫い≫ボタンを押します。
- 画面のボタンホールの表示に自動<auto>と出ます。＝ 長さがプログラムされました。

ミシンは自動的に直線で返し縫いします。

ボタンホール高さ調節板（オプション）

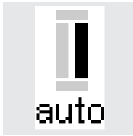
段差のある部分に＃3A の押え金を使ってボタンホールを縫うときは、高さ調節板を使うとスムーズに縫うことが出来ます。





自動縫いボタンホール

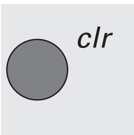
- 上の環止めを自動的に縫います。
- 次に自動的に右側の穴かがりを前進縫いで縫います。





自動縫いボタンホール

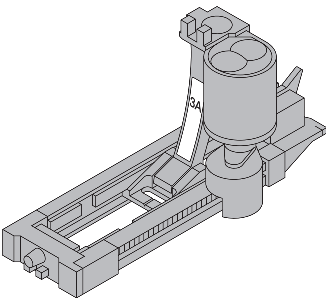
- 下の環止めを自動的に縫います。
- 自動的に止め縫いをします。
- 自動的にミシンは停止し、ボタンホールの縫い始めに戻ります。
- 続けて縫うときは同じ長さで自動的に縫えます（2 度目からは止め縫いボタンを押しません。）



ボタンホールのメモリーをクリアする

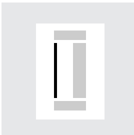
- 外部の≪ clr≫ クリアボタンを押すと画面上の≪ auto≫ の表示が消えて記憶したサイズをクリアします。

ボタンホールーラウンドエンド、キーホールおよび手縫い風の自動縫い



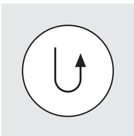
穴かがりは左右両方とも同じ方向に縫われます。

ボタンホールの長さを決定するために、穴かがりの長さのみを測ります。バータック部分やはと目部分は、それぞれに応じて自動的に設定されます。



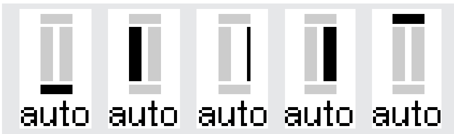
最初の穴かがりを縫う

- 縫う部分が画面に表示されます。(押え金表示の右側)
- 最初の穴かがりを縫って(直線縫い)、ミシンを止めます。



ボタンホールをプログラムする

- ≪手元返し縫い≫ボタンを押します。
- ボタンホール表示に自動≪auto≫と出ます。 ボタンホール長さがプログラムされました。

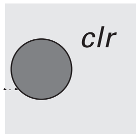


ボタンホールの自動縫い

- ラウンドエンドバータック部分、またははと目部分を自動的に縫います。
- 左側の穴かがりを自動的に後進で縫います。
- 上の環止めを自動的に縫います。
- 右側の穴かがりを自動的に前進で直線縫いします。
- 右側穴かがりを自動的に後進でジグザグ縫いします。
- 上の環止めを自動的に縫います。
- 止め縫いを自動的に縫います。
- 自動的にミシンは停止し、ボタンホールの縫い始めに戻ります。
- 続けて縫うボタンホールはすべて同じ長さに自動的に縫います。(手元返し縫いボタンを押す必要はありません。)

ご注意:
スクリーン上に表示されるボタンホールの形状は、はと目やラウンドボタンホールを選んでいても、いつも標準タイプのボタンホールが表示されます。

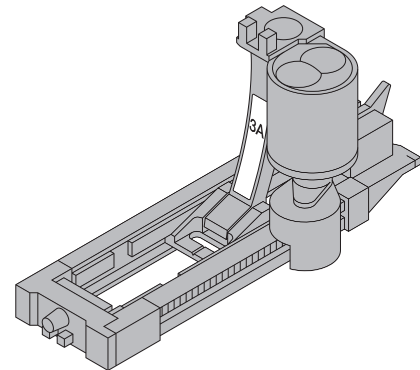
実際のボタンホールの縫い方はソーイングマニュアルの部の26ページをご参照下さい。



ボタンホールのメモリーをクリアする

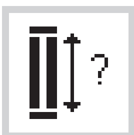
外部の≪clr≫クリアボタンを押すと画面上の≪auto≫の表示が消えて記憶したサイズをクリアします。

ボタンホール一指定した長さを自動縫い



縫いたいボタンホールのサイズが分かっているときは、ボタンホールの長さをミリ単位で入力できます。

自動ボタンホール押え#3A を使って、はと目ボタンホールを縫うときは、穴かがり部分の最大サイズは 24 ミリです。はと目部分は自動的に追加されます。



直接入力機能を選択する

- ボタンホール押え#3Cでサイズを指定したボタンホールを縫うことができます。
- ボタンホールを選択します。
- 画面下の機能ツールバーで≪?≫マークの付いたボタンホールマークをタッチします。

4-29ミリ				ミリ	クリア
1	2	3	4	5	戻る
6	7	8	9	0	次へ

長さを入力する

- 画面に0−9の数字表が表示されます。
- 数字でボタンホールの長さ(4−29 ミリ以内)を入力して下さい。(ボタンの厚みを考慮して自動的に 2 ミリが加算されます。)
- ボタンホール表示の右側に長さが出ます。

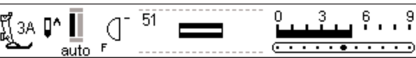
≪**ok**≫ボタンをタッチして確認すると、画面は自動的に変わります。

訂正

- 数字を間違えた時は、≪**クリア**≫ボタンで取り消しできます。

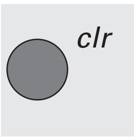
ボタンホールメニューにもどる

- ≪**戻る**≫をタッチする。



画面表示

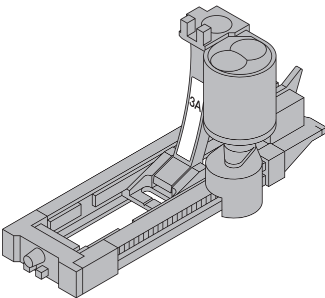
- 画面上部のボタンホールマーク表示の下に≪auto≫（自動）の表示が現われ、ボタンホール長さがプログラムされたことを示しています。



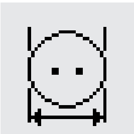
ボタンホールのメモリーをクリアする

- 外部の≪clr≫クリアボタンを押すと画面上の≪auto≫の表示が消えて記憶したサイズをクリアします。

ボタンホールーボタンサイズを実測して自動縫い（標準と伸縮地用ボタンホール）

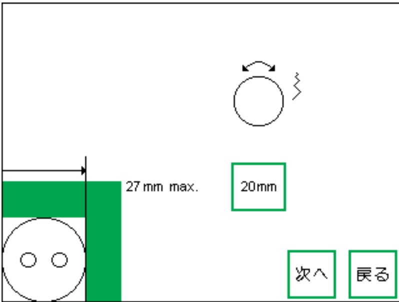


実際に使うボタンを画面に当ててボタンホールのサイズを測り決めることもできます。実寸がミリ単位で入力されます。



実測画面を開く

- ボタンホールを選択します。
- 画面下の機能ツールバーでボタンサイズ実測の機能ボタンをタッチ。



ボタンサイズを決定

- 測定画面が最大可能サイズの27ミリと一緒にスクリーンに表示されます。
- ボタン（4－27 ミリ）を測定画面の左下の隅に当てて押えます。
- 送り調節ボタンを使って測定画面の縦の実測線を移動させます。
- ボタンのちょうど右外側に線を合わせて下さい。
- ボタンホールの実測サイズが、たとえば 20ミリというように、スクリーン上に表示されます。

ボタンホールメニューにもどる

- ≪ok≫ボタンをタッチして確認し、ボタンホールの画面に戻ります。

ボタンホールのサイズ

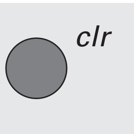
- ボタンホールのサイズはボタンの直径と厚みの合計により決まります。
- コンピューターはボタンの直径からボタンホールのサイズを計算します。
- ボタンの厚みを考慮して自動的に 2 ミリ加算されています。

厚みのあるボタンの場合の訂正

- たとえば浮き彫りボタン等のような特に厚みのあるボタンの時は、縦の実測線をボタンの端ぎりぎりでは測定しません。
- ボタンの厚みによって、ボタンの右端の 1－4 ミリ余裕をみて測定します。

お勧め

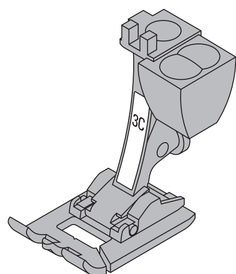
- 使用する布の端切れにボタンホールを試し縫いしましょう。
- ボタンホールを開けます。
- ボタンを穴に通してみます。
- 必要があれば、サイズを訂正して、実行します。



ボタンホールのメモリーをクリアする

- 外部の≪clr≫クリアボタンを押すと画面上の≪auto≫の表示が消えて記憶したサイズをクリアします。

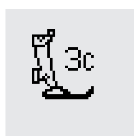
ボタンホールーステッチカウント式（全種類に対応）



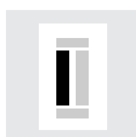
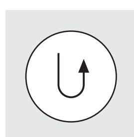
最初、左側の穴かがりは前進で、次に右側を後進で縫います。

押え金＃3C,又は＃3A を使って縫いますが、一定の速度で緩急無く縫うのがコツです。

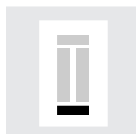
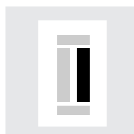
ステッチカウント式のボタンホールは、一度プログラムしても、生地が変わると、同じサイズのボタンホールでも、再度プログラムしなおしてください。



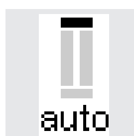
押え金
- ボタンホールを選択します。
- 画面下の機能ツールバーで ≪押え金 3C≫機能をタッチします。
- ステッチカウント式プログラムが選択されたことがミシンに登録されました。
- ボタンホールの長さが、ステッチの数で測られます。

左側の穴かがり縫い
- 最初の穴かがり縫いをし、ミシンを停止します。
- ≪手元返し縫い≫ボタンを押します。

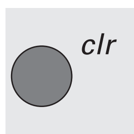



環止め、右側の次の穴かがり縫い
- 下の環止めを縫い、続いて後進で次の穴かがり縫いをします。
- 最初の穴かがり縫いの一針目にきたら、ミシンを止めます。
- ≪手元返し縫い≫ボタンを押します。



環止め、止め縫い
- 上の環止めを縫ったら、自動的に止め縫いをします。
- ミシンは自動的に停止します。
- 自動≪auto≫が画面に表示されます。
- ボタンホールがこれでプログラムされました。
- 続いてすべてのボタンホールをプログラム通りに自動で縫います。
- 一定のスピードで縫うように気をつけましょう。

再プログラム
- ステッチの長さ、幅、バランスを変更した時は、ボタンホールのプログラムをやり直して下さい。



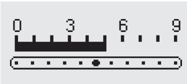
ボタンホールのメモリーをクリアする
- 外部の≪clr≫クリアボタンを押すと画面上の≪auto≫の表示が消えて記憶したサイズをクリアします。

実際の縫い方は、ソーイングマニュアルの部、27 ページをご参照下さい。

ボタンホール・調節方法(ステッチカウント式ボタンホール-全種類に対応)

一度記憶させたステッチカウント式ボタンホールに以下の調節を加えることが出来ます。この調節は電源を切るまで記憶されています。

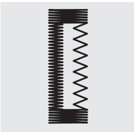
ボタンホールステッチの振り幅や送り長さを恒久的に調節したいときは、セットアップ・プログラム(59-72 ページ参照)で行います。



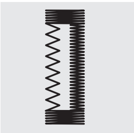
幅が広すぎるボタンホール
- ボタンホールの幅を狭める時は、ステッチの幅を狭くします。

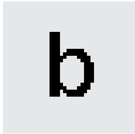


穴かがり縫いのステッチ密度
- 大体 2 ステップでステッチの長さを増減して調整しましょう。



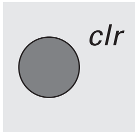
穴かがり縫いのバランス
- バランスは穴かがりや環止めの縫い目の密度に影響します。
- バランスは穴かがりとはと目にも影響します。





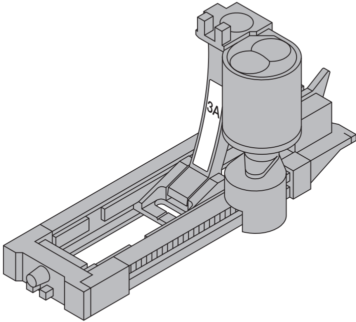
バランスの画面を開く
- ボタンホールを選択します。
- 画面下の機能ツールバーで≪b≫バランス機能をタッチします。
- バランス↑で密になります。
- バランス↓で粗くなります。

お勧め
- 常に使用する生地の端切れで試し縫いをしましょう。



バランス調整を削除する
≪clr≫か≪リセット≫のボタンをタッチします。

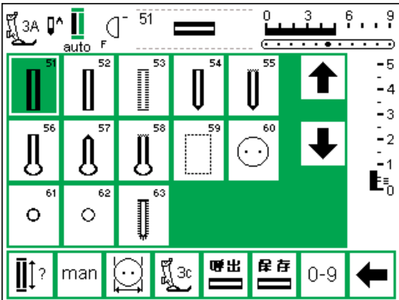
ボタンホール・サイズを保存するには



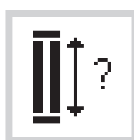
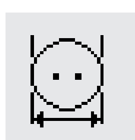
各ボタンホールをお好みのサイズで保存することが可能です。

恒久的にボタンホールサイズを保存するには、一度#3A の自動ボタンホール押えで実際に縫います。(詳しくは 32-34 ページ参照)

一度縫ったボタンホールサイズは、ツールバーの保存ボタンをタッチすると恒久的に保存できます。



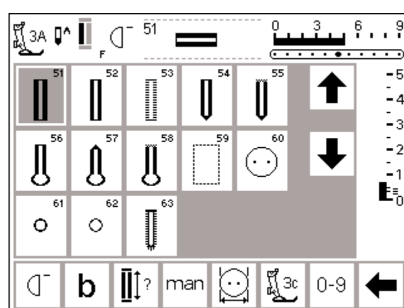
ボタンホールを保存する
- 32-34 ページの説明に従って、お好みのボタンホールを#3A の自動ボタンホール押えで一回縫います。
- 画面下のツールバーの保存ボタンをタッチすると保存できます。

保存したボタンホールを呼び出す
- ボタンホールを選択します。
- ≪ｍｅｍ≫ メモリーボタンを押します。
- ボタンホールのサイズ入力ボタン、又はサイズ測定ボタンをタッチして保存されているボタンホールを呼び出します。
- スクリーン上にサイズが表示されます。

保存されたボタンホールに変更を加える
- ボタンホールを選択します。
- ≪ｍｅｍ≫ メモリーボタンをタッチします。
- ボタンホールのサイズ入力ボタン、又はサイズ測定ボタンをタッチして保存されているボタンホールを呼び出します。
- 送り長さを変更して、ＯＫボタンをタッチします。
- ≪ 保存≫ ボタンをタッチします。
- 新しいサイズが上書き保存されました。

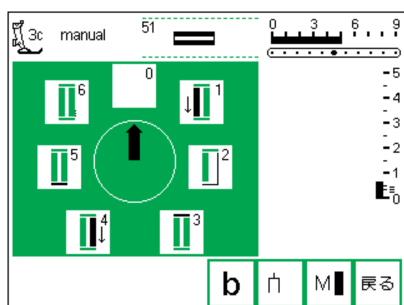
ボタンホール・ マニュアル式４ステップ、または６ステップ



マニュアル・ ボタンホールは一つだけ縫う時やボタンホールの修繕に便利です。
選んだボタンホールのタイプによりステップの数が決まります。
マニュアル・ ボタンホールはメモリーに記憶させることは出来ません。

ボタンホールの画面を選びます
- ボタンホールタイプを選択。
- 画面下の≪ｍａｎ≫ 機能ボタンをタッチする。

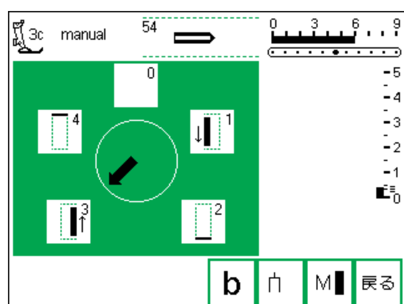
man



各ステップの画面表示
- 選んだボタンホールの各ステップが画面に表示されます。
- 標準ボタンホール ＝ 6ステップ
- ラウンドボタンホール ＝ 4ステップ
- 鳩目ボタンホール ＝ 4ステップ
- 中央の矢印は≪0≫を指しています

実際の縫い方は、ソーイングマニュアルの部、28 ページをご参照下さい。

ボタンホール・ マニュアルで４ステップを縫う（ラウンドおよびはと目）



メモ：
画面は標準ボタンホールの形で表示されます。

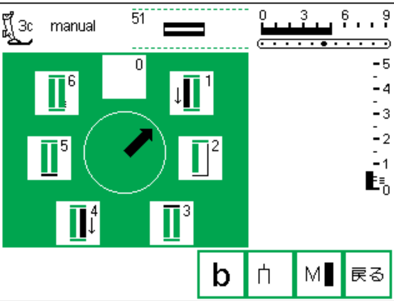
４ステップ・ ボタンホールを縫う
- “1”にタッチ。
- 左側の穴かがりを縫います。
- 適当な長さでミシンを止めます。
- “2”にタッチ。
- ミシンは円形の環止めあるいははと目を縫います。
- “3”にタッチ。
- 右側の穴かがりを後進で縫います。
- ミシンを縫い始めの位置で止めます。
- “4”にタッチ。
- 上部の環止めを縫い、止め縫いをして自動的に止まります。
- 穴かがりの長さは適当に決めてください。
- 環止め、はと目、止め縫いは自動で縫われます。
- ボタンホールを開ける前に、はと目部分をパンチで開けます。

ボタンホールを終了するには
- ≪ 戻る≫ ボタンをタッチします。
- ボタンホールメニュー画面に戻ります。

esc

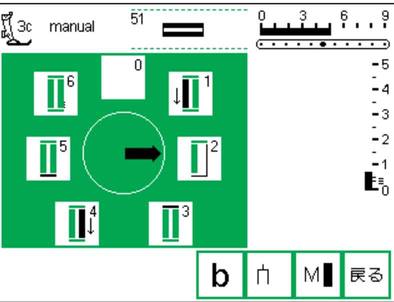
ボタンホール・ 6ステップを縫う

メモ：画面は標準ボタンホールの形で表示されます。



6ステップのボタンホールを縫う

- 画面の« 1» にタッチする。
- 矢印が縫うボタンホールの部分を指します。
- 最初に左の穴かがりを縫います。
- 適当な長さまで縫ってミシンを止めます。



6ステップのボタンホールを縫う

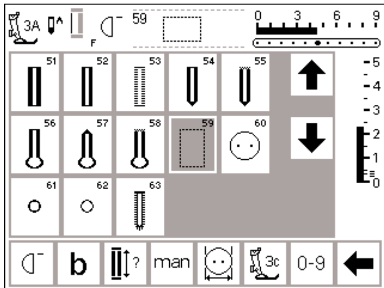
- « 2» にタッチします。
- ミシンは自動的に直線縫いで後進します。
- 左側の穴かがりのスタート位置でミシンを止めます。
- « 3» にタッチします。
- ミシンは上の環止めを縫って自動で止まります。
- « 4» をタッチ。
- 右の穴かがりを前進で縫います。
- 左の穴かがりに揃えてミシンを止めます。
- « 5» にタッチ。
- 下の環止めを縫って自動で止まります。
- « 6» にタッチ。
- 止め縫いをして自動で止まります。
- 穴かがりの長さは適当に決めてください。
- 環止め、はと目、止め縫いは自動で縫われます。

ボタンホールを終了するには

- « 戻る» ボタンをタッチします。
- ボタンホールメニュー画面に戻ります。



ボタンホール・直線縫いタイプ



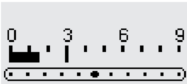
直線縫いステッチ(あるいは仮縫いステッチ)のボタンホールは特にウールのような柔らかで織の粗い布地や擦り切れやすい場所に縫うボタンホールなどに良く使います。また、玉縁ボタンホールにも応用できます。

直線縫いのボタンホール

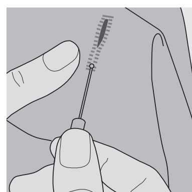
- ボタンホール No.59を選ぶ。
- 順序は選んだ押え金によって異なります。
- このボタンホール縫いは、直線ボタンホールに重ねて縫うボタンホールの手順と全く同じ要領で縫います。
- 自動ボタンホール押え#３Ａ ＝ 自動縫い。
- プログラム方法は自動ボタンホールのプログラム方法と全く同じ。
- ボタンホール押え＃3C ＝ ステッチカウント式ボタンホール。
- プログラム方法はステッチカウント式ボタンホールプログラムと全く同じ。

穴かがり幅を変える

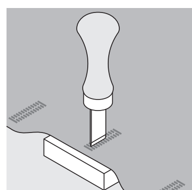
- 左右の穴かがりの間隔が狭すぎる、又は広すぎる場合には振り幅調節ダイヤルで左右の穴かがりの幅を変えて調節出来ます。



ボタンホールの開け方

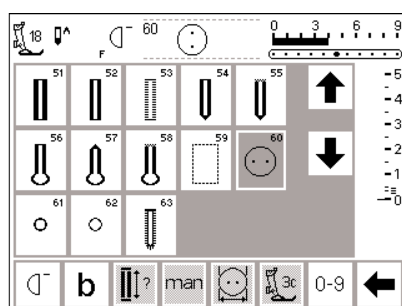


ボタンホールカッターとブロック台
- 布をブロック台の上に乗せる。
- カッターをボタンホールの真ん中に当て、
- ハンマーか手を使ってボタンホールを開ける。



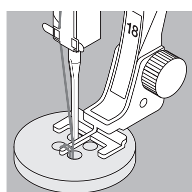
シームリッパー
- ボタンホールを開けるにはシームリッパーで両端から中央に向かって切り開きます。

ボタン縫い付けプログラム



二つ穴、又は四つ穴のボタン付けが出来ます。

ボタン付けプログラム
- ステッチ No.60 を選択します。
- No.18 のボタン付け押え金を使います。
- ボタンの足の長さは押え金で調節します。

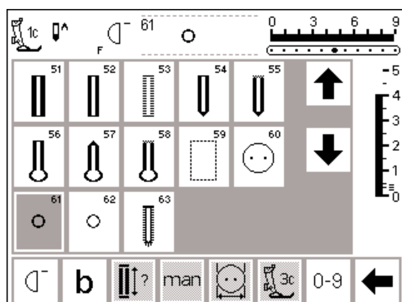


ボタン付けの方法

二つ穴のボタン
- 穴の幅に合わせて振り幅を調節します。
- プログラムが終わればミシンは自動的に止まります。

四つ穴のボタン
- 穴の幅に合わせて振り幅を調節します。
- 最初に手前の二つ穴を縫います。
- プログラムが終わればミシンは自動的に止まります。
- 次に後ろの二つ穴を縫います。
- プログラムが終わればミシンは自動的に止まります。
- 糸を長く残して切り、その糸を足に巻き付け結びます。

アイレット縫い



アイレット（鳩目）
- アイレットを選ぶ。
- No.61ジグザグアイレット
- No.62直線縫いアイレット

アイレットを縫う
- プログラムが終わればミシンは自動的に止まります。

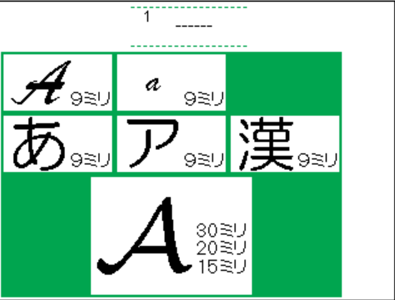
アイレットを開ける
- 突ききりを使ってアイレットの穴を開けます。

アイレットの縫い方の詳細はソーイングマニュアルの部 30 ページを参照。

アルファベットと数字

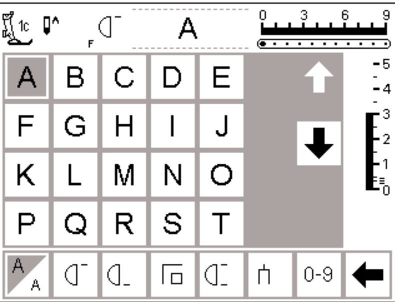
文字は 5 種類のスタイルから選択出来ます。
いずれの文字も 2 種類のサイズで縫うことが出来ます。

大型のモノグラム文字は 3 種類のサイズで縫うことが出来ます。



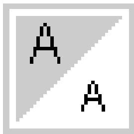
アルファベット

- 文字グループ選択ボタンを押します。
- 文字のメニューが表示されます。
- ひらがな 9 ミリ幅
- カタカナ 9 ミリ幅
- 漢字 9 ミリ幅
- 大文字イタリック体 9 ミリ幅
- 小文字イタリック体 6 ミリ幅
- モノグラム 30 / 20 / 15 ミリ
- 文字スタイルを選択するには画面上の文字にタッチします。
- 選択した文字スタイルが起動します。



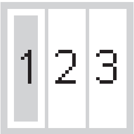
画面上での文字の選択方法

- 押え金の種類と針停止位置が規定の位置に表示されます。
- 文字の大きさが針停止位置表示のすぐ右側に示されます。
- 画面中央に選んだ文字書体が表示されています。
- 画面右側の矢印をタッチして、文字や数字を上下にスクロールさせます。



文字の大きさを変える

- 文字を選択した場合は大きいサイズがまず起動します。
- « A/A» （文字のサイズ）機能にタッチします。
- 次の画面が起動します。
- 文字サイズがここで縮小されます。
- 6 ミリの表示が画面の上部に表示されます。
- « A/A» （文字のサイズ）機能にタッチします。
- 文字サイズが 9 ミリに戻ります。

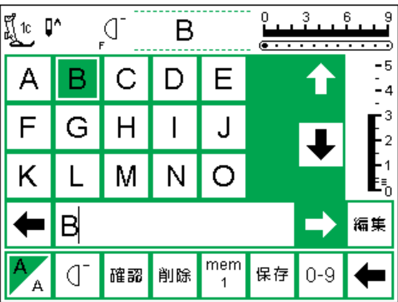


モノグラム文字のサイズ

- モノグラムを選ぶと、自動的に文字のサイズは"1"の 30mm にセットされています。
- 文字サイズ
  - 1 = 3 0 ミリ
  - 2 = 2 0 ミリ
  - 3 = 1 5 ミリ
- サイズ 2 と 3 は通常のステッチのように連続して縫います。 文字の左下からスタートし、右下で完了します。メモリーを使って文章にも応用できます。
- 画面下のツールバーに表示されたモノグラムのサイズ選択機能 1 2 3 にタッチします。
- 番号が右に移動します。
- サイズ 1 の文字は、大きさと縫い方向を考慮してスタート位置を決めます。（テンプレートの項 51 ページ参照）

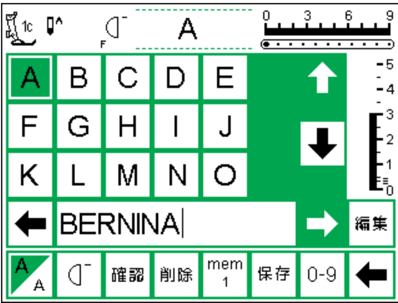
文字の実際の縫い方はソーイングマニュアルの部 42 ページを参照。

文字と数字のプログラム方法



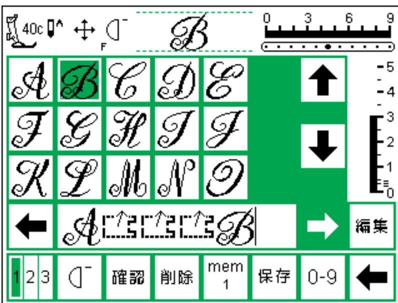
プログラム方法

- メモリーボタン≪mem≫を押してメモリーを開きます。
- 選ぶ文字にタッチします。
- 選んだ文字が画面下部のメモリーに表示されます。
- カーソル≪I≫が文字の前について右に移動します。



プログラミングを続ける

- 次の文字をタッチします。
- 文字がメモリーに表示されます。
- この方法で続けます。



メモリーされたモノグラム文字

- モノグラム文字もメモリーに混ぜてプログラムすることが出来ます。
- 文字間の間隔は 16 方向縫いを使ってプログラムします（テンプレートを使います）。
- 各文字の始まりと終りの位置に注意しましょう。
- ≪16 方向縫い≫の章を参照してください。

文字の縫い方の詳細はソーイングマニュアルの部 42 ページを参照。

メモリー

全てのステッチ、文字、数字はメモリーにプログラムし、セーブしたり、訂正したりすることができます。

メモリーの容量は、ほぼ無制限です。
メモリー域は、255列あります。
各メモリー域は、記憶した模様の数に従って、メモリー毎にその容量を自動的に変えて記憶します。

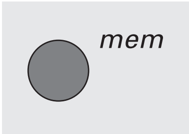
メモリーは恒久的にデータを保存します。すなわち削除されたり、上書きされたりしない限り保存されたままです。
訂正や変更はいつでもできます。

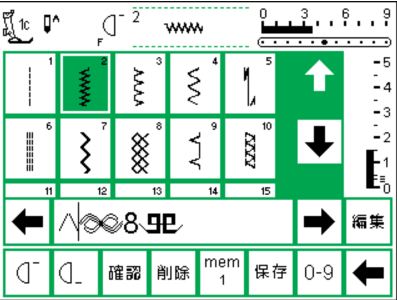
メモリーバーに表示される模様は、ステッチのメニュー画面の表示とは 90 度左の方向にむいています。
ソーイングの方向は常に左から右に移動します。

プログラムする時に表示された押え金と、縫うときの押え金は同じ物を使います。

メモリーを使った縫い方の詳細はソーイングマニュアルの部 40-42 ページを参照。

メモリーを開く

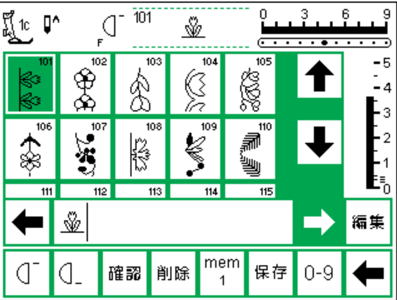




メモリーを開く

- 外側の≪mem≫ボタンをおします。
- メモリーバーが画面に表示されます。
- 三行目の模様が消えてメモリーバーが表示されます。
- 模様の行を上下にスクロールして模様を探せます。
- カーソル≪|≫がメモリーバーに垂直のラインとして現われます。
- 変更（ 記憶、挿入、訂正）は、常にカーソル≪|≫の左側の模様に対して実行されます。
- 画面下のツールバー機能は、自動的に、メモリー操作に必要な機能の表示に切り替わります。
- 使っているメモリー域の番号が画面下のツールバーに≪mem≫と一緒に表示されます。

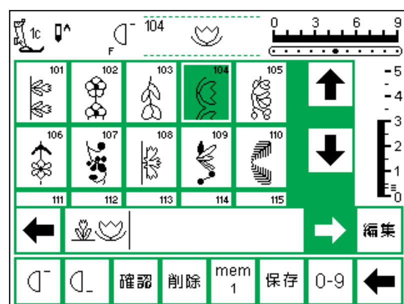
ステッチをプログラムする



基本プログラム

- メモリーを開く。
- ステッチを選択する。
- ステッチがメモリーのフィールドに表示される。
- カーソルが右に動く。

メモ:
メモリーボタンを押してメモリーを開くと、mem1（メモリー1 番地）に記憶された内容が自動的に表示されます。



プログラミングを続ける

- 次のステッチを選択する。
- ステッチがメモリーのフィールドに表示される。
- このやり方で続ける。

注意;
メモリーの内容が編集機能（44 ページ）で変更されている場合には、模様頭出し機能を最初に選んで、カーソルを模様の先頭に移動しておきます。

- 模様の繰り返し機能を選択しておけば、ミシンを自動的に停止することができます。

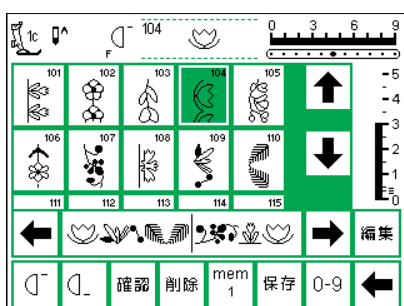
ツールバー機能

模様の繰り返し機能を選択すると、ミシンは指定した数のステッチまたは模様を縫った後、自動的に停止します。

一模様縫いを選択すると、カーソルを当てている左側にあるステッチを 1 回縫った後、自動的に停止します。

データを保存するには、« 保存» をタッチします。

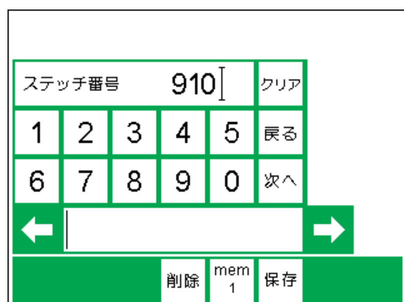
保存の作業中には、文字が点滅します。



メモリーをスクロールする

- スクロール矢印« ←» « →» はメモリーバーの左と右にあります。
- プログラムされた内容の前を見るには« ←» を、後ろを見るには« →» をタッチします。
- メモリーを閉じるには、メモリーの外部ボタンを押します。
- ステッチの組み合わせが保存されていない場合には、保存したいかどうかを問うメッセージが表示されます。

ステッチ番号を使ってメモリーにプログラムする

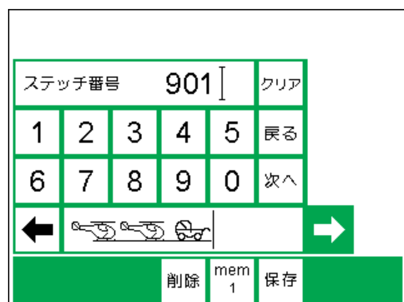


ステッチ番号でプログラムする方法

- メモリーを開く。
- ≪0－9≫の機能にタッチします。
- 数字表が画面に表示されます。
- メモリーバーはそのまま表示されています。
- **ステッチ番号**を数字にタッチして入力します。
- 選んだ番号が順次表示されます。

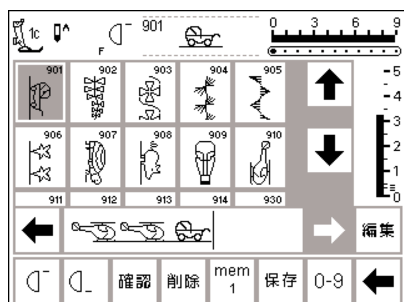
訂正

- 間違えた時は≪**クリア**≫をタッチします.。
- カーソル≪|≫が左に移動して数字を削除します。
- 正しい数字を選びます。



確認、そしてプログラムを続ける

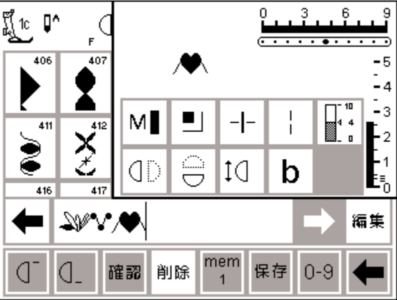
- ステッチ番号を確認して≪**OK**≫をタッチします。
- 番号で選んだ模様がメモリーバーに表示されます。
- メモリーに保存するためには≪**OK**≫をタッチします。
- 次のステッチ番号を同じようにして入力します。



ステッチ画面に戻る

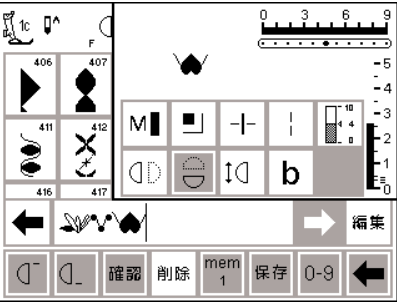
- ≪戻る≫にタッチします。
- 画面は模様画面に戻ります。
- 選んだ模様が画面上で黒く表示されています。

メモリーに保存した内容を編集して縫う



機能を使ってステッチする

- メモリーに保存されたステッチを編集します。
- 最初の二つ位のステッチをメモリーに入力します。
- «編集» ボタンにタッチします。
- 使える機能が全て画面の右上に表示されます。
- メモリーに入れた最後のステッチ(カーソルの左)が機能表示の左側に表示されます。



- 例えば«模様反転機能»にタッチします。表示されているステッチが反転されます。
- ステッチはメモリーバーにも変更された状態で表示されます。
- 同じ要領でいろんな機能を使って、以前に保存したメモリーの内容も編集して使えます。

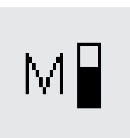
目で確認できる機能

- 画面上に表示された機能は全て機能フィールドの左側に表示されています。
- 左の例では、« 止め縫い機能» がメモリーに入力された機能として表示されています。
- 要らない機能やステッチは« 削除･ クリア» ボタンをタッチしてメモリーから削除します。
- 閉じるには、« 編集» ボタンにタッチします。

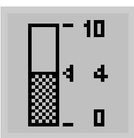
メモ：
横送り模様とロングステッチや模様拡大機能を使ってメモリーに入力できますが、模様が変形しますのでお勧めしません。

メモリー編集機能

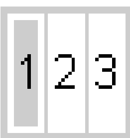
メモリーの編集機能がオンになっている場合には、以下の機能が画面中央に表示されます。ツールバー上の全ての機能(削除を除く)は、編集機能がオンになっている間は使うことができません。編集機能を閉じれば、元どおり使えます。詳しくは、メモリーの編集に関する29-30ページをご覧ください。



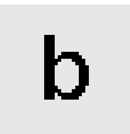
ソーイングスピード



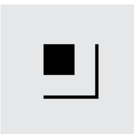
上糸調子



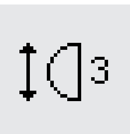
モノグラムサイズ



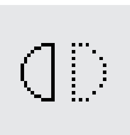
バランス



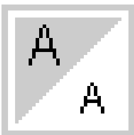
一点止め縫い機能



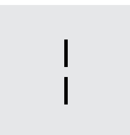
模様の拡大機能



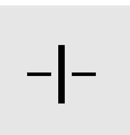
左右模様反転



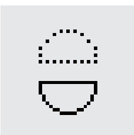
文字サイズ



ロングステッチ機能

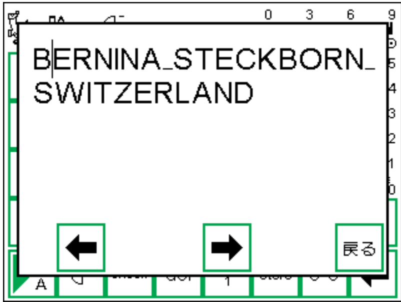


メモリーの分割



上下模様反転

メモリーの内容を見る



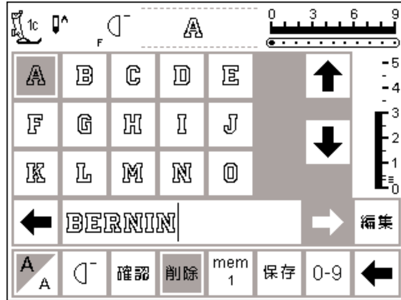
メモリーの内容を検索する

- カーソルをメモリーの内容の先頭にもってくる。
- «チェック»ボタンをタッチします。
- メモリーの内容が表示されます。
- カーソルが見えます。
- 訂正する場合は、矢印ボタンでカーソルを移動します。（«メモリーの訂正）と同じ手順）
- «戻る»ボタンをタッチします。
- メモリーバーが現われます。

・カーソルは前画面に表示されていたのと同じ位置に表示されます。

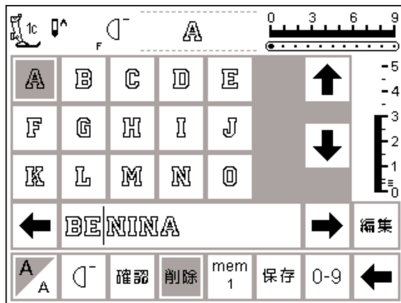
メモリーの訂正

基本ルール:
変更や訂正は全て常にカーソルの左側で実行されます。



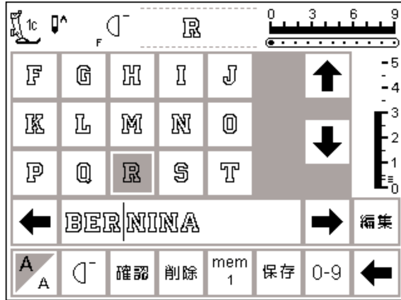
最後に入力したステッチや文字を削除する

- ≪削除≫ボタンをタッチします。
- 入力した最後のステッチ（カーソルの左）が削除されます。



メモリー内容の途中でステッチや文字を削除する

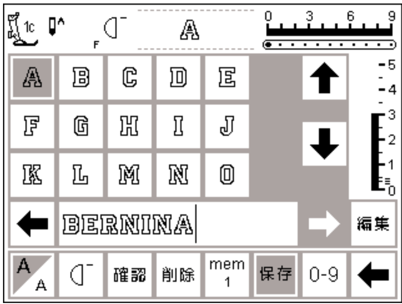
- カーソルを削除するステッチの右側に移動します。
- ≪削除≫ボタンをタッチする。



メモリーにステッチを挿入する

- ステッチを挿入したい場所にカーソルを移動します。
- ステッチあるいは文字を選びます。
- 新しいステッチがカーソルの左に挿入されます。

メモリーの内容をセーブして残す



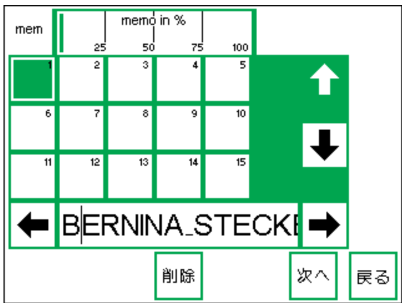
メモリーの保存

- ≪保存≫ボタンをタッチします。
- 内容は保存されます。
- メモリーが閉じられメモリーバーが画面から消えます。
- メモリー内容はいつでも開いて検索出来ます。

保存せずにミシンのスイッチを切ると…

- 保存せずにミシンのスイッチを切るとメモリーの内容は失われます。

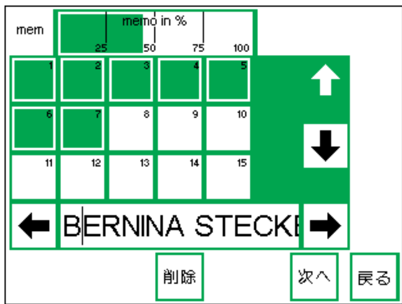
各メモリーの開き方



以前にプログラムしたメモリー域に戻る

- 外部ボタンの« mem» ボタンを押します。
- メモリーを開く。
- 機能ツールバー上の« mem» ボタンをタッチします。
- mem 1 の全容が画面に表示されます。
- 現在使っているメモリー域は濃いグレー色で示されます。
- 空いているメモリー域は薄いグレー色で示されます。
- 15 以上のメモリーが使用されている時は、メモリー域を上下にスクロール出来ます。255 番地まで使えます。
- 使用中のメモリーの状況が画面上部に％で示されます。
- 以前に保存したメモリーを開きましょう。
- 内容がメモリーバーに表示されます。
- 元の画面に戻す時は« **戻る**» ボタンをタッチします。
- 選んだメモリーの内容は即座に縫えます。
- その内容通りに縫ったり、挿入、訂正したり出来ます。

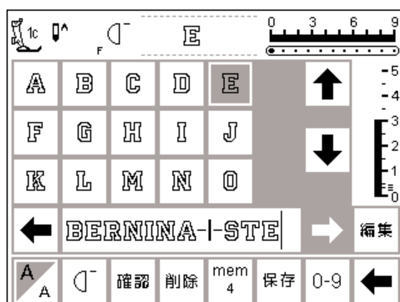
メモリー容量



メモリーを開く

- 外部« mem» ボタンを押してメモリーを開く。
- 機能ツールバーの« mem 1» をタッチします。
- メモリー域表示の画面が現われます。
- 使用中の全容量は画面上部に％で示されます。
- 255 番地のメモリーを通じて保存できる最大容量は 1023 模様です。

メモリーの分割



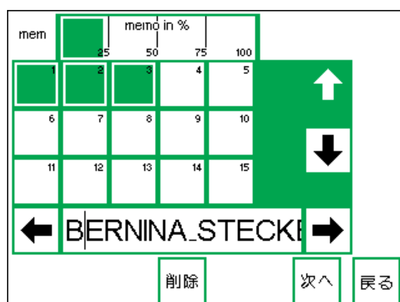
メモリーの分割

- メモリーの内容は思い通りに分割出来ます。例えば、一つのメモリーの中で名前、番地、町名等に分けて有効に使う。
- 名前を入力してみましょう。
- メモリーの分割機能≪–|–≫をタッチします。
- 住所を入力します。
- 名前と住所は同じメモリー(例えば左の画面ではmem4)に記憶されていますが、分割された他の部分とは全く独立しており、あたかもメモリーを二つ使っているような使い方が出来ます。
- メモリーの分割は、入力を全て終えた後でも入力できます。
- **≪メモリーの訂正≫** の手順に従う。

ソーイング

- これから縫う部分にカーソルを持って来て、≪模様頭出機能≫をタッチし、縫い始めます。
- ミシンが縫うのは、分割された部分の内容だけです。
- 次の分割部分を縫う時は、その部分にカーソルを移して≪模様頭出機能≫をタッチして縫い始めます。
- その部分を一度だけ縫うのなら、≪一模様縫い機能≫をタッチして、ミシンが止まるまで縫います。
- ≪一模様縫い機能≫を使うと名前が縫い終わるとミシンは自動停止します。
- 布の上で行を変えて、住所を縫います。

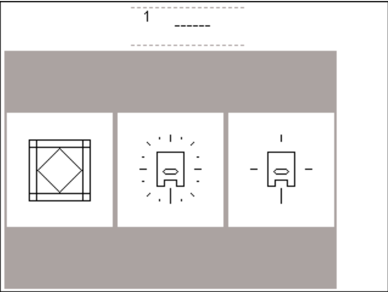
メモリーを削除する



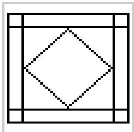
メモリーの削除

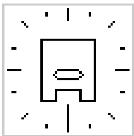
- **外部≪mem≫**ボタンを押してメモリーをオープンします。
- 機能ツールバー上の≪mem1≫ボタンにタッチします。
- メモリー番地全体が表示されます。
- メモリーを選んでタッチします。
- **≪削除≫**機能ボタンをタッチします。
- 「メモリーの内容を削除してよろしいですか?」というメッセージが表示されます。
- 「はい」をタッチします。
- 選んだメモリーの内容が削除されます。
- **≪戻る≫**ボタンをタッチして元のスクリーンに戻ります。

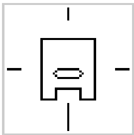
キルティングステッチ／16方向縫い／4方向（パッチ）縫い



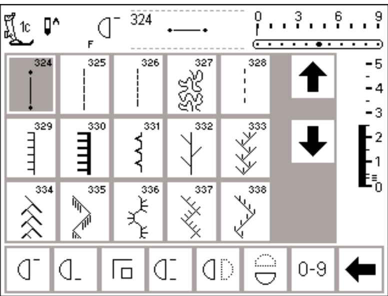
メニューの選択：キルティングステッチと16／4方向縫い
- 外部≪キルティングステッチ／横送り縫い≫ボタンを押す。
- 3種類のメニューが現われる。
- 希望する種類の表示を選んでタッチします。





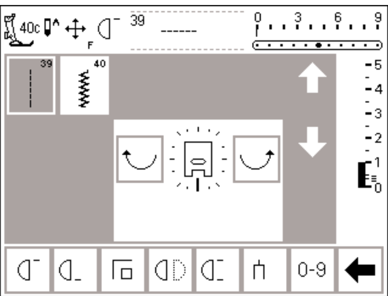


キルティングステッチ



キルティングステッチ
- 特にキルティングに適した様々なステッチを選択。
- 324 番　キルト用止め縫いプログラム
- 325 番　キルト用直線縫い
- 326 番　短い直線縫い
- 327 番　スティップリングステッチ
- 328 番　手縫い風キルティングステッチ
- 329 番　特殊キルティングステッチ
- 330 番　ヘビーブランケットステッチ
- 331 番　纏り縫い
- 332 番　フェザーステッチ
- 333－338、351 番　フェザーステッチ
- 346—350 番　各種キルティングステッチ
- 352 番　ブランケットステッチ（二重）
- 353 番　ダブルブランケットステッチ（二重）
- 画面上の模様ボタンをタッチして選択。
- ステッチが選択されます。
- 通常の情報は全て画面上に表示されます。
- ステッチの長さと幅は必要に応じて調整出来ます。

16方向パノラマ縫い



16方向パノラマ・ソーイング
- 2種類の16方向ソーイング
  方法1　直線縫い
  方法2　ジグザグ縫い
- 16方向の押え金#40の表示が画面に現われます。
- 方向を変える時は例にならって左右の矢印をタッチします。
- 素早く方向を変えるにはミシンを止めずに続けてタッチします。
- ミシンは選んだ方向で選択したステッチを縫います。

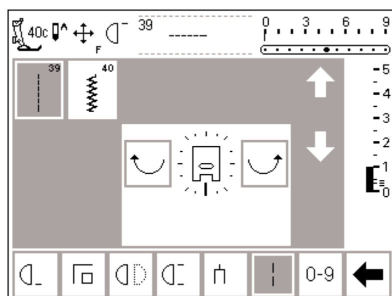
直線縫い
- ステッチの長さは常に3mmです。（16方向すべて）
- ステッチの長さは短く出来ますが、3 ミリ以上に長く出来ません。

ソーイング方法
- 方向を選択して縫い始めます。
- ミシンを止めて、
- 新しい方向を選択してまた縫い始めます。
- ミシンを止めて、これを繰り返します。

ジグザグ縫い
- ステッチの長さはサテンステッチにプログラムされています。
- ステッチの長さは無段階に1まで短く又は長く出来ます。
- ステッチの幅は無段階に0－9ミリで変えることが出来ます。

ソーイング方法
- 方向を選択して縫い始めます。
- ミシンを止めて、
- 新しい方向を選択して縫い続けます。
- ミシンを止めて、これを繰り返します。

16方向—ロングステッチ機能を併用した直線縫い

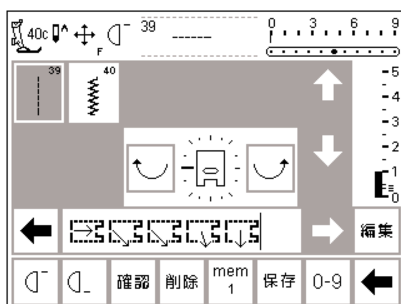


直線縫いとロングステッチ機能の組み合わせは大きなステッチと文字を一緒に縫う時に特に便利です。
模様と模様をつなぐ連絡ステッチは後から取り除く事が出来ます。

ロングステッチ機能を併用した直線縫い

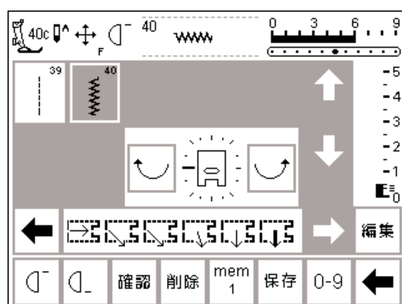
- 直線縫いを選択します。
- ロングステッチ機能を作動させる — 3針毎に一針縫います。
- 方向を決めます。
- ミシンは選んだ方向に縫い進みます。
- 直線縫いは9mmの長さで縫います。

メモリーを使ったパノラマ縫い



メモリーを使った直線パノラマ縫い

- 直線縫いボタンを押すたびに、細いコンパス表示の付いた押え金がメモリーバーに示されます。
- 押え金の表示はメモリーバーの中では90度左向きに表示されます。
- 縫い方向は画面上の半円状の矢印で選びます。
- メモリーバーの中の細い矢印は選択した方向を示します。
- 一つの押え金の表示は3針の直線縫いを表しています。
  (3ミリX3針＝9mm)
- 同方向に続けて縫う時は相応の長さの回数だけ画面の表示にタッチします。
- ロングステッチ機能がここでメモリーに現われます。
- ロングステッチ機能をオンにすると画面に表示されます。

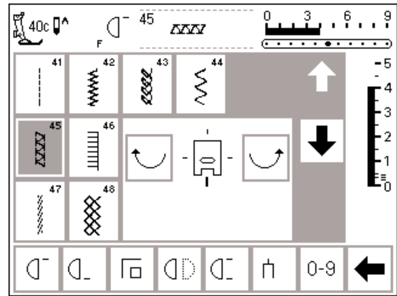


メモリーを使ったジグザグパノラマ縫い

- ジグザグ縫いボタンをタッチするたびに、太い矢印の付いた押え金の表示がメモリーバーに表示されます。
- 押え金の表示はメモリーバーの中では90度左向きに表示されます。
- 縫い方向は画面上の半円状の矢印で選びます。
- メモリーバーの中の太い矢印は選択した方向を示します。
- 一つの押え金の表示は９ｍｍを縫います。
- 同方向に続けて縫う時は相応の長さの回数だけ画面の表示にタッチします。

4方向（自動パッチ）縫い

布地を回さなくても 4 方向にパッチを縫うことが出来ます。とりわけ筒状になった所の修繕に便利。（ 袖、ズボン等）



4 方向縫い
- 4 方向ステッチを選択してください。
- 8 種類の中から選ぶことができます。
- 41番　直線縫い
- 42番　ジグザグ縫い
- 43番　トリコットステッチ
- 44番　ランニングステッチ
- 45番　ダブルオーバーロックステッチ
- 46番　ボタンホールステッチ
- 47番　スーパーストレッチステッチ
- 48番　ネットステッチ
- 4方向の押え金の表示が画面中央に現われます。
- 矢印を用いて方向を選択してください。

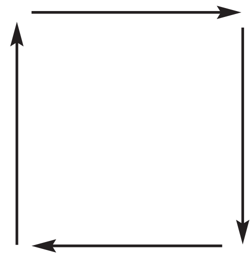
これらのステッチの長さと幅は、変えることは出来ません。

実際の縫い方は、ソーイングマニュアルの部、45 ページを参照。

ソーイングの方向
- こうして選んだ方向に選んだステッチが縫えます。

ソーイング方法
- 方向を選んで縫います。（パターンの最後でも構いません。）
- ミシンを止めます。
- 新たに方向を選び縫います。
- ミシンを止めます、等。

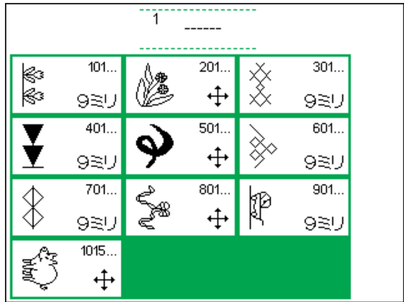
ヒント：
- 素早く縫うためには、≪一模様縫い機能≫で1—9回の繰り返し機能を選んでください。
- 四角に縫う時に、簡単に仕上げるには、上から下へ、右から左へ（時計回り）に縫って下さい。



横方向縫い　–　アウトラインデザイン

横方向縫いは大きなモチーフを縫うために、布地と送り歯が前後、左右に動きます。これらは縁飾り（アウトライン）縫いのモチーフです。

横方向縫いのサイズは一つで、大きさを変えることは出来ません。

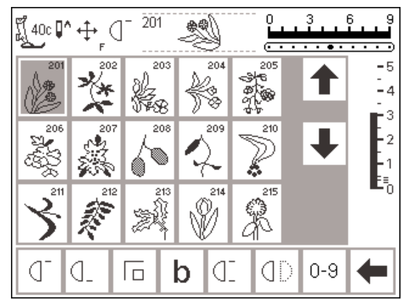


装飾縫い
- 画面右横のボタン≪**装飾縫い**≫を押してください。
- 装飾縫いのメニューが画面に現われます。
- 横方向縫いのモチーフを選択して下さい。（クロスの表示）
- モチーフが起動します。

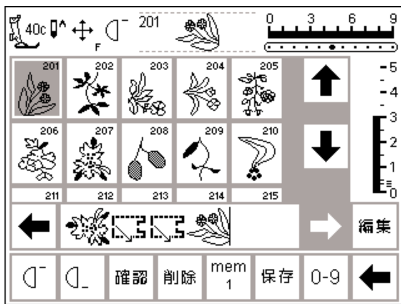
実際の縫い方は。ソーイングマニュアルの部、45 ページを参照。

メモ：
使用する生地、接着芯、安定紙に合わせてステッチのバランスを≪b≫**機能**で調整します。≪バランス≫の章52-53ページをご参照ください。

横送り縫い



- 豊富な横送り縫い模様が用意されています。
- 画面ボタンをタッチして選択してください。
- ステッチが起動します。
- 一般的な情報は全て画面上に現われます。
- 十字にクロスした矢印の表示（針止めの右側）は、横方向縫いが起動していることを示しています。
- 横送り縫いが終了したらミシンは自動的に停止します。
- 個々のモチーフは繰り返して縫うことが出来ます。
- 装飾的な縁縫いに理想的です。



メモリーを使った横送り縫い

- 横送り縫いをメモリーに保存することが出来ます。詳細は 42-47 ページを参照。
- 横送り模様は、メモリーや 16 方向縫い機能を使って組み合わせて縫うことも出来ます。（49 ページを参照）

テンプレート

- 備え付けのテンプレートはオリジナルのサイズでステッチを示しています。
- 縫い始めと縫い終りの位置は通常ステッチ内の異なる位置にデザインされています。
- ステッチの始まりには○印が付いています。
- ステッチの終りには十印が付いています。
- 押え金の方向は細い線で示されています。
- 押え金は布の上に同じ方向に向けておいてください。

バランス

工場からミシンが出荷される前にステッチは全てチェックされ完全に調整されています。

様々な布地や糸との組み合わせの違いがプログラムされたステッチに影響することがあります。例えば縫い幅が広すぎたり狭すぎたりで、縫い終りがきっちり閉じなかったり重なったりすることもあります。

これは画面上のバランス機能で修正することが可能で、必要であれば、布地に合わせてステッチの形を調整することが出来ます。

垂直方向に 50 段階、水平方向に 20 段階調節できます。

b

バランスを開く
- 機能≪b≫をタッチする。
- 画面に機能が表示されていない場合には、機能ツールバーの左右いずれかの矢印にタッチして使いたい機能をスクロールして表示します。

実用ステッチのバランス

送りのバランス調整
次へ
リセット
0
オリジナル
戻る

模様がこのような詰まった形になるときは、このボタンを使って調整します。

模様がこのような開いた形になるときは、このボタンを使って調整します。

ジャージーやトリコットのような柔らかい布地を縫う時、ステッチを伸ばしながら縫うために、押え金の下で布地自体も引っ張られていることがあります。
例えばネットステッチを開いてみましょう。
バランスの修正はいたって簡単です。

バランス
- 適当なステッチを選択しましょう。
- バランスボタンをタッチします。バランスの画面が表示されます。
- 実用縫いの場合は、ネットステッチが画面中央に現われます。ネットステッチは実用縫いの全ての代表です。
- 飾り縫いでは、楕円形のサテンの飾り模様が代表で表示されます。
- 画面には、くずれた形のステッチが両側に表示されます。左は詰まりすぎ、右は開きすぎたものです。
- 画面下部の矢印がステッチを修正する方向を示しています。
- 二つの矢印ボタンを操作して、バランス調整します。

送りのバランス調整
次へ
リセット
0
オリジナル
戻る

模様がこのような詰まった形になるときは、このボタンを使って調整します。

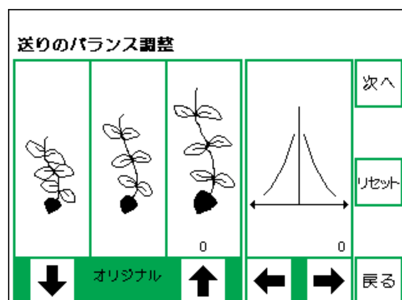
模様がこのような開いた形になるときは、このボタンを使って調整します。

修正
開きすぎたステッチ
- 右欄の矢印にタッチして、画面上に今あなたが縫った状態を表示して下さい。
- ステップ数が直接矢印の上に示されます。
- ミシンは自動的にバランスを修正して、ステッチを中央に表示された標準に戻します。
- 変化は画面には現われません。
- 2—5ステップで普通充分な修正が出来ます。(最大50ステップ)
- 試しに縫ってみましょう。

詰まりすぎるステッチ
- 上と同様の手順で左欄の矢印を用います。試しに縫ってみましょう。

- 修正が終わったら、≪OK≫ボタンを押してステッチ画面に戻ります。
- 修正したバランスはミシンの電源を切るとリセットされます。 又はバランス画面の≪リセット≫ボタンをタッチすると強制解除できます。

バランスー横送り縫い



ステッチが上のような縮んだ状態のときは、この矢印で調整します。

ステッチが上のような開いた状態のときは、この矢印で調整します。

横方向のずれはこの矢印で修正します。

様々な布地や糸またその組み合わせの違いで横送り縫いに影響が出ることがありますので、バランスの調整が必要になることもあります。

バランス

- 横方向縫いを選択してください。
- バランス機能を起動します。
- バランス調節の画面が現われます。
- ステッチが画面の左半分の中央に現われます。
- 歪んだ模様が2種類ステッチの両側に表示されます。左は詰まって狭く、右は伸びたものです。
- 画面の右半分にはバランスを調節出来る範囲が示されます。

- 横送りのバランスを調節する画面では、常に選んだ模様が表示されます。

垂直方向の訂正

- もし縫ってみた模様が画面の右側のものに似ていたら、右の矢印を使って訂正します。
- ステッチが縮みます。
- もし縫ってみた模様が画面の左側のものに似ていたら、左の矢印を使って訂正します。
- ステッチは伸びます。
- 通常、1—5ステップでステッチの垂直方向の形は充分訂正されます。（最大50ステップ）
- もし10ステップ以上になれば、ステッチ自体が小さくなります。
- 試しに縫ってみましょう。

水平方向の訂正

- 水平方向のバランスは画面の右半分に示されます。
- 垂直方向に訂正を加えた後では、ステッチが幅広になっているかも知れません。例えばステッチのセンターラインが歪んでいるなど。
- もしステッチの中央が右に寄っていたら、左の矢印で訂正して下さい。
- もしステッチの中央が左に寄っていたら、右の矢印で訂正して下さい。
- 通常 5-10 ステップでステッチの水平方向の形は充分訂正されます。（最大 20 ステップ）
- 試しに縫ってみましょう。

ステッチ画面に戻る

- 修正が終わったら、≪**OK**≫ボタンを押してステッチ画面に戻ります。
- 修正したバランスはミシンの電源を切るとリセットされます。 又はバランス画面の≪**リセット**≫ボタンをタッチすると強制解除できます。

ヘルプ

ヘルプ機能は、個々のステッチと全機能の説明をしてくれます。

どんな画面を見ている時でもステッチや機能に関するヘルプは呼び出すことが出来ます。

情報は使用説明書にあるものと同じですが、画面上でより早く簡単に見つけ出すことが出来ます。

?

ヘルプを開く
- 画面右横のヘルプ≪？≫ボタンを押して下さい。
- 調べたい模様ボタンあるいは機能ボタンを画面上でタッチして下さい。
- 時計が画面に表示され情報検索中を示します。

9 まつり縫い
- 裾上げのまつり縫いに
- やわらかな薄地のジャージーやランジェリーのシェルエッジ仕上げに
- あらゆるまつり縫いに

戻る

ヘルプの画面
- 画面には次のような情報が表示されます。
- ステッチでは:
  - ステッチの名前
  - 適した布地
  - 主な適用方法

上下模様反転機能
- 模様を上下に反転します。

上手な使い方
- 対象形の模様の組合わせに
- 左右模様反転機能と組合わせて
- (例)

戻る

ヘルプの画面
機能では:
- 機能の名前
- 説明
- 主な利用方法のうちから二、三種類の簡単な説明

戻る

前の画面に戻る
- ≪戻る≫にタッチしてください。
- ヘルプは閉じます。
- 元の画面に戻ります。

注意
ヘルプ機能はいつでも、どのような作業をしていても、作業に影響することなく使えます。

糸調子

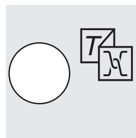
基本的な糸調子のセッティングはステッチやプログラムを選択した時に，自動的に調節されています。

糸調子は工場出荷時にポリエステル100/3の糸でベストの仕上がりになるようにセットされています。

当然刺繍糸のように特殊なタイプの糸を使えば糸調子も変わって来ますので、このような場合には布地とステッチの種類に合わせて調整する必要があります。

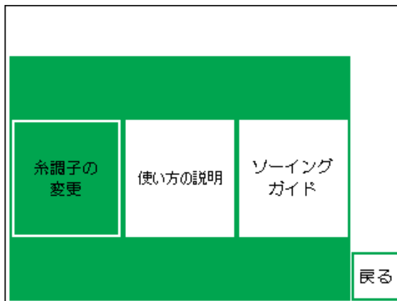
テンションの調節はどのステッチに対しても可能で、他のステッチのテンションを変えることなく、どのような場合にもできます。

操作は、外部のチュートリアルボタンを押して行います。



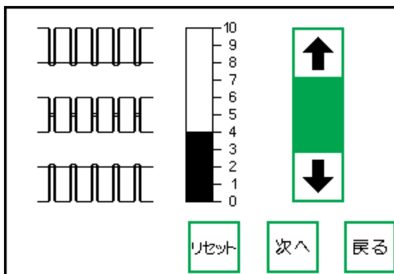
TTC ボタン

- チュートリアルボタンを押します。



液晶画面

- 以下のメニューが現われます。
  - 糸調子
  - 手引き書
  - ソーイングガイド
- **≪糸調子の変更≫**画面をタッチする。



糸調子を変える

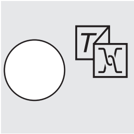
- 糸調子の画面が現われる。
- 完璧なステッチの形が画面左側の中央に示される。
- 糸調子のスケール（1–10）が中央に現われる。
- 基本的なセッティングがグレーのバーで示される。
- 糸調子を変えるには上下の矢印にタッチして下さい。
- ステッチの形が上の例（下糸が強い）のような場合、上向きの矢印にタッチします。
- ↑ ＝ 上糸調子を強くする。（ 上糸を強くすれば布地の上にまで下糸を引っ張り上げるようになります。）
- ステッチの形が下の例（上糸が強い）のような場合下向きの矢印にタッチします。
- ↓ ＝ 上糸調子を緩くする。（ 上糸を緩くすれば布地の下側にまで糸を引っ張ることが出来ます。）
- **≪ok≫**にタッチして下さい。
- 変更されたステッチのテンションは一時的なメモリーに保存され、画面は閉じます。
- 糸調子の変更はスイッチを切ったら、消えてしまいます。
- 恒久的に糸調子を変えたい時は，セットアップ(66 ページ)を参照して下さい。

基本セッティングに戻す

- 糸調子の画面を開いて下さい。
- **≪リセット≫ボタン**にタッチして下さい。
- 変更は消去され、基本セッティングに戻ります。

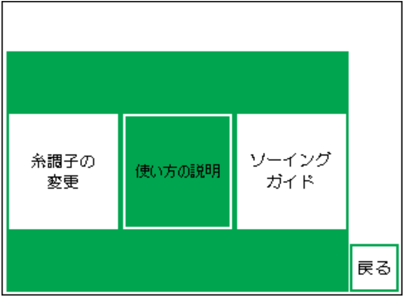
説明書（チュートリアル）

コンピューター用語で、チュートリアルと言うのは自分で出来るようになるためのものと言うことです。チュートリアルは、ミシンの様々な情報を画面上で集約して用意されており、使用説明書を調べる手間を省きました。



画面右横ボタン

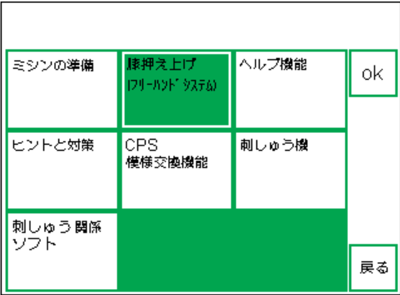
- 画面右横のチュートリアルのボタンを押します。



メニュー

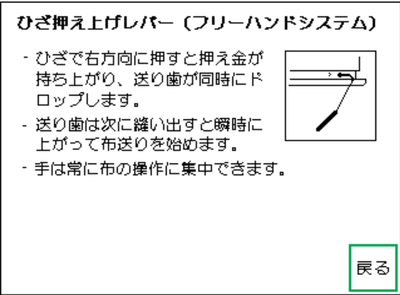
・メニューが現われます。
- 糸調子
- 手引書
- ソーイングガイド

・**チュートリアル画面**にタッチします。



サブメニュー

- 画面がチュートリアルの副題に変わります。
  - 縫い始め
  - FHSシステム
  - ヘルプ
  - ヒントとコツ
  - CPS
  - 刺しゅう機
  - 刺しゅう用パソコンソフト
- 画面をタッチして選択する、例えばFHSシステム。
- 確認出来たら≪OK≫にタッチする。



説明

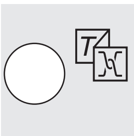
- 画面に時計が表示されて情報の検索中を示します。
- 選んだ題目に関する情報が画面に現われます。
- ≪**戻る**≫ボタンにタッチすると画面は閉じ、メニューに戻ります。

ソーイングガイド

ソーイングガイドは多種多様なソーイングの必要に応じて情報やヘルプを提供します。

布地のタイプと使いたいテクニックを入力すると、針、押え金、双方の接点、特別プログラムなどを情報として提案してくれます。その時の押え金は必ずしもミシンに付いていた標準のものではないかもしれませんが**ベルニナ**正規販売代理店にて、お買い求めいただけます。

ソーイングガイドでは、作品に合わせて自動的に糸調子をセットしてくれるとなっていますが、いつも最適なものであるとは限りません。あくまで、作品に適したステッチが、その標準の設定で紹介されるだけですので、調整が必要な場合には、手動で行うことになります。



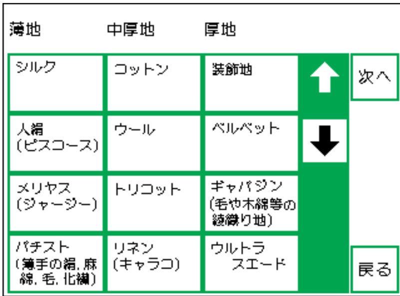
TTC ボタン

- 画面右横のチュートリアルボタンを押す。



メニュー

・ メニューが現われます。
  - 糸調子
  - 手引書
  - ソーイングガイド
・ ソーイングガイドにタッチして下さい。



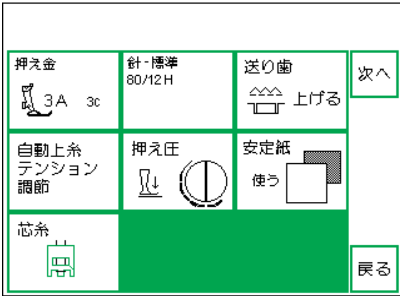
布地のメニュー

・ 布地のタイプが 3 列で表示されます。
  - 薄い布地
  - 普通の布地
  - 厚い布地
  - 最も一般的な布地があげられています。
・ 使いたい布地がリストに無い場合は、似たタイプのものを選んで下さい。
・ タッチして選択します。(例えば、木綿)
・ ≪ｏｋ≫ボタンにタッチします。



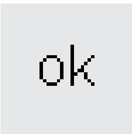
テクニックのメニュー

・ 最も一般的なソーイングテクニックが表示されます。
・ ソーイング（ シーム、ヘム等）
・ オーバーロック
・ 直線縫い
・ ボタンホール
・ ジッパーの取り付け
・ 装飾縫い（装飾ステッチ）
・ ミシンキルティング
・ 縁かがり縫い
・ アップリケ
・ 横送り縫い
・ タッチして選択して下さい。
・ 使いたいソーイングテクニックがリストにない場合は、似たものを選択して下さい。
・ ≪ok≫ボタンにタッチして下さい。



ソーイング情報、特殊なテクニック、糸調子

・ 画面には選んだ布地とテクニックに関するアイデアが表示されます。
  – 押え金
  – 針
  – 送り歯
  – 糸調子
  – 押え圧力
  – 安定紙
  – ボタンホールの紐
・ 糸調子は、選択したステッチの標準の状態で、自動的にセットされます。（AUTOと表示されます。）
・ どんな押え金と針がよいかアイデアが出されるでしょう。
・ こうして選ばれた押え金は選んだテクニックにとりわけ適していますが、基本パーツではなく、別に購入しなければならないこともあります。
・ 希望や好みに従って押え金と針を選択して下さい。
・ 安定紙はテクニックや布地にあったやり方に必要であれば、使うように指示が出るでしょう。
・ ボタンホールの紐（モール）はボタンホールを補強するために必要なら使うよう注意を促されるでしょう。



選択したステッチに戻る

・ ≪OK≫ボタンにタッチして下さい。
・ ミシンは、選択したステッチの画面に移り、そのステッチの標準設定が自動的にされます。
・ 装飾縫いを選択した場合には、ミシンは選択した装飾縫いの最初の画面に移ります。
・ すぐ縫い始めることが出来ます。
・ 指示されたステッチはいつでも変えることが出来ます。

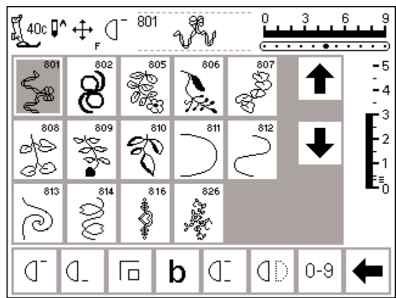
スマート（割り込み）機能

時には今進めている作業を中断して他の縫い物をしなければならないこともあるでしょう。

スマート機能は、現在セットした状態をそのまま記憶させておくよう特にデザインされていますので、後でまたすぐ元の作業に戻ることが出来ます。

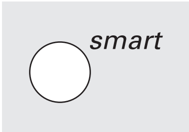
セットしてあった画面をセーブし、もう一度開くことが出来ます。

スマート機能でセーブしたデータは、ミシンのスイッチを切ると消えてしまいますのでご注意ください。



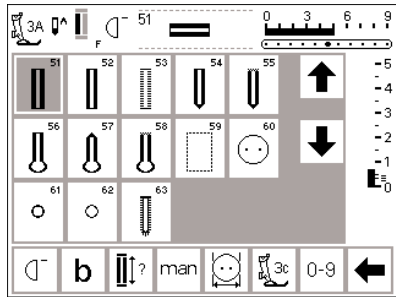
こんな場合に使います

- 何かをメモリーに保存したいとき。
- 作品の一部を試し縫いしたいとき、または一部が完成したとき。
- 中断して、後でまた作業をしたいとき。



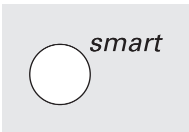
スマート機能で画面をセーブする

- 画面右横のスマート≪smart≫ボタンを押して下さい。
- 全てセットされた画面（ステッチ、機能、メモリー）がセーブされます。



他の作業に切り替える

他の作業に必要なステッチに切り替え、その作業を完成させます。



スマート機能 — 画面に戻る

- 画面右横のスマート≪smart≫ボタンを押します。
- 元の画面が現われます。
- 全て残しておいた通りのセッティングになっていますので元の仕事を続けることが出来ます。

注意

ボタンホールプログラムに切り替える場合、機能ツールバーで指定した変更は、すべて基本設定に戻されます。

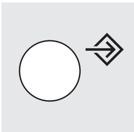
セットアップ・プログラム

セットアップ・プログラムであなたの必要と好みにあった画面が自分だけのものに出来ます。

それと同時に基本セッティングを恒久的に変え、F ボタン（お好みボタン）をヘッドフレームにプログラムすることが出来ます。多くの可能性がありますので、見出しを良く見てどのようにしたいのかを決定して下さい。

変更されたものはセーブされ、スイッチを切っても、記憶されています。

ミシンはどんな時もセットし直す事が出来、元の状態、すなわち工場から出荷された状態に戻すことが出来ます。



セットアップ

- 画面右横のボタンを押します。
- メニューが現われます。
- リストにある他のものに変えることが出来ます。
- いつでも元のセッティングにセットし直すことが出来ます。

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

メニュー

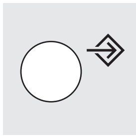
- メニューにはあなたの希望に添って変えることが出来るあらゆる特徴がリストにあげられています。
  - マイスクリーン
  - 機能
  - ステッチの長さ／幅／針位置
  - シグナル音
  - ソーイングスピード
  - 糸調子
  - スタート画面
  - 基本セッティングに戻る
  - ソーイングライト
  - サービス
  - 自動糸カッター
  - コントラスト（画面の明るさ）
  - 糸のブランド
- マイスクリーン（マイスクリーンセッティング）はスイッチを切ってもセーブされたままです。
- いつでも元のセッティングにセットし直すこともマイスクリーンセッティングにプログラムし直すことも出来ます。

マイスクリ—ン・メニューをプログラムする

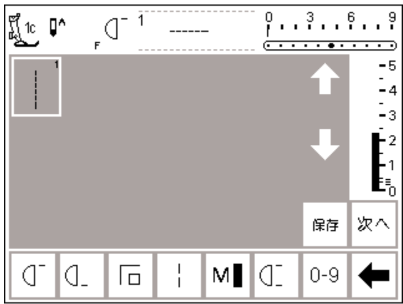
良く使うステッチだけをマイスクリーンに登録して、ご自分のステッチメニューを作ることが出来ます。

ステッチを登録するときには、送り長さ、ふり幅、針基線なども、個々のステッチに応じて変更したままで登録できます。

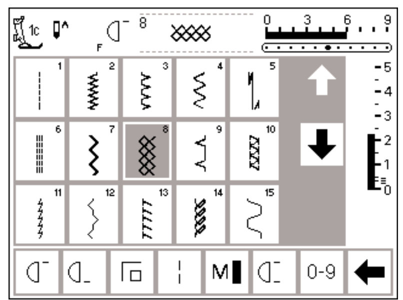
横送り縫いステッチはマイスクリーンには登録できません。



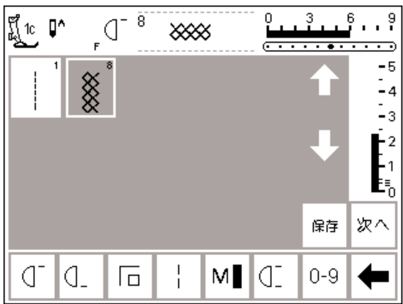
セットアップ
- 画面右横のセットアップボタンを押します。
- メニューが現われます。



- ステッチボタンにタッチします。
- マイスクリーン画面が自動的に現われます。

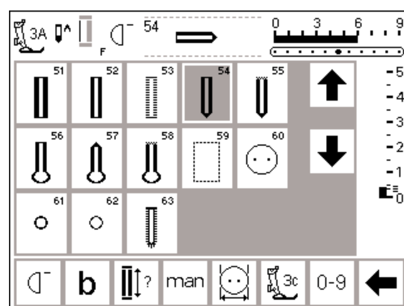


マイスクリーン（スタートポイント）
- 最初に直線縫いが表示されます。
- 他のスペースは白紙です。
- マイスクリーンの選択がその白紙のスペースに入力出来ます。



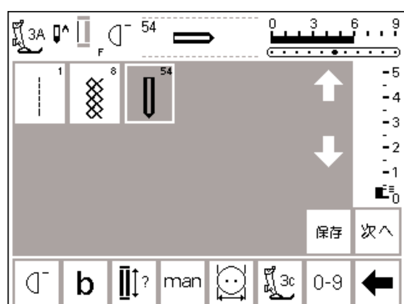
ステッチの挿入
- 画面右横の≪実用縫い≫のボタンを押します。
- ネットステッチを選択します。（明かりが点いている所です。）

マイスクリーン画面
- 画面がマイスクリーンに変わります。
- ネットステッチが最初にあらわれます。
- 保存にタッチしてセーブして下さい。



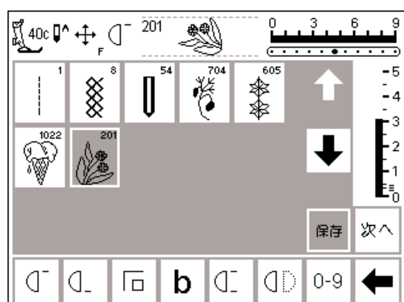
次のステッチを挿入する

- 画面右横の≪ボタンホール≫ボタンを押します。
- 鳩目ボタンホールにタッチして下さい。（明かりが点いている所です。）



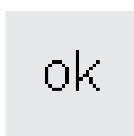
マイスクリーン画面

- 画面がマイスクリーンに変わります。
- 鳩目ボタンホールが次の空所に現われます。
- ≪保存≫にタッチしてセーブします。
- このようにしてプログラムを続けます。
- 新しいステッチをプログラムした時は、自動的に登録されている最後ステッチの後に挿入されます。



マイスクリーン（スペースの余白）

- 五段分の上の行は埋まりました。
- 五番目のステッチを挿入したら、自動的に次の行が現われます。
- 同様にプログラムして下さい。
- マイスクリーンには４５個のステッチがプログラム出来ます。
- １５以上プログラムしたら、基本のプログラムのときと同様に画面がスクロールします。



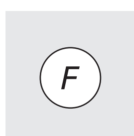
セーブして閉じる

- ≪OK≫にタッチします。
- 画面は閉じます。
- セットアップメニューが現われます。



マイスクリーン機能

- マイスクリーンを開くためには、マイスクリーン機能がツールバーに挿入されていなければなりません。
- ≪プログラム機能≫の章を参照して下さい。

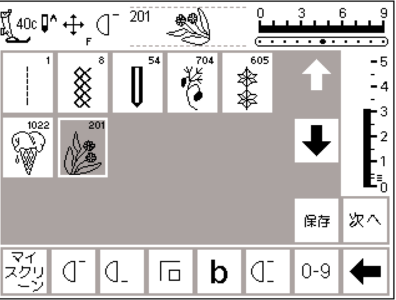


お好み機能

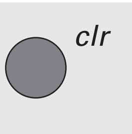
- ミシンのフレーム上、針の上あたりにあるお好み機能ボタンを使えば、マイスクリーンをより簡単に開くことができるようになります。

マイスクリーン・ステッチの削除

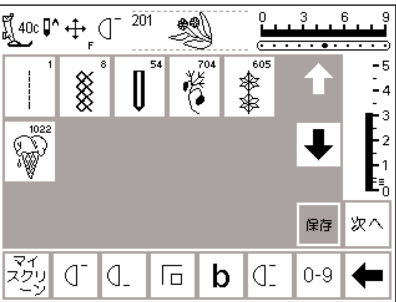
セットアップメニュー
- 画面右横のセットアップボタンをおすと、メニューが現われます。
- ≪**マイスクリーン**≫を選択して下さい。



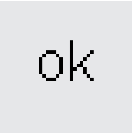
マイスクリーン画面
- マイスクリーン画面（マイスクリーン）が現われます。
- 削除するステッチボタンにタッチして下さい。（黒く表示されます）



ステッチを削除する
画面右横の≪clr≫ボタンを押して下さい。



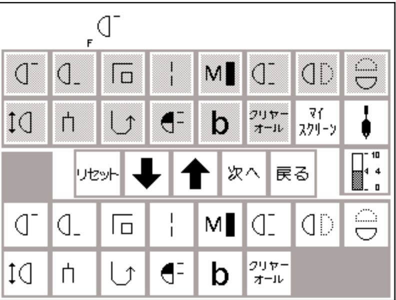
削除したステッチ
- ステッチは削除され、残りのステッチは全て一つづつ繰り上がります。
- ≪**保存**≫**ボタン**にタッチして変更したものを保存します。



閉じる
- ≪**ok**≫ボタンにタッチして下さい。
- 画面は閉じます。
- セットアップメニューが現われます。

機能ツールバーの設定

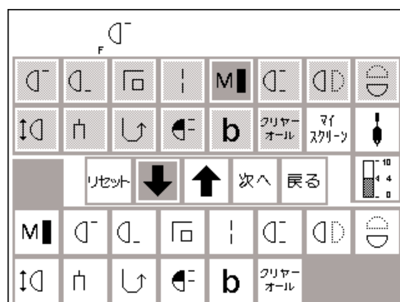
セットアップメニュー
- 画面右横のセットアップボタンを押すと、メニューが現われます。
- ≪機能の設定≫ボタンにタッチします。



機能画面
- 全機能が画面に現われます。
- 画面下の二行は実用縫いの機能バーと同じです。
- これらの機能はどの画面でも使うことが出来ます。（見えない時は画面を左右にスクロールして下さい。）
- 全機能が使えます。
- 画面中央の矢印⬇ ⬆は機能を移動させるために使います。
- 上の二行の機能は実用縫いの画面の機能と一致します。
- 上の行の機能は≪マイスクリーン≫以外は、起動しません。

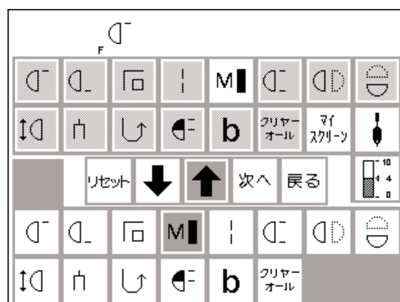
アーティスタ185には、7種類の機能バーがあります。
- 実用縫い
- 装飾縫い
- ボタンホール
- 9mm幅の文字
- 横送り縫いのモチーフ
- 4方向縫いまたは16方向縫いのメニュー
- モノグラム

1つの機能バーをカスタマイズするには、セットアップ画面に入る前に、まずステッチおよび機能オプションを選択しておく必要があります。それにより、正しい機能バーが起動され、セットアップ画面にてカスタマイズすることが可能になります。



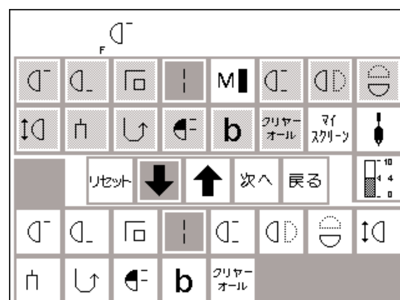
機能を移動する

- 画面下の2行からソーイングスピード機能≪M❙≫を選択します。
- 矢印上向きにタッチして下さい。
- 下の行からその機能が消えます。
- そしてこの機能は、上の2行に移動して、もう個々の画面、例えば、実用縫いの画面には表示されません。
- その機能は上の行で強調して表示され、つまり、休止状態になりました。
- 他の機能も同じ方法で移動、休止させる事が出来ます。
- 機能をもう一度プログラムし直す時は、まず、機能を画面の上に移動してやり直します。



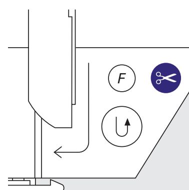
機能を挿入する

- 削除された機能は、いつでも元の状態に戻すことが出来ます。
- 上2行の中の機能から、例えば、ソーイングスピード≪M❙≫を選択します。
- 下向き矢印 にタッチします。
- 選んだ機能は、画面下のツールバーの先頭に挿入されます。
- 他の全機能は右に一つづつ移動します。



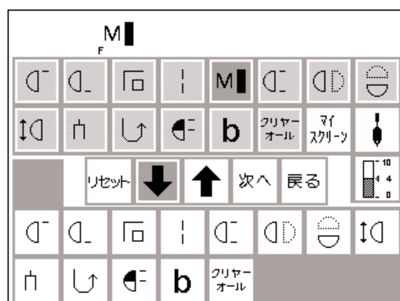
機能ツールバー上の2つの機能間に新しい機能を挿入する

- 新しい機能を今ある 2 つの機能の間に挿入することが出来ます。
- 上 2 行から機能を選択して下さい。
- 機能を挿入したい位置を下 2 行から選んでタッチして下さい。
- 下向き矢印 にタッチします。
- その機能は選択した位置に挿入されます。
- 前からあった機能は右に一つづつ移動します。



≪F≫（お好み機能）ボタン

- ミシン本体の手元返し縫いボタンの横にある≪F≫機能ボタンに良く使うお好みの機能をプログラム出来ます。
- 上2行の中から好みの機能を選択します。
- ≪F≫機能ボタンを押す。
- を押す。
- 機能がＦボタンに登録されました。
- 画面の上に登録した機能が常時表示されます。



- ≪F≫機能ボタンに選んだ機能がプログラムされました。
- 同様のやり方で、好きなだけプログラムのやり直しをすることが出来ます。
- プログラムされた機能は画面トップの≪針停止位置表示≫の表示の右横に常時表示されます。

リセット

全機能を基本セッティングに戻す
- ≪リセット≫ボタンにタッチする。
- 全機能は標準セッティングに戻ります。

機能の削除
- ボタンを押します。
- 機能が削除されます。

機能の追加
- ボタンを押します。
- 機能が追加されます。

ok

変更したものをセーブして閉じる
- ≪ok≫ボタンにタッチする。
- 変更したものがセーブされます。
- 画面が閉じます。
- セットアップ画面が現われます。

ステッチの幅、長さ、針位置の基本セッティング変更

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップを開く
- ステッチの幅、長さ、針位置を変えたいステッチを選択します。
- 画面右横のセットアップボタンを押し、メニューが現われたら、≪**送り長さ、振り幅、針基線変更**≫ボタンをタッチする。

この機能は、マイスクリーンおよびある特定のメニューにおいて、ステッチのカスタマイズをするときに使います。お好みのステッチの標準値を設定することができます。

リセット 次へ 戻る

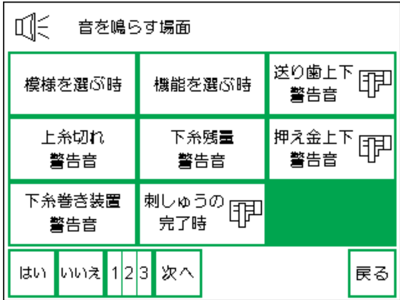
セッティングを変更する
ステッチの幅、長さ、針位置の画面が現われます。
- 画面右横の≪調節つまみ≫を使って≪**ステッチの振り幅と送り長さの基本セッティング**≫を変える。
- 画面右横のボタンで≪**基本針位置**≫を変える。
- ≪ok≫ボタンにタッチしてセーブする。
- 画面が閉じる。
- セットアップ画面に戻ります。

基本セッティングに戻る
- ≪リセット≫ボタンにタッチする。または外部ボタン≪clr≫を押します。
- ステッチが工場設定の標準セッティングに戻ります。
-

シグナル音の設定

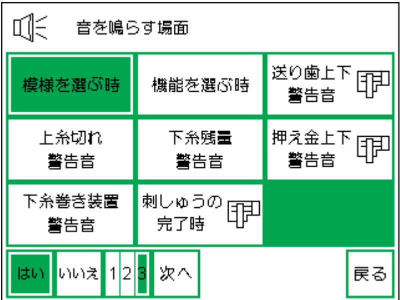
マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー
- ≪ピッ≫という操作音、または警告音を鳴らすことが出来ます。
- 画面右横の≪**セットアップ**≫ボタンを押すとメニューが現われる。
- ≪**音を鳴らす**≫ボタンにタッチする。
- シグナル音メニューが現われる。



シグナル音

- シグナル音は以下の操作時に鳴らすことが出来ます。
  - 模様選択時
  - 機能選択時
  - 送り歯の上下操作時（刺しゅう時）
  - 上糸モニター警告
  - 下糸モニター警告
  - 押え金の上下警告（刺しゅう時）
  - 糸巻き時
  - 刺しゅうの完了時
- シグナル音は、鳴らないようにセットする事も出来ます。
- 繰り返しの数も≪ピッ≫、≪ピッピッ≫、≪ピッピッピッ≫の三種類から選択できます。



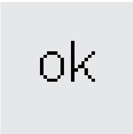
シグナルを追加する

- 例えば、≪模様を選ぶ時≫ボタンをタッチして選択する。
- 画面が強調されます。
- 画面下の≪on≫ボタンにタッチする。
- ≪123≫ボタンをタッチして、繰り返したい回数を（灰色で表示されている）選びます。

シグナルを除去する

- 例えば、≪模様を選ぶ時≫ボタンをタッチして選択する。
- 画面下の≪off≫ボタンにタッチする。
- シグナル音がオフになりました。

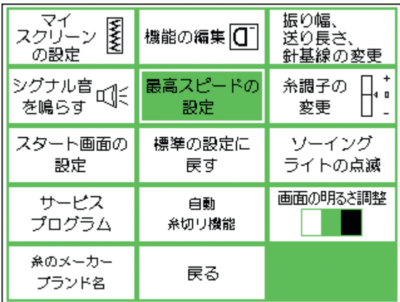
注意
シグナル音をオフにした場合、上糸および下糸モニター警告のセンサーも自動的にオフ状態になります。



セーブして閉じる

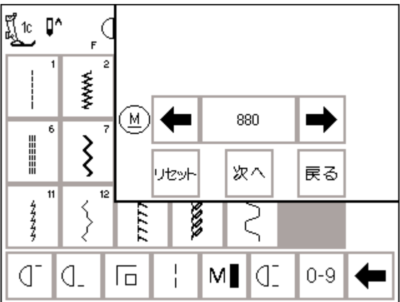
- 画面下の≪ok≫ボタンにタッチする。
- 変更通りにセーブされました。
- 画面が閉じます。
- セットアップ画面に戻ります。

ソーイングスピードの設定



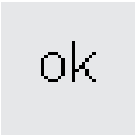
セットアップメニュー

- 画面右横の«セットアップ»ボタンを押すと、メニューが現われます。
- «ソーイングスピード»ボタンにタッチします。
- メニューが現われます。



ソーイングスピードを変える

- 矢印 ← → にタッチして、最高ソーイングスピードを設定できます。
- 矢印の間の数字が毎分の最高スピードを意味します。900回転が最高限度です。
- 最高ソーイングスピードを早めたり遅くしたりするのはこの数字で決められます。
- 最高スピードを変えると、各４段階（１/4、1/2、3/4、フル）の速度が順次最高速に合わせて変化します。



セーブして閉じる
- ≪ok≫ボタンにタッチしてください。
- 変更したものがセーブされます。
- 画面は閉じます。
- セットアップメニューに戻ります。

基本セッティングに戻る
同画面で≪リセット≫ボタンにタッチすれば、標準セッティングに戻ります。

上糸調子の標準セッティングを変更する

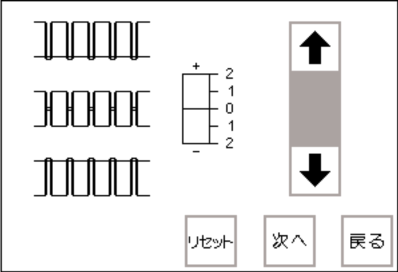
全てのステッチ毎に、標準の糸調子が工場でセットされています。ミシンは、3 本縫りの 100 番の糸を使って、広く応用できるテンションにセットされています。異なるタイプの糸や、布地に対しては、テンションを調整する必要があります。

セットアップで変更するテンションは、強弱双方向に最大 20%までです。
改めて、テンションをセットアップで調節しない限り、又は工場セッティングに戻さない限りは、変更されたままになります。

セットアップでテンションを変更すると、全てのステッチのテンションを変更することになります。

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー
- 画面右横の≪**セットアップ**≫プッシュボタンを押すと、メニューが現われます。
- ≪**上糸調子の調節**≫**ボタン**をタッチして下さい。



≪**上糸調子の調節**≫画面が現われます。
糸調子を変える
- 糸調子の標準セッティングはいつでも変更することが出来ます。(特に特殊な糸を使う場合に便利です。)
- 変更した糸調子が全ての模様縫いに影響します。
- 画面の左側中央のイラストは、布地の中央で上糸と下糸がバランスした完璧な状態です。
- 糸調子の目盛り(1—10)は画面中央に表示されています。
- 基本セッティングは灰色のバーで示されています。
- 矢印 ↑ ↓ のいずれかをタッチして糸調子を変えます。
- もしステッチの形が上のイラストのようになっているなら、上向きの矢印にタッチして下さい。
- ↑ ＝ 上糸の調子を強くする。(上糸調子を強くして、下糸を引っ張り上げる)
- もしステッチの形が下のイラストのようになっているなら、下向きの矢印にタッチして下さい。
- ↓ ＝ 上糸の調子を緩くする。(上糸調子を緩くして下糸が強くなるようにする。)
- 糸調子の変更はミシンのスイッチを切ってもセーブされたままになっています。
- 試しに縫ってみましょう。



基本セッティングに戻る
- ≪リセット≫にタッチすれば基本セッティングの糸調子に戻すことが出来ます。



セーブして閉じる
- ≪ok≫にタッチします。
- 変更した状態でセーブされます。
- 画面は閉じます。
- セットアップメニューに戻ります。

スタート画面の設定

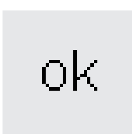
マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー
- 画面右横の≪**セットアップ**≫プッシュボタンを押すと、メニューが現われます。
- **≪スタート画面の表示／非表示≫**ボタンにタッチします。
- スタート画面が現われます。



≪スタート画面≫のスイッチを非表示にする
- スタート画面は表示、非表示を選べます。
- ≪**off**≫**ボタン**にタッチして下さい。
- 次回ミシンのスイッチを入れた時にスタート画面は表示されません。
- 実用縫いのメニューかマイスクリーンが直ちに現われます。

«スタート画面»を表示する
- «on»ボタンにタッチして下さい。
- ミシンのスイッチを入れるたびにいつもスタート画面が出て、続いて自動的に実用縫いのメニューが現われます。

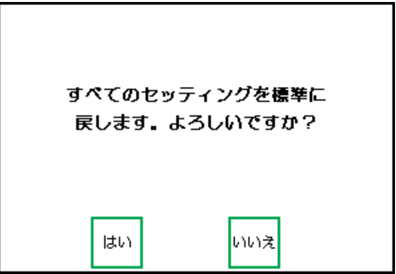


セーブして閉じる
- ≪**ok**≫ボタンにタッチして下さい。
- 変更した状態でセーブ出来ます。
- 画面が閉じます。
- セットアップメニューに戻ります。

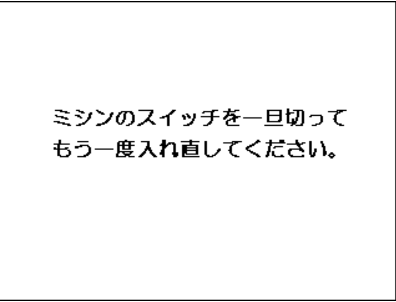
標準設定に戻る

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー
- 画面右横の≪**セットアップ**≫ボタンを押すと、メニューが現われます。
- **≪標準のセッティングに戻る≫**にタッチして下さい。

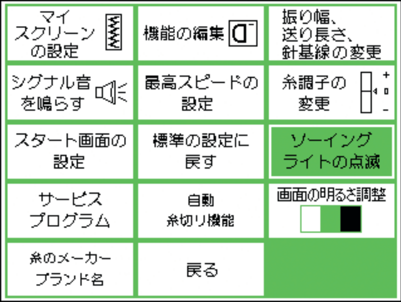


- メッセージが表示され、標準に戻すことを確認します。
- ≪はい≫ボタンをタッチして、標準化を進めます。
- 画面上でボタンの色が強調され、しばらく時間が掛かって、ボタンの色が元に戻ります。
- «いいえ»にタッチします。
- セットアップは標準化を行わずにメニューに戻ります。

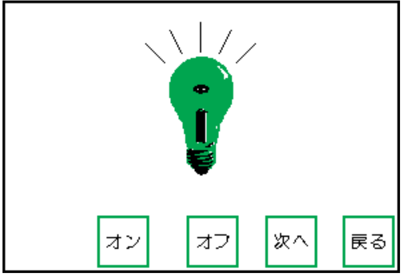


- スイッチを一旦切って、また入れるように、メッセージが表示されます。
- リセットが完了しました。

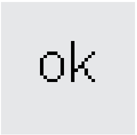
注意
標準セッティングに戻しても、プログラムしてメモリーに保存したデータは消去されません。



セットアップメニュー
- 画面右横の≪**セットアップ**≫ボタンを押すと、メニューが現われます。
- ≪**ソーイングライトの点滅**≫を選択します。



ソーイングライトの点滅の選択
- ≪**オン**≫ボタンにタッチして下さい。
- ライトはミシンのスイッチが入っている間はずっとついたままです。
- ≪**オフ**≫ボタンにタッチして下さい。
- ミシンのスイッチを入れてもライトはつきません。
- セットアップ画面上でオン/オフのボタンを押してもライトは点滅しません。一旦セットアップ・プログラムを終了してください。



セーブして閉じる
- ≪**ok**≫ボタンにタッチして下さい。
- 変更した状態でセーブされます。
- 画面が閉じます。
- セットアップメニューに戻ります。

サービスプログラム

サービスプログラムとは、パソコンソフトのバージョン情報を確認し、またタッチ画面の感度の調整および刺しゅう枠との位置調整等を行うプログラムです。

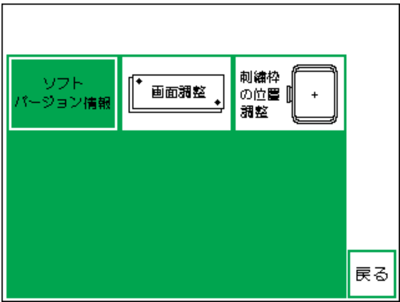
ソフトウェアバージョンの確認

マイ スクリーン の設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

代理店にミシンの調子や扱い方、またバージョンアップ等の各種情報を問い合わせるとき、ミシンと刺しゅう機に組み込まれているソフトのバージョン（仕様番号）を知っておいていただくと、的確ご回答をご提供できます。

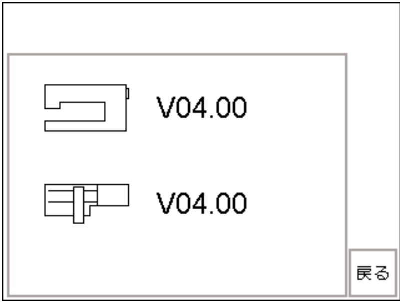
セットアップメニュー

- 画面右下の«セットアップ»ボタンを押すと、メニューが表示されます。
- «サービスプログラム»ボタンをタッチします。



サービス画面

- サービス画面が表示されます。
- ≪ソフトバージョン情報≫ボタンをタッチします。



ソフトバージョンの情報

- 画面にソフトのバージョン番号が表示されます。
- 刺しゅう機が接続されている場合には、刺しゅう機のバージョン番号も、左の画面のように表示されます。
- 通常、ミシンと刺しゅう機のバージョン番号は同じでなければ、フル機能を発揮できません。
- ≪戻る≫ボタンをタッチして、サービス画面に戻ります。

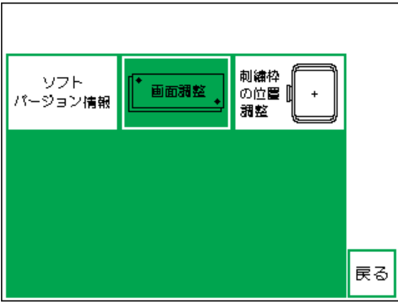
タッチ画面の感度の調整

タッチセンサーの感度をリセットすることが出来ます。

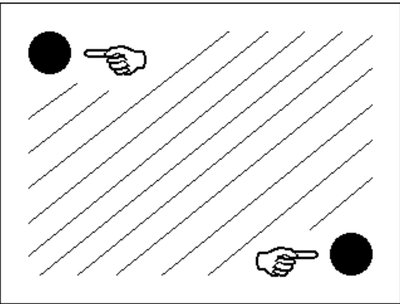
メモ：
工場からの出荷時に、タッチセンサーの感度は設定されていますが、輸送中や各種の衝撃でタッチ画面の感度が鈍くなることがあります。このようなときには、次の手順でタッチ画面の感度を再調整できます。

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー
- 画面右下の≪**セットアップ**≫ボタンを押すと、メニューが表示されます。
- ≪**サービスプログラム**≫ボタンにタッチします。



サービス画面
- サービス画面が表示されます。
- ≪画面調整≫ボタンをタッチします。



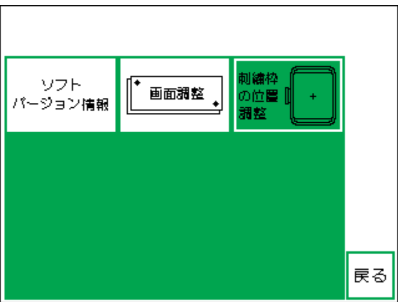
画面感度の調整
- 感度調整用画面が表示されます。
- 黒い点を1つずつ指先でタッチします。順番は、どちらからでも構いません。
- ミシンは≪ピー≫という音を出して、正確にタッチされたことを確認します。
- 元の画面に戻ります。

注意;
黒い点以外の画面部分をタッチしてしまうと、技術的な修理が必要となる場合がありますので、十分お気をつけください。

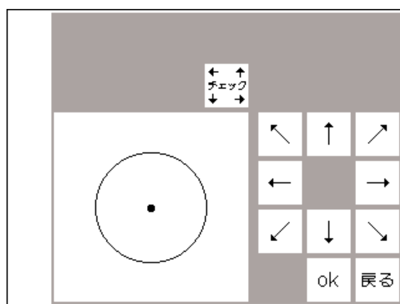
この調整により、針を刺しゅう枠の中心に持ってくることができるようになります。刺しゅう枠の調整機能は、刺しゅう機が接続されている場合にのみ可能です。

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー
- 画面右横の«**セットアップ**»プッシュボタンを押すと、メニューが現われます。
- «**刺しゅう枠の位置調節**»ボタンをタッチします。



サービス画面
- サービス画面が表示されます。
- ≪画面調整≫ボタンをタッチします。



刺しゅう枠の位置調節

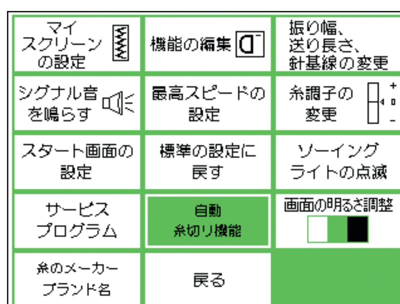
- 刺しゅう枠位置調節の画面が現われます。
- ミシンに刺しゅう機をセットして、一番大きな刺しゅう枠を取り付けます。
- 刺しゅう枠に碁盤の目が印刷された透明のテンプレートをセットします。
- ≪チェック≫ボタンにタッチすると刺しゅう枠の位置が読み込まれテンプレートの中央が針の真下に移動します。
- 針がテンプレートの中央の針穴に正確に合っていなければなりません。
- もしずれていたら、矢印で調節します。
- 刺しゅう枠の調節は一度セッティングすれば、あらゆるサイズの刺しゅう枠に合うようになっています。



セーブして閉じる

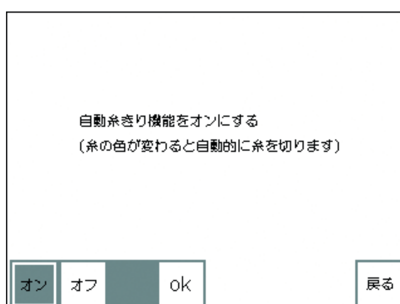
- ≪ok≫ボタンにタッチして下さい。
- 調節した状態でセーブされます。
- 画面が閉じます。
- セットアップメニューに戻ります。

自動糸カッター



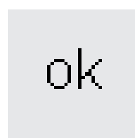
セットアップメニュー

- ≪自動糸切り≫を選択します。
- 画面上で、自動糸切りのオンオフができます。



自動糸切り

- 刺しゅう時に糸の色が変わってミシンが停止したときに、糸を自動で切るか,切らないかを選べます。
- オフをタッチすると、自動糸切りはオフになります。
- オンをタッチすると、自動糸切りはオンになります。



セーブして閉じる

- ≪ok≫ボタンにタッチすると、調節した状態でセーブされます。
- ≪戻る≫をタッチすると、セットアップメニューに戻ります。

画面のコントラストを調節する

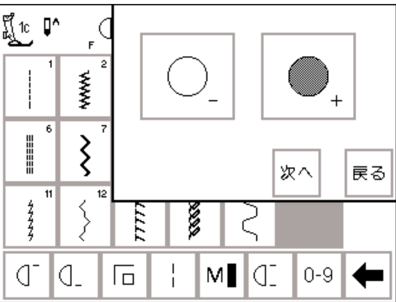
画面のコントラストを調節します。

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー

- 画面右横の≪セットアップ≫プッシュボタンを押すと、メニューが現われます。
- ≪ ≫ボタンにタッチして下さい。(常に画面の右下です)。画面が読みにくくなっていることを忘れないようにして下さい。

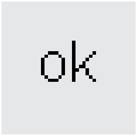
- コントラスト画面が現われます。



コントラストを調節する

- 二つ(○ー:明るくなる、●+:暗くなる)のどちらかを使ってコントラストを調節して下さい。
- タッチしてコントラストを増減させます。

- 元の画面が左側に見えたままになっていますので、コントラストの状態を見ながら調節して下さい。



セーブして閉じる

- ≪ok≫ボタンにタッチして下さい。
- 変更した状態でセーブされます。
- 画面が閉じます。
- セットアップメニューに戻ります。

刺しゅうデザインの糸のメーカーブランドを変更する

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

ご使用になりたい糸のメーカーの色番手を表示することが出来ます。

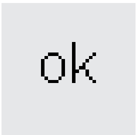
セットアップメニュー

- 糸ブランドを選択します。

無し	Isacord (Isaコード)	Sulky サルキー
Madeira マデイラ	Mettler メトラー	オリジナルカラー
	ok	戻る

糸ブランドの変更

- 選択した糸ブランドの色番号が、刺しゅう画面に表示されます。



セーブして閉じる

- ≪ok≫ボタンにタッチすると、調節した状態でセーブされます。
- ≪戻る≫をタッチすると、セットアップメニューに戻ります。

セットアップ機能を終わる

マイスクリーンの設定	機能の編集	振り幅、送り長さ、針基線の変更
シグナル音を鳴らす	最高スピードの設定	糸調子の変更
スタート画面の設定	標準の設定に戻す	ソーイングライトの点滅
サービスプログラム	自動糸切り機能	画面の明るさ調整
糸のメーカーブランド名	戻る	

セットアップメニュー

- ≪**戻る**≫ボタンにタッチして下さい。
- セットアップ画面は閉じられます。
- 変更したものがセーブされます。
- ミシンのスイッチを切っても変更したものはセーブされたままです。

エコ機能

緑色の≪**エコ(エコロジー)機能**≫プッシュボタンは電力を節約します。

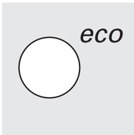
もし≪エコ機能≫が起動していたら、50%の電力の節約になります。

スイッチを入れたままで使っていない状態が長く続く時はこのエコ機能を使います。

このエコ機能はパソコンの≪スクリーンセーバー≫機能に匹敵するものです。

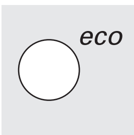
今使っている画面、メモリーの全内容、選択した他の機能は全てそのままです。画面は暗くなり細部がようやく見える程度で、休止状態になります。
再度使い始めるには、≪エコ機能≫プッシュボタンを押しますと、ミシンは休止以前の状態に戻ります。

電力の節約とは別に、エコ機能はまた幼児への安全策も備えています。 エコモードでは、ミシンは休止状態にロックされます。ミシンを再度使うには、エコモードを終了して、元の画面に戻します。



エコ機能

- 画面右横の≪**エコ機能**≫プッシュボタンにタッチして下さい。
- 電力の使用料は 50%カットされます。
- しばらくの間仕事を中断したい時に便利です。



画面

- 画面は暗くなり、細部が辛うじて見える程度になっています。
- ミシンはロックされていますので、エコモードのままでは縫うことが出来ません。
- セッティングは全てそのままです。

ソーイングに戻る

- ≪**エコ機能**≫プッシュボタンにタッチして下さい。
- ミシンは元のセッティングに戻ります。
- 止めてある所からスタートすることが出来ます。
- エコモードはミシンの電源スイッチを切った時には解除されます。

特殊アクセサリー

次のページからは、アーティスタでご使用頂ける別売りオプションのアクセサリーについてご紹介します。これらのアクセサリーがあれば、ミシンの可能性は無限に広がるでしょう。詳しくは、最寄りの正規販売代理店にお問い合わせ下さい。

CPS模様交換ソフトウェアー

CPS模様交換ソフト

このパソコン用ソフトのおかげで予めプログラムされたステッチや文字の代わりに、豊富に用意された模様縫いの中から、ご自分の好みの模様と入れ替えることが出来ます。

簡単な「ドラッグしてドロップする」作業だけで、いつでも何度でも繰り返し、模様の入れ替えが可能です。
また模様縫いだけでなく、刺しゅう用デザインや文字も入れ替えられます。

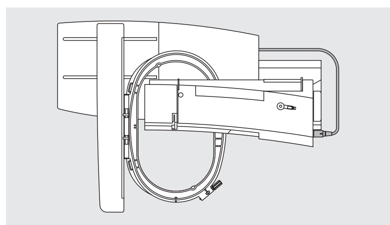
専用刺しゅう機

刺しゅう機（別売りオプション）
アーティスタの専用刺しゅう機を使って、完全自動で素晴らしく大きな刺しゅうモチーフをフルカラーで縫うことが出来ます。

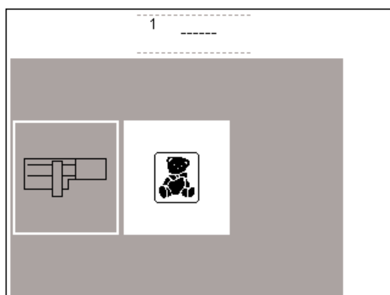
刺しゅう機は左図のようにセットし、接続用のソケットをミシンの右手側コンセントに差し込みます。

標準で３０種類のモチーフが記憶されています。画面に表示されたモチーフを選んで、直ちに縫い始めることが出来ます。

幅広いテーマをカバーする別売りの刺しゅうカードも用意されています。刺しゅう機にこのカードを差し込み、モチーフを選んで縫うだけです。



刺しゅう機の接続方法
・ ミシンの電源を切ります。
・ アクセサリーボックスを使っているときは、取り外します。
・ フリーアームの後側に左側から滑らすように刺しゅう機を差し込みます。
・ ミシンの土台（後の右側）に接続用突起が正確に差し込まれるのを確認してください。
・ ミシン右側面の刺しゅう機接続用のコンセントにプラグを差し込みます。
・ ミシンの電源を入れます。



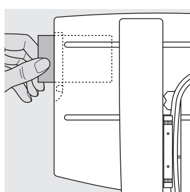
デザイン
・ 刺繍メニューが現われます。
　- 左側 – 刺しゅう機用ボタン
　- 右側 – 刺繍カード用ボタン
・ ≪**刺しゅう機**≫ ボタンにタッチします。
・ モチーフと文字が現われますので選択して縫います。
・ ≪**刺繍カード**≫ ボタンにタッチします。
・ 刺繍カードのモチーフが現われますので選択して縫います。
・ 刺しゅう機の機能には際限がありません。モチーフを反転、拡大、縮小することもできますし、ステッチの密度も変えることが出来ます。

刺繍カード（別売りオプション）

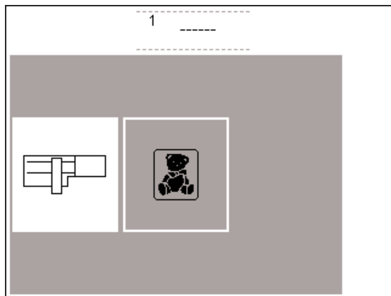
幅広いテーマをカバーした刺繍カードを刺しゅう機でご使用いただけます。

一つのテーマ毎に各カードが用意されています。 常に新しいカードが発表されていますので、最寄りのベルニナ正規販売代理店へお問い合わせ下さい。

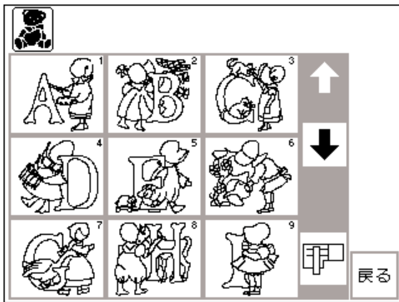
刺しゅうカードは刺しゅう機のカード差し込み口に差し込みます。内容は画面に表示されますので、矢印でスクロールしてご覧ください。



カードを差し込む
・ 刺しゅう機のカード差し込み口にカードを差し込んで下さい。



刺繍カードのメニュー
- 刺しゅうのメニューが現われます。
- **≪刺しゅうカード≫**ボタン（クマの絵）にタッチして下さい。



カードの刺しゅうモチーフ
- 最初のモチーフの画面が現われます。
- スクロールして次々とモチーフを見る事が出来ます
- ミシンにプログラムされたステッチと同じように選択して縫いましょう。

日本語パソコン刺しゅうソフト（別売りオプション）

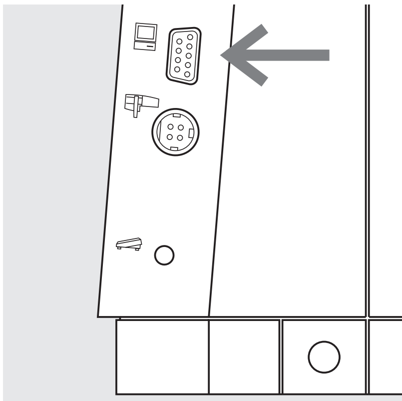
ベルニナのアーティスタ刺しゅう用パソコンソフトを使えば、簡単に刺しゅうのデザインを組み合わせたり、反転したり、サイズ変更したりすることができます。

また、145mm×255mmまでのサイズならば、オリジナルの作品を作ることも可能です。ご自分の手で、最初の一針から刺しゅうを完了するまで、すべて思いのままに創作することができます。個性的なオリジナルデザインに挑戦してみてください。デザイナーはあなた、でも、面倒な作業はすべてアーティスタにお任せください。

パソコン上でデザインされた刺しゅうモチーフは、接続ケーブル（9ピンシリアルポート使用）を通してアーティスタに転送されます。
オリジナルデザインはコンピューターやベルニナ特製の別売りブランク刺繍カードにもセーブすることが出来ます。

このプログラム
ソフトはマイクロソフト社のWindows 95 / 98 / Me / 2000 / XP等のオペレーティングシステムで稼動し,初めての人にも簡単に使うことが出来ます。
ＴＷＡＩＮ対応スキャナーやデジタルカメラはコンピューターショップでご購入いただけます。オリジナルデザインまたはクリップアートを、デジタル化された形で直接ソフトに転送することができる強い味方です。

デザインを保存する方法
- パソコン上に。
- 刺しゅう機にセットしたマイスクリーンデザインカードに。
- リーダーライターボックス（別売りオプション）にセットした空のメモリーカードに。
- 刺しゅう機に直接でも保存できます。



接続ケーブルをつなぐ
- ケーブルをつなぐ前にミシンのスイッチは切って下さい。
- ミシン右側面の丸型ソケットにケーブルを差し込みます。
- ミシンのスイッチを入れて下さい。

ご使用方法などの詳細説明は、各刺しゅうソフトの使用説明書をご参照下さい。

詳しくは最寄りのベルニナ正規販売代理店にお尋ね下さい。

ミシン針に関する重要事項

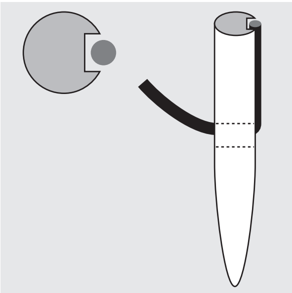
ミシン針、糸

当ベルニナのミシンではシステム130／705Hタイプのベルニナ純正針を使用して下さい。

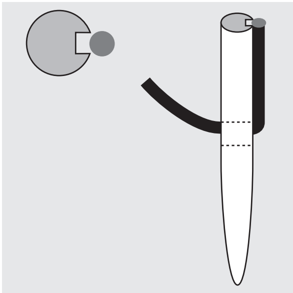
針と糸

最も一般的に市販されている針は、70-120番（日本仕様10-18番）です。針が細いほど番号が小さくなっています。この表は針がどんな糸に合っているかを示したものです。使う針は糸次第です。針が糸に合ったものでなければなりません。

針と糸の関連	70	80	90	100	110–120
かがり糸	○	○			
刺繍糸		○			
コットン糸		○	○		
化繊糸		○	○		
太糸、化繊糸			○	○	
ボタンホール糸 飾り糸、ステッチ:				○	○

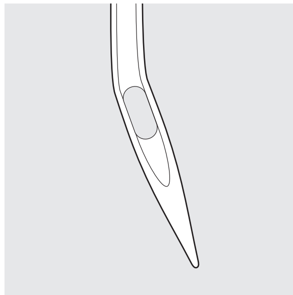


針と糸の正しい組み合わせ
縫うとき、糸は針の長い溝を走って通ります。

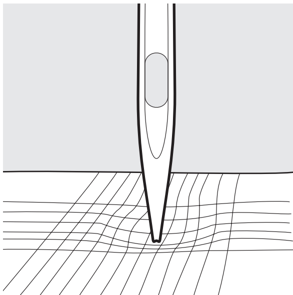


不適正な針と糸の組み合わせ
糸の太さに対して針が細すぎる場合、糸溝に糸がうまく沈まず、布にフラッギング（ぺこ付き現象）を発生させ、きれいに縫えません。

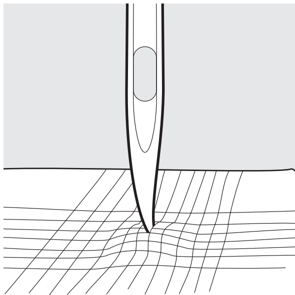
針と布地ー針の状態
針は完璧な状態でなければなりません。針に異常があるとトラブルの元です。



曲がった針



先のつぶれた針



先がぎざぎざの針

各種のミシン針

特殊な布ほど、布地に適した針を使い分けることにより、大変縫いやすくなります。ベルニナ正規販売代理店では、様々な針を用途に合わせて取りそろえております。

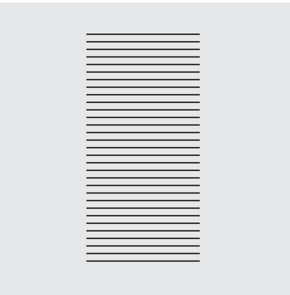
針一覧表 針の記号	針先形状	用途	針の番手
標準針 130/705H	標準の針先	汎用針、化織や天然繊維の織地、 例えば、リネン、シフォン、人絹、オーガンジー、ウール、サテン、ベルベットなど、飾り縫い、刺しゅう	60–100
ジャージー・ストレッチ 130/705H-S 130/705H-SES 130/705H-SUK	ボールポイント	絹、化織、綿、薄地のウール地、薄手のニット地、特に伸縮性の強い生地、デリケートな伸縮地用	70–90
レザー針 130/705H-LL 130/705H-LR	カッティングポイント	各種天然皮革、合成皮革、ビニールコーティング地、プラスチック	90–100
ジーンズ針 130/705H-J	針先シャープ	綾織、作業衣、麻、デニム、キャンバス地、目のつんだ生地。	80–100
マイクロテックス 130/705H-M	特にシャープな先端	マイクロ繊維、シルク	60–90
キルティング **130/705H-Q**	鋭い先端	直線縫い、トップステッチ	75–90
刺しゅう **130/705H-E**	大きな針穴、僅かにボールポイント	あらゆる生地での刺しゅうに。	75–90
メタフィル **130/705H-MET**	大きな針穴	メタリック糸に	75–90
コルドネット **130/705H-N**	わずかにボールポイント、長い針穴	太い飾り糸でトップステッチ	80-100
ウィング針 130/705HO	幅広く、ウィング付	綿ローンや綿オーガンジー等の織りのゆるい薄地でヘムステッチやレース付け	100–120
ダブルウィング **130/705H-ZWI-HO**		特殊効果を生み出すヘムステッチ刺しゅうに	100
二本針 130/705H-TWI	針間隔 1.6／2.0／2.5／3.0／4.0／6.0／8.0mm	伸縮地のヘム縫いに、ピンタック、飾り縫い、キルティング	70–100
三本針 130/705H-TRI	針巾3.0mm	飾り縫い、キルティング	80

送り歯と布送り

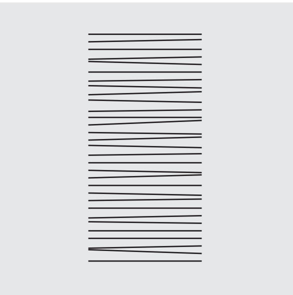
送り歯と縫い目の長さ

送り歯は、通常一針毎に一回ずつ布送りをします。この一回の布送り量は、送りダイヤルで調節した長さです。特に細かい縫い目の場合は、一回の布送りの量もわずかですので、フットコントローラーを一杯に踏み込んでも、布送りの速度はゆっくりしたものとなります。ボタンホールやサテンステッチおよび飾り縫い等は、通常、送りを細かくして縫います。

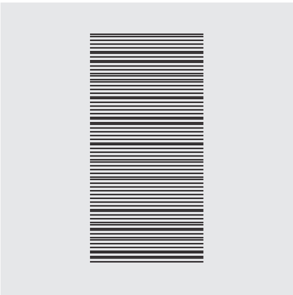
重要事項



布送りが均等になるようにします。

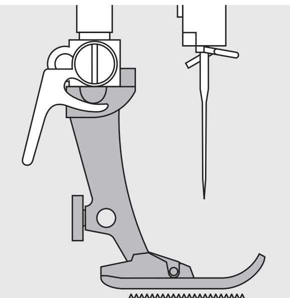


布を手で引っ張ったり、押し込んだりすると縫い目にすき間ができます。

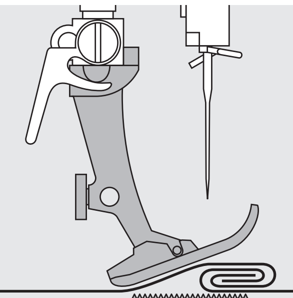


布を手で押えてしまうと縫い目が重なってしまいます。

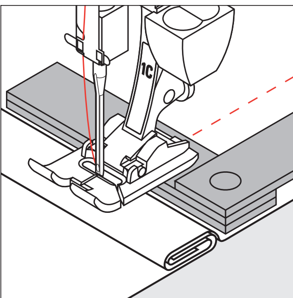
送り歯と布送り



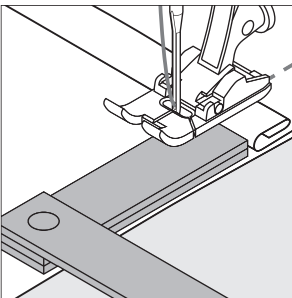
通常押え金は水平の状態で布を正確に送ります。



押えが図のような厚い部分を縫うときは、押え金が角度を持ち、送り歯が正確に布を送れなくなります。

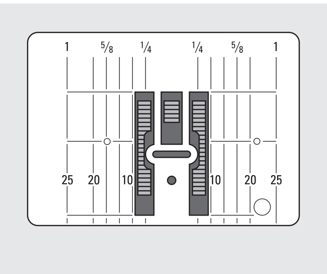


このようなときには、アクセサリーの中にある高さ調節板を高さにあう枚数を使って縫います。

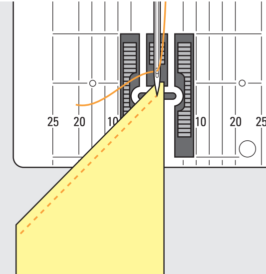


押えの手前で高さを調整する時は、必要な枚数の高さ調整板を押えの右下側に置きます。布の段差がなくなるところまで縫い進んだら、高さ調整板を外します。

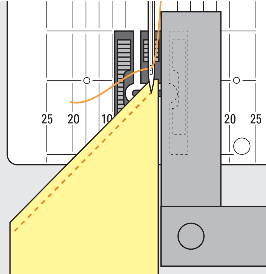
送り歯とコーナーの縫い方



左右の送り歯は、少し離れた位置についています。これはジグザグ縫い等、針が左右に振れる場合に備えてのことです。

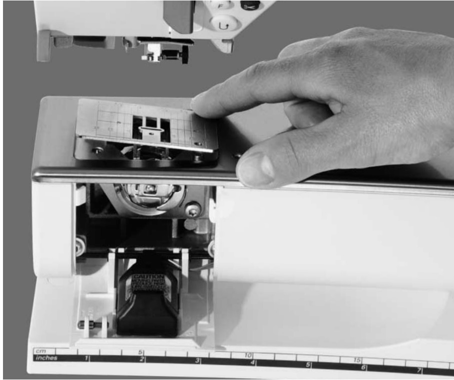


角を縫う場合は、送り歯に乗る部分はほんの少しなので、送りが正確に進まない場合があります。



そのような場合には、布端に高さ調整板を当てるようにすると、送りが正常に戻り、縫い目がきれいになります。

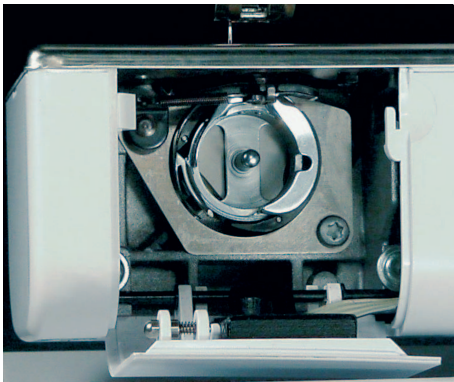
クリーニングの方法



ミシンを極端に気温の低い部屋においている場合、使用の1時間位前から通常の気温の部屋に移しておいて下さい。

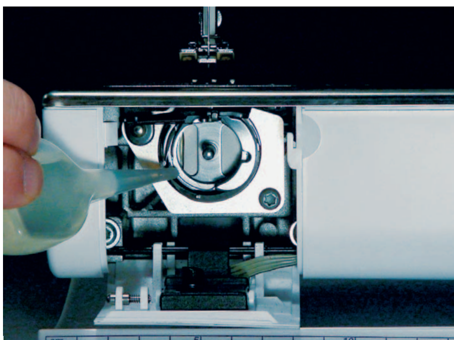
針板周辺の掃除
ご使用後、針板の下にたまった糸の糸くずや布粉を掃除してください。
・電源をオフにしてコードを抜き、
・押えと針を外して、
・開閉カバーを開きます。
・針板の右後ろ隅を人差し指で強く押えて針板を浮かせます。
・持ち上げて外します。
・ブラシで掃除し、
・針板をもとに戻します。

スクリーンの掃除
濡れたソフトクロスで拭きます。



釜の掃除
・電源をオフにしてコードを抜き、
・ボビンケースを取り出します。
・大釜レース（溝）の回りをブラシや布で掃除します。その際、尖ったものを使用しないこと。
・ボビンケースを戻します。

ミシンのクリーニング
・ 濡れたソフトクロスで拭きます。
・ 汚れがひどい時は中性洗剤を溶かした水をソフトクロスに浸して拭きます。



注油について
・ 2-3 滴のオイルを大釜の溝に注油します。
・ 糸を通さずにミシンを 2—3 分運転してください。
・ 余分なオイルを取り除いて、生地に染みをつけないように注意します。

重要
アルコールまたは揮発性の洗剤は、決して使わないこと。

ソーイングランプの交換



“安全にご使用いただくために”をご参照下さい。

通常の電球に比べて、CFLライトは明るく長持ちします。

注意
CFLライトの交換は、専門業者にお任せください。
電球の交換の際は、ミシンをベルニナ正規販売代理店にお持ち下さい。

使用直後の電球は大変熱くなっています。冷めてから電球を交換してください。

トラブルの原因と対策

故障かな？ と思ったら次の要領でまずお調べ下さい。

チェックポイント
- 上糸、下糸が正しくかかっていますか。
- 針が正しくとりつけられていますか。（平らな部分を後ろ側にします。）
- 針は、針と糸の一覧表を見て、正しいものを使用して下さい。
- ミシンをきれいに掃除し、糸くずを取り除いて下さい。外がまの掃除も忘れずに。
- 上糸調子ディスクの間や、ボビンケースの糸みちのごみを取り除いて下さい。

上糸切れの原因
- 上糸調子が強すぎる。
- 針の品質が良くない。（ベルニナ製品取扱店でお買い求め下さい。）
- 針が正しくセットされていない。（平らな部分を後ろ側にして下さい。）
- 針先がつぶれている、または曲がっている。
- 糸の品質が良くない。（こぶがあったり、ささくれていたり、古くて乾燥しすぎている等）
- 針板の糸穴やかまのけん先に傷がついている。このような場合には、ベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。

下糸切れの原因
- 下糸調子が強すぎる。
- ボビンケースの中で、糸がからまっている。ボビンを取り出し、チェックしてください。
- 針板の針穴に、傷がついている。このような場合には、ベルニナ製品取扱店にご相談下さい。
- 針先がつぶれている、または曲がっている。

目飛びの原因
- 針が正しくない。ベルニナ純正の 130/705H サイズの家庭用ミシン針を使用して下さい。
- 針先がつぶれているか、曲がっている、または正しくセットされていない。（針は一杯まで差し込んで止めて下さい。）
- 布地に合った針を使っていない。

針折れの原因
- 針の止めネジの締め方が十分でない。
- 縫い終わった後、布を手前へ引いてしまった。
- 厚地を縫っていて、針が布地に刺さっている状態で布を押してしまった。
- 質の悪い糸を使っていた。（糸よりが均一でない、こぶがある等。）

縫い目が乱れる原因
- テンション皿に糸くずが残っている。
- ボビンケースのテンションばねの内側に、糸くずが残っている。
- 上糸、下糸の糸通しを再確認してください。
- 糸こま押えのサイズが正しくない。

ミシンが回転しないか、高速にならない原因
- 電源コンセントが正しく入っていない。
- 電源スイッチがオフになっている。
- 室温が低すぎミシンが冷え切って十分に機能しない。
- 下糸巻き装置がオンになっている。
- 糸くずが回転釜にはさまっている。

ミシンが前進送りしない原因
- 機能選択ボタンの「連続返し縫いボタン」がオンのままになっている。

ソーイングランプの故障

注意

- 当製品のソーイングライトの交換は、専門業者にお任せください。電球の交換の際は、ミシンをベルニナ取扱店にお持ちいただきます。

用語	解説
≪チェック≫	メモリー域の内容を検索すること。
≪clr≫クリア	セッティングを削除したり、元どおりにしたり、基本セッティングに戻すこと。
≪カーソル≫	・画面上で入力される位置を示すマーク（垂直の線）。 ・メモリーでは削除や挿入を示すときに使う。
≪カスタマイズ≫	顧客の要望に応じる事。個別化、個性化。
≪削除≫	コマンドを削除（クリア）すること。
≪編集≫	変更や修正すること。
≪戻る≫	画面やプログラムを閉じる、以前の画面に戻る、あるいは、画面をスタートする。
≪ヘルプ≫	簡単な情報を提供してくれる全体的なプログラムのことで、機能や特別なステッチに関して助言を与えてくれる。
≪mem≫メモリー	ステッチ、ステッチの組み合わせ、文字や数字などを記憶して編集、保存出来る機能。
≪メニュー≫	プログラムの内容の一覧、例えば、選択できるステッチや機能。
≪ok≫	先に進める前に作業内容や選択内容を確認する。
≪アウトライン≫	アウトラインデザイン　＝　横送りステッチ、中は空洞のステッチの輪郭。
≪パターン≫	モチーフ、ステッチ。
≪PC≫パソコン	マイスクリーンコンピューター。
≪パソコン用刺しゅうソフト≫	ベルニナのお客さま専用に開発した、使いやすい刺しゅう用パソコンソフト。 ・刺しゅう機と組み合わせて、模様を簡単に編集、反転、サイズ変更等することができ、またオリジナルのデザインを美しい刺しゅうに転換することも可能です。
≪スクロール≫	上下、左右に画面を移動させてデータを検索すること。
≪セットアップ≫	各自の利用に便利なように変換出来る機能。

用語	解説
≪smart≫スマート	作業を中断する間、ステッチやセッティングすべてをセーブするプログラムのこと。
≪ソフトウェアー≫	コンピューター プログラム
≪保存≫	いつでも呼び出せるようにメモリーをセーブすること。
≪ツールバー≫	画面上のグループのことを言う用語。例えば、機能など。
≪タッチスクリーン≫	ミシンを操作する画面上のボタンにタッチすること。
≪tutorial≫チュートリアル	さまざまのミシンの特徴を知るための指導書。
≪アップデイト≫	ミシンに新しいソフトをインプットすること。
≪アップグレード≫	ミシンに新しいソフトをインプットして更に機能を充実させる事。

索引

索引

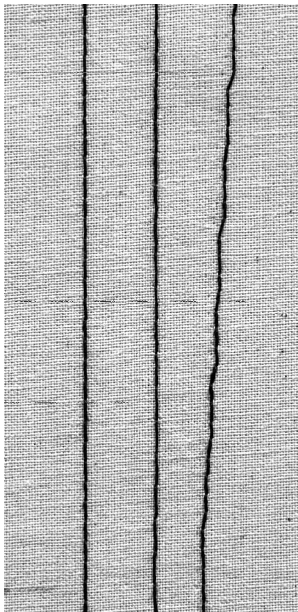
ソーイングマニュアル
アーティスタ 185



030866.51.10_0401_a185_JP

直線縫い

ステッチ：	直線縫い　＃１
針：	生地に合わせて選びます
糸：	コットン又はポリエステル
送り歯：	上
押え金：	スーパー模様縫い押え No.1C ジーンズ押え No.8



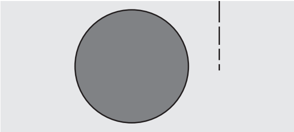
A　B　C

直線縫い

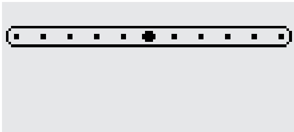
・電源を入れれば、Welcome 画面が約３秒表示され、その後、すぐに縫い始められます。
・画面には直線縫い模様が濃く表示されます。

画面表示

・標準押えの番号１Cが表示されます。
・厚地にはジーンズ押え No.8 とジーンズ針を使います。
・送り長さおよび振り巾の標準設定が表示されます。
標準設定は常にその位置で点滅しています。

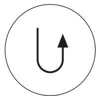


・**送り長さを変える**
・送り長さは縫いながら変更できます。
・送りダイヤルを右に回すと長くなります。
・送りダイヤルを左に回すと短くなります。



針基線を変える

・針基線ボタンを使って、縫いたい位置に針の位置を変えられます。
・＜ボタンを一回押すごとに左基線側に移動します
・＞ボタンを一回押すごとに右基線側に移動します。
・中央の基線を含めて11ポジション選べます。
・エッジステッチ、トップステッチ、タックなどを縫うのにも便利です。



針元返し縫いボタンを使って止め縫い

・このボタンを押している間返し縫いをします。
・ボタンを離すと、前進縫いに戻ります。

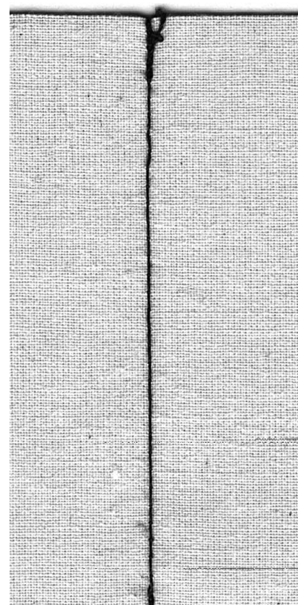


ヒント

生地のタイプにより、送り長さを調節して下さい。
･例　デニム等は3～4の長めに。
糸に合わせて、送り長さを調節して下さい。
・例 トップステッチ用の太い糸では3～5位の長めに。
・途中で針を止める時は針下位置停止機能を使います。
・ミシンを止めた時に布地が動いて縫い目がゆがむのを防げます。

自動返し縫付直線ステッチ





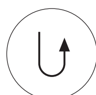
ステッチ:　自動返し縫い＃５
針:　80／12または70／10番
糸:　ミシン糸またはかがり糸
送り歯:　上
押え:　スーパー模様縫い押えNo.1C

止め縫い
・ あらゆる生地に適用できます。
・ 縫目の始まりと終りを返し縫いして止めます。

模様の選択
・模様 No.5 をタッチします。

画面表示
・模様が濃く表示されます。
・押えの番号
・振り巾および送り長さの標準設定が表示されます。

縫い始め
・ミシンが自動的に縫い始めを止め縫いします。
（5針前進、5針後進）
・その後、直線縫いを続けます。



縫い終わり
・針元返し縫いボタンを押すとミシンが自動的に止め縫いをします。（押した位置から5針前進、5針後進）
・止め縫いが終了すると、ミシンは自動的に停止します。

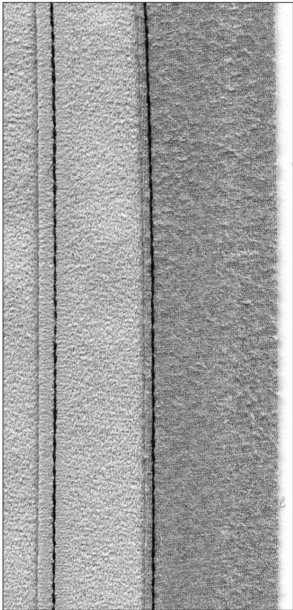


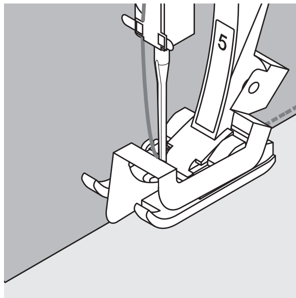


ヒント
・自動止め縫いは、長い範囲を縫う場合に特に便利です。

縁縫い

模様:	直線縫い＃1
針:	生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸:	ミシン糸またはトップステッチ用太糸
送り歯:	上
押え:	スーパー模様押えNo.1C



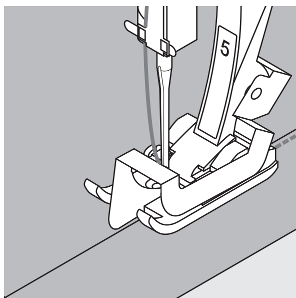


幅の狭いエッジ縫いの場合

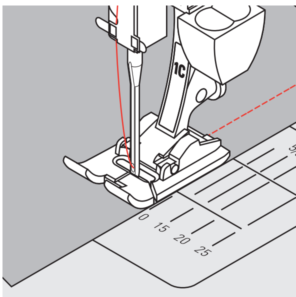
針位置
外側に縫目がくる場合は、左基線
内側に縫目がくる場合は、右基線

押え
まつり縫い押え5番

布端のエッジ縫い
・折り返した布端を押えの布ガイドに当てて置きます。
・端から縫目までの距離に合わせて、針位置を決めます。

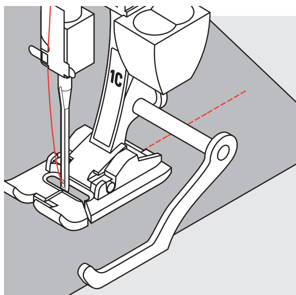


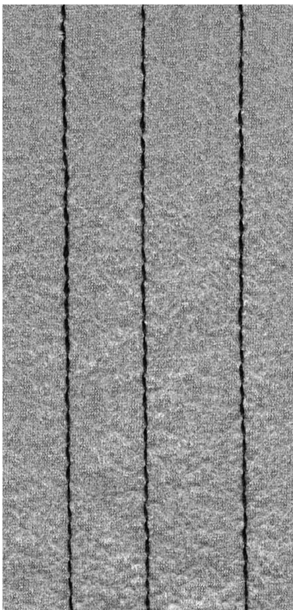
ヘム縫いの場合
・折り返した布端を押えの布ガイドに当てて置きます。
・針位置を、折り返した布端に沿って決めます。
5 番の押え金を使う場合は、針基線はNo.1C左またはNo.1C右にします.
10 番の押え金を使う場合は、針基線はNo.1C左または右にします。



巾の広い縁縫い

針位置
・すべての位置で可能
押え金
・スーパー模様縫い用押えNo.1C
幅の決め方
・押えの巾をガイドとして利用できます。
1～3cm
・針板の目盛りをガイドとして利用します。
定規棒（シームガイド）
・押えホルダーの図で示された穴に差し込み、
・好みの巾にして、ネジを締めます。
・定規棒に沿って、布の折り山をガイドしながら縫います。
平行線の縫い方
先に縫った線と平行にもう一本縫う時は、定規棒が前の縫い線をなぞるように縫います。







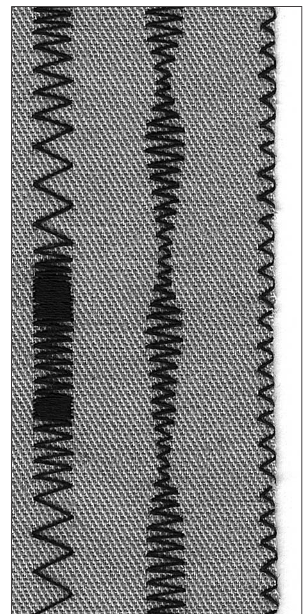
ヒント

縁縫いと定規棒
平行線や碁盤の目に縫うときに、大変役に立ちます。

ジグザグ縫い



ステッチ: **ジグザグ縫い #2**
針: **生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え: **スーパー模様押えNo.1C**

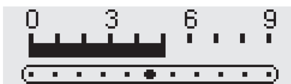


A 送りを色々変えて縫うジグザグステッチ
B 振り幅を色々変えて縫うジグザグ
C ジグザグで縁かがり

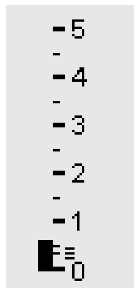
ジグザグ縫い
- あらゆる生地に適用
- 縁かがりの仕上げ
- 飾り縫い

模様選択
2 番のジグザグステッチを選びます。

画面表示
- 押えの番号
- 送り長さと振り巾の標準設定が表示されます。
- 標準設定は点滅で表示されています。



振り巾の変更(A)
縫いながら変更できます。
- ＜ 広くする
- ＞ 狭くする



送り長さの変更(B)
縫いながら変更できます。
- ∨短くする
- ∧長くする



サテンステッチ
ジグザグを密にして、ステッチをかける方法です。

縁かがり(C)
- 布端を押えの中心に合わせます。
- 一針は布の上に、もう一針は布の外側端ぎりぎりに落ちるようにします。
- 縁かがりをきれいに仕上げるために、振り巾や送り長さをあまり大きくしない方がよいでしょう。
- 薄手の生地には、かがり糸を使用して下さい。



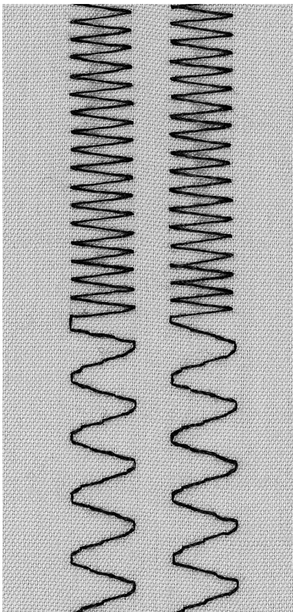
ヒント

ジグザグで縁かがり
- 布端が丸く巻込む時は、バリオーバーロックステッチと2番の押えを使用します。

サテンステッチの刺繍縫い
- 振り巾を調整して、刺しゅうの効果をあげます。

ステッチメモリー機能

模様：　あるゆるステッチで可能
針：　生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸：　ミシン糸または刺しゅう糸
送り歯：　上
押え：　スーパー模様押えNo.1C



A：標準セッティングを変えたジグザグ縫いから、同じく変更されたランニングステッチを選ぶ。

B：もう一度ジグザグを選ぶと,変更されたままになっており、ランニングステッチも変更されたものが記憶されています。

ステッチメモリー
- 全ての縫目と生地に
- 変更した送りと振り幅を自動的に記憶します
- 例：
  –ジグザグを縫います。
  –振り幅、送りを変えます。
  –別の縫目を縫います。
  –ジグザグ縫いを再度選ぶと変更した送りと振り幅のままになっています。
- 直線縫いやジグザグ縫いに特に便利です。
- 自動記憶されるステッチの数に限りはありません。
- 電源を切ると全てのステッチメモリーは消えます。

使い方
- ジグザグ縫い＃２を選びます。
  ランニングステッチ＃４を選びます。

標準セッティングを変える（Ａ）
- ジグザグ縫い＃１を選びます。
- 振り幅を９に変更。
- 送りを1に変更。
- 縫います。
- ランニングステッチを選びます。
- 振り幅を9に変更。
- 送りを1に変更。
- 縫います。

変更したセッティングがステッチメモリーに記憶された（Ｂ）
- ジグザグ縫い＃1を選びます。
- 変更した通りに縫うことを確かめて下さい。
- ランニングステッチを選びます。
- 変更した通りに縫うことを確かめて下さい。

標準セッティングに戻すには
- 方法１　≪clr≫ボタンを押します。
- 方法２　振り幅と送りをそれぞれ標準に手動で戻します。
- 方法　３　ミシンの電源を切ると、ステッチメモリーはすべて標準にリセットされます。



注意
- ステッチメモリーには、必要なだけいくらでもステッチの変更を保存することができます。（送り長さ、振り幅、針基線、糸テンションおよびバランス）。

ヒント
標準設定の変更
生地やソーイング手法に合わせて、送りや振り幅を自由に変更し、変更したままでソーイングを続けることが出来、便利です。
ソーイング中の模様の変更
布端をかがったり、直線縫いに戻したりという面倒な作業も、いちいち送りや振り幅を変更する必要もなく大変便利です。

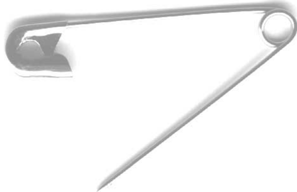
実用縫いによる縫い合わせ

割り縫い
縫い代を両返しにして、アイロンがけする縫い方です。
・縫い代の巾は、いくらでもかまいません。
・縫い代は平らでかさばりません。
・また、縫い代が伸びて開いてしまうことはありません。
適したステッチ
・直線縫い、狭幅のジグザグ、スーパーストレッチ縫いおよびトリプル直線縫い
用途
・主に、織地に使われます。
・洋服やホームアクセサリーに

オーバーロック縫い
縫い代を割ることができないような縫いあわせ
・ 縫い合わせと縁かがりが同時にできます。
・ 縫い代の巾は、狭くなります。

用途
・ 主にニットやジャージーに適しています。
・ ジャージーやランジェリー、ベッド用リネンなど



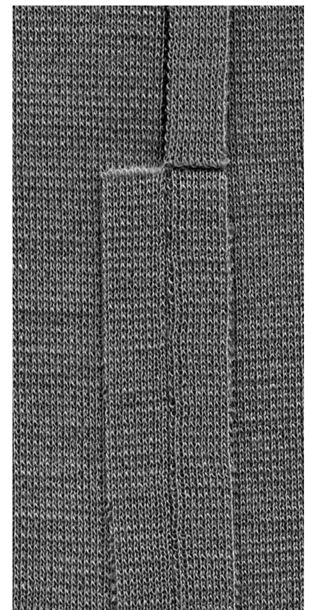


伏せ縫い
裁ち目を両方から包み込んで、縫い合わせます。
・ 縫い代の上を縫います。

用途
・ タオル地やライクラ等に適しています。
・ レジャー着やランジェリーに

ジグザグ縫い合わせ





模様:	**ジグザグ縫い #2**
振り巾:	**大体1くらい**
送り長さ:	**大体 0.5 くらい**
針:	**80／12番、SUKニット用針(中細ボールポイント)**
糸:	**ミシン糸**
送り歯:	**上**
押え:	**スーパー模様押えNo.1C**

割り縫い
ニット地、ジャージー地を割り縫いするときに適しています。

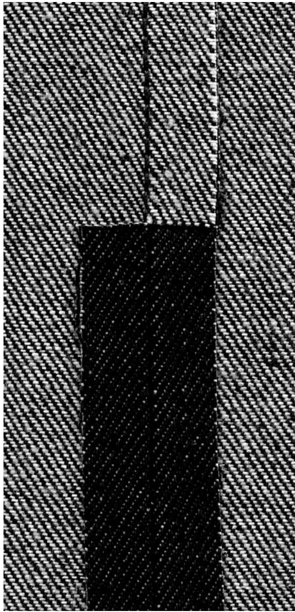


ヒント
ジャージー地またはニット地の縫い合わせ時の伸び防止
・生地に合わせて、押え圧を弱くして下さい。

トリプル直線縫い



模様: **トリプルステッチ直線 #6**
針: **標準針 80-90 番、またはジーンズ針**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え: **スーパー模様縫い押えNo.1C**

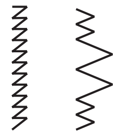


割り縫い
デニム、コーデュロイ等の堅い生地に適した丈夫な縫目です。

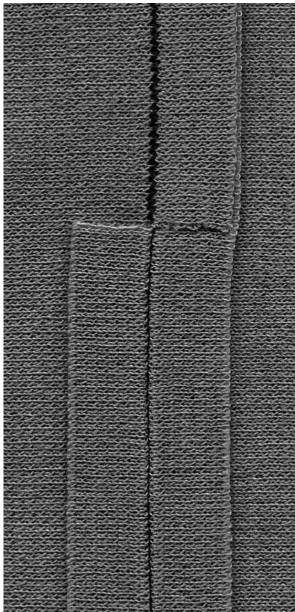


ヒント
非常に堅い生地には、ジーンズ用針を使用して下さい。

スーパーストレッチ縫い



模様: **ストレッチ＃18／スーパーストレッチ＃11**
針: **標準針、ボールポイント針、ストレッチ針**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え: **スーパー模様押えNo.1C**



割り縫い
スポーツウェア等の伸縮地に最適な、非常に伸縮性の高い縫目です。



ヒント
ニットやジャージー地を縫う時
・生地に穴を開ける等の事故を避けるため、新しいボールポイント針を使用して下さい。

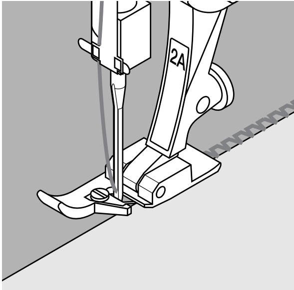
伸縮地に適した針
・必要に応じて、130/705H-S のストレッチ針を使用するようにして下さい。針先が、繊維を傷つけずに縫えます。

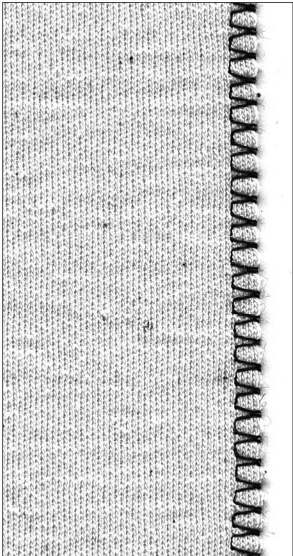
ニット地やジャージー用の縫目
・ 生地に合わせて、押え圧を弱くして下さい。

バリオーバーロック縫い



模様：　バリオーバーロック　#3
針：　生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸：　ミシン糸またはかがり糸
送り歯：　上
押え：　オーバーロック押え2番





オーバーロック縫い
シルクニットやインターロック等の薄く柔らかい伸縮地に適しています。

縫い方
裁ち目を押えのピンに沿わせるようにして進めます。

ヒント
ニット地およびジャージー
・ 生地を傷つけないよう、新しいボールポイント針を使用して下さい。

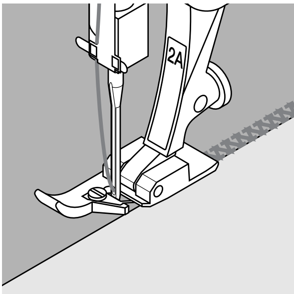


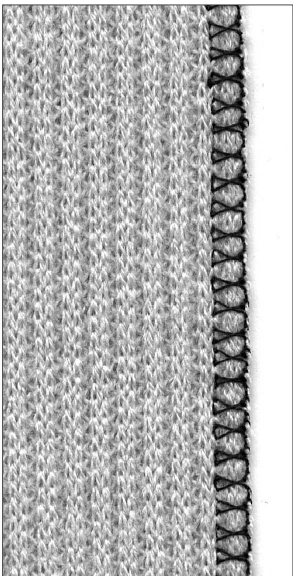
伸縮地を縫う場合
・ 必要に応じて、ボールポイント針（130/705H-S）をご使用下さい。針先で繊維を傷つけることなく縫えます。

ダブルオーバーロック縫い／ニット・オーバーロック縫い




模様：　ダブルオーバーロック#10／ニットオーバーロック#17
針：　生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸：　ミシン糸
送り歯：　上
押え：　オーバーロック押え2番





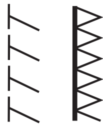
オーバーロック縫い
目の粗いニット地やジャージーにオーバーロック縫い

縫い方
オーバーロック押えのピンの部分に裁ち目を合わせるようにして、進めます。

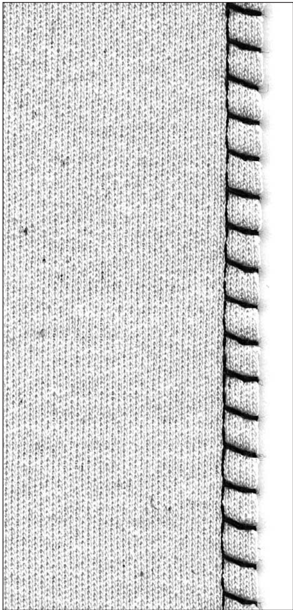


ヒント
ニット地やジャージー地
・ 生地の損傷を避けるため、新しい針をご使用下さい。
伸縮地を縫う場合
・ 必要に応じて、ボールポイント針（130/705H-S）をご使用下さい。針先で繊維を傷つけることなく縫えます。

伸縮オーバーロック縫い／強化オーバーロック縫い



模様: 伸縮オーバーロック縫い＃13
強化オーバーロック縫い＃19
針: 標準針、ボールポイント針、ストレッチ針
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様押えNo.1C



オーバーロック
目の粗いニットやソフトなニット地に最適

縫い方
・布端にストレッチオーバーロックを掛ける。
布端では針が布の外側に落ちるように縫います。

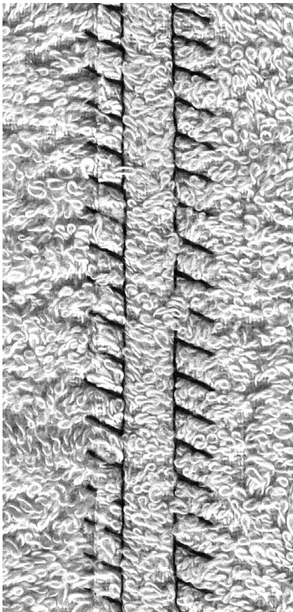


ヒント
目の粗いニット地
・生地にあわせて押え圧を弱くします。

伏せ縫い



模様: ストレッチオーバーロック#13
針: 標準針、ボールポイント針、ストレッチ針
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様押えNo.1C



伏せ縫い
・タオル地、フェルト、レザーなどの厚地や、弾力のあるふわふわした生地などに適しています。

縫い方
・ 布端を２センチくらいフラットに重ね、互いの布端に沿って、ステッチの直線部分を平行に、ジグザグが布端を押えるように縫います。



ヒント
布地と糸
・ 縫目が目立たないように、共色の糸を使います。

厚手の堅い生地を縫う場合
・ 普通の直線縫いでは縫目が緩みがちな厚手の生地に。

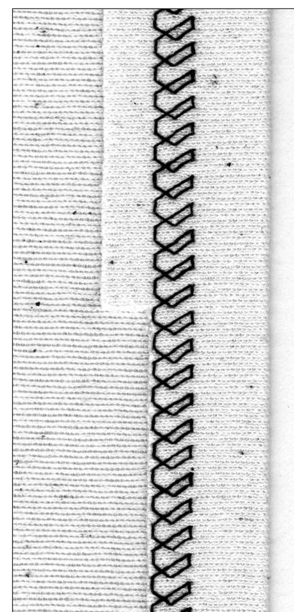
各種の縁かがり

準備
必要ならば、縁にアイロンおよびしつけをかけておいて下さい。

縫い方
・表側から、適当に縫い代を残して縫い、
・最後に、裏側で縫い代を切り取り仕上げます。

縁かがり–ジャージーステッチ





模様: **ジャージーステッチ#14**
針: **標準針、ボールポイント針、ストレッチ針**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え: **スーパー模様押えNo.1C**

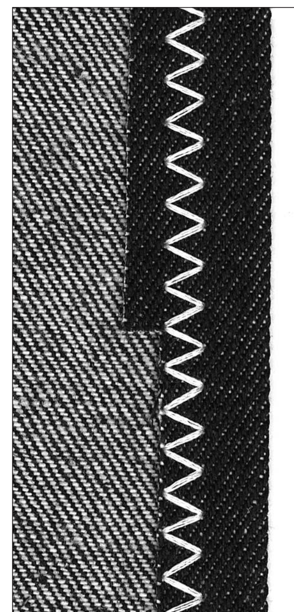
伸縮地のヘム仕上げ
あらゆる種類のジャージー地(コットン、ウール、化繊および合繊)の縁飾りに適しています。



ヒント
ニット地とジャージー
・新しいボールポイント針を使用して、ニット地の繊維を傷つけないようにします。
伸縮地
必要に応じて、ボールポイント針(130・705H–S)を使うと、針先が繊維を傷つけずに縫えます。

縁かがり–トリプルジグザグ





模様: **トリプルジグザグ#7**
振り巾: **生地により、2.5〜9mmくらい**
送り長さ: **標準設定**
針: **標準針、ジーンズ針**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え: **スーパー模様押えNo.1C**

丈夫な飾り用ヘム縫い
デニムや目のつんだキャンバス地等の厚手の堅い布に適しています。



ヒント
よく洗濯するものの縁かがりでは、まず初めに布端をきちんと揃え、その布端の上にミシンをかけると、ほつれません。
厚手の堅い生地を縫う場合には、ジーンズ用針を使うとスムーズに縫えます。

ニット地の縫い方

重要事項

針

・ 生地をいためないよう、先のつぶれたものは使用しないで、できるだけ新しい針を使いましょう。

ストレッチ針130／705H－S

・針先が繊維を避けて滑るように縫うので、生地をいためません。

糸は、品質のよいものを使いましょう

・固い糸はニット地をいため、洗濯時の穴あきの原因になります。

しつけ用にかがり糸を使う

・縫い込んだときにも後で取り除くのが簡単で便利です。

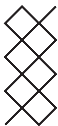
必要に応じて、試し縫いを

・最近の生地の伸縮性は様々ですので、生地に合わせて送りと振り巾の標準設定を調節する必要があります。
・縫目と生地の伸縮度は、同程度の物を選びます。
・伸縮の強い生地には、送り長さを短く、振り巾を大きくすることで対応できますが、どちらか一つの調整で十分な場合もあります。

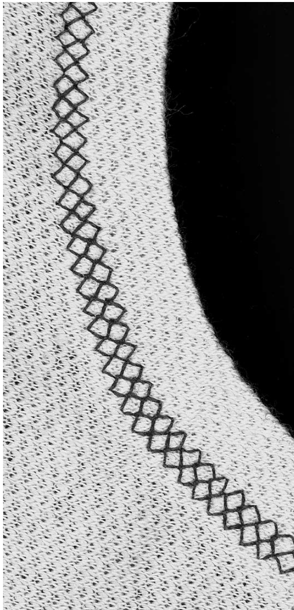
押え圧

・柔らかい、目の粗いニット地は、しわになる可能性があります。その場合は、しわができない程度まで、押え圧を弱めて下さい。ただし、送り歯がきちんと生地を送らなくなるほど弱くしてはいけません。

リブ襟つけ



模様:	**ネットステッチ＃8**
針:	**標準針、ボールポイント針、ストレッチ針**
糸:	**ミシン糸**
送り歯:	**上**
押え:	**スーパー模様押えNo.1C**



あらゆる種類のジャージー地（木綿、ウール、化繊および合繊）に適しています。

準備 襟周りを1cm内側に折ります。

縫い方は、表側から襟の端に沿って縫ってから、裏側で縫目からはみ出た縫い代を切り取ります。



送り微調整を使って、ネットステッチが広がってしまう場合、送り微調整をマイナスにして、縫目を細かくします。逆にステッチが細か過ぎるという場合には、プラスに調整して下さい。



ヒント

針下位置停止機能を使えば、襟縫いの途中でミシンを停止しても、針が生地に刺さったままで残ります。

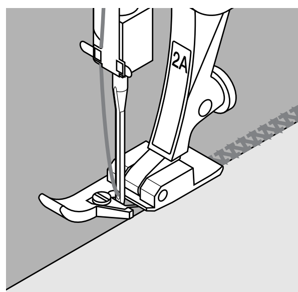
押え圧

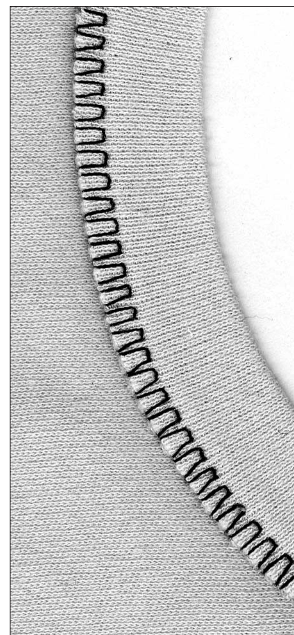
ヘムが伸びるようでしたら圧力を下げます。

襟つけ–オーバーロック縫い



模様：　バリオーバーロック＃３
針：　生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸：　ミシン糸
送り歯：　上
押え：　オーバーロック押えＮｏ.２Ａ





オーバーロック縫いを使った襟つけ
・ 薄手のジャージー地に適しています。

準備
・ 襟周り（リブ）を半分に折り、襟周りの表側に待ち針としつけをします。

縫い方
・ 布端にバリオーバーロックをかけます。
その際、布端を押えのピンに沿うようにガイドします。

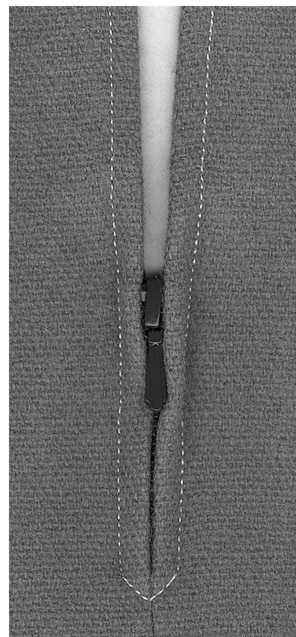




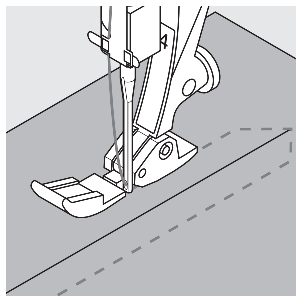
ヒント
針下位置停止機能
針下位置停止機能を使えば、襟周りを揃えたりするのに途中でミシンを止めても針が生地に刺さったまま残るので、ずれが起こらず便利です。

ファスナー付け

模様:	**直線縫い＃1**
針:	**生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸:	**ミシン糸**
送り歯:	**上**
押え:	**ファスナー押え4番**
針基線:	**左／右**



準備
・布端が、ファスナーの中心上で合うように、しつけをかけておきます。



縫い方
・縫目が、布の折り目と平行になるように注意しながら、ファスナーの両側を下から上に向かって縫います。
・その際、ファスナーの右側を縫う場合は、押えを左に寄せ右基線で、左側の場合は右に寄せて左基線で、押えの端がファスナーの歯に沿って動き、また針はファスナーのすぐそばに落ちるように縫います。

コンシールファスナー押えNo.34
・オプションでベルニナ製品取扱店にてお買い求め下さい。





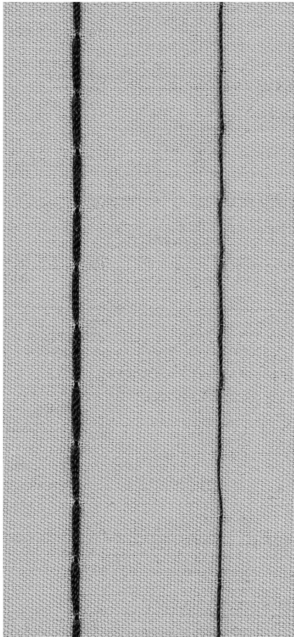
ヒント
ファスナーのむしの部分が押えにひっかからないように、ファスナーを上げた状態で、むしから5cmくらい下の部分まで縫い進めたら、針は下位置に残したまま押えを上げ、ファスナーを開き、再度押えをおろして縫い続けて下さい。

縫い始めは、糸を手できつめに引いておくか、または数針分のみ、生地をわずかに後ろに引き加減にするとよいです。

ファスナーの生地は厚くまた堅いので、均一なステッチのために、90/14 または 100/16 番の針をお薦めします。

ロングステッチ機能

ロングステッチ機能をオンにすると2針に一回縫って、各縫目を2倍の長さに変換します。
最大の縫目長さは、送りを 5 にセットしたときに 10 ミリになります。
トリプル直線縫いと一緒に使うとトップステッチ用の飾り縫いに最適です。



模様: **直線縫い#1、又はトリプル直線ステッチ#6**
針: **生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸: **ミシン糸またはかがり糸**
送り長さ: **3.5 – 5**
送り歯: **上**
押え: **スーパー模様押えNo.1C**
機能: **ロングステッチ機能**

ロングステッチ
・飾り縫いに
・トップステッチに







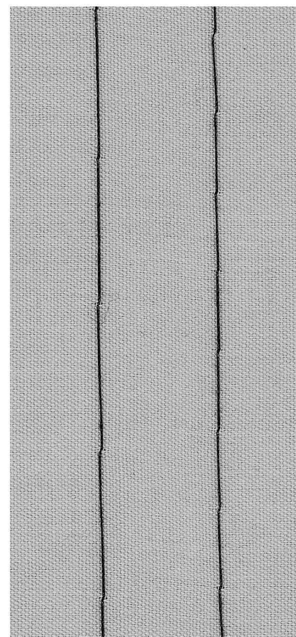


ヒント
コルドネットを使ったロングステッチ
・ コルドネット紐には 100/16-110/18 の針を使います。

しつけ縫いに
・しつけ縫いとしても使えます。

しつけ縫い

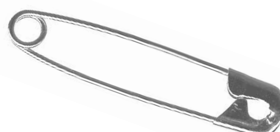
しつけ縫い機能をオンにすると4針に一回縫います。
最大の縫目長さは送りを 5 にセットしたときに 20 ミリになります。



模様: しつけ縫い＃21
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り長さ: 3.5–5
送り歯: 上
押え: スーパー模様押えNo.1C

しつけ縫い
・長いステッチの必要な場所に
・素早く、簡単にしつけ縫い
・取り除き簡単









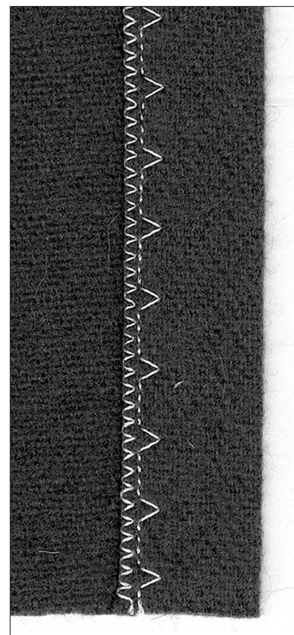
ヒント
縫い始めと終りの止め
・しつけの縫い始めと終りに直線縫いの標準セッティングで2～3針縫っておくと、しつけの途中で糸がぬけたりしません。

しつけ糸
・しつけ糸を縫い込んでも取り除き易いように細手の縫い用糸を使いましょう。

まつり縫い



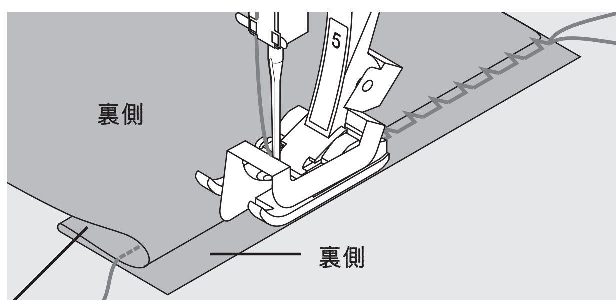
模様: まつり縫い＃9
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: まつり縫い押え No. ５



まつり縫い
- 中厚手の木綿、ウールおよび混紡に目立たない縁縫いをするのに最適です。

準備
- 布端を切り揃え、
- 手縫い同様にあらかじめ縁かがりをします。
- その後、図のように押え金の下に生地を置きます。

縫い方
- 手縫いの場合同様、針が折り目の端ぎりぎりをとらえるように注意します。
- 生地に合わせて振り巾を調整します。
- １０cmくらい縫い進んだら、生地の裏表をチェックして、必要であれば再度振り巾を調整します。





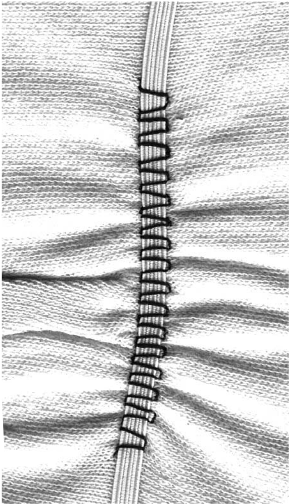
ヒント
縫目を均一にするために:
- 縫いながら布をわずかに手元に引っ張り加減にして下さい。

縫目を均一に、また巾を揃えるには:
- 折り目の端を、押えのガイド金具に沿って進めると、仕上がりがきれいになります。

エラスティック–ゴムひも付け／コード付け



模様:　ユニバーサルステッチ#15
振り巾:　ゴムの太さに合わせる
針:　生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸:　ミシン糸
送り歯:　上
押え:　スーパー模様押え 1C、または刺しゅう用押え 20C



ゴム紐の縫い付け
- 広い範囲にギャザーを寄せたい場合や、薄手の生地にフリルをつけたい場合に適しています。

準備
- ゴムひもを必要な長さにカットしておいて下さい。

縫い方
- ゴムひもを縫い付ける際、針がゴムに刺さらないように注意して下さい。
- 縫い終わったら、ギャザーを手で調整して、均一に寄せ直します。

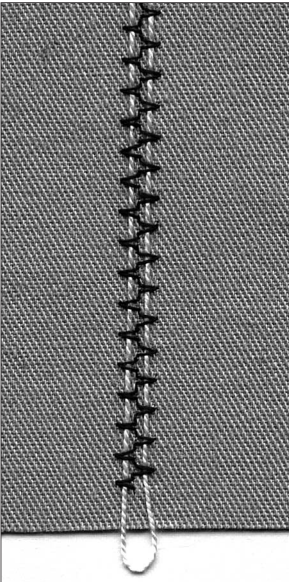


ヒント
縫い始めと縫い終わりの始末
- ゴムひもの縫い始めと縫い終わりは、直線縫いで数針ずつ止め縫いをして下さい。

クイック・ヘム仕上げ
- 子供服や人形のドレスに
- 脇縫いをする前に、縁かがりのときにゴムを一緒に縫い付けてしまうという方法があります。

シャーリング／ギャザリング





模様:　ギャザリングステッチ　#12
針:　生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸:　ミシン糸
送り歯:　上
押え:　ボタンホール用押え3C

シャーリング・エラスティック／コード
・広い範囲にギャザーを寄せたいときに適しています。

準備
- ギャザーの倍の長さに、ゴム紐をカットしてから、半分に折ります。
- ボタンホール押えの中央の突起に、ゴムの輪の部分をひっかけ、ゴムの両端は押えの下に入れます。

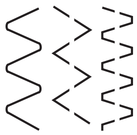
縫い方
- 数針縫って、
- ゴムを手前に引き、ゴムの両端を押えの後ろ側においたまま縫いつけます。
- 縫い終わったら、ゴムを引いて、ギャザーを寄せます。
- 縫っている間、ゴムを伸ばし加減にして下さい。
- 強く引っ張るほど、ギャザーをたくさんとれます。

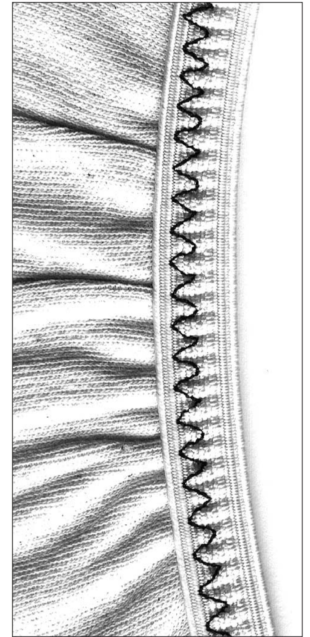


ヒント
始めと終りを止め縫い
・送り歯を下げて、数針ずつ縫って下さい。

押え圧
・必要に応じて強くします。

エラスティック–幅の広いゴムひも





模様: ランニングステッチ＃4、二点ジグザグ＃16、ライクラステッチ#17
送り長さ: ゴムの性質によって調整して下さい。
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様押え 1C

幅広のゴムひも
・幅広のゴムひもを使えるので、スポーツウェアや下着のゴム部分の仕上げに最適です。

準備
・ゴムひもを必要な長さに切り、
・生地とゴムひもをそれぞれ4分割して印をつけ、
・印を合わせて、ゴムひもを生地に待ち針で止めます。

縫い方
・ ゴムひもを引っ張りながら縫って下さい。
・ 縫い終わったら、はみ出た部分の布を始末します。





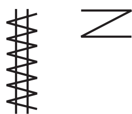




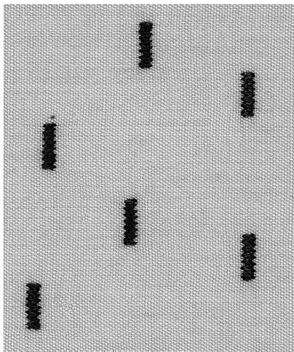
ヒント
先に布端にギャザーを寄せておく
・ゴムを伸ばしながら縫う必要がなくなるので、楽に作業が進みます。

ゴムひもを伸ばして縫う方法
・ 生地とゴムひもに合わせて押え圧を減らせば、ゴムひもが必要以上に伸びてしまうこともなくなります。

環ぬき止め縫い–自動



ステッチ: 環ぬき止め縫い #24、ボタンホール環ぬき止め #25
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: かがり糸
送り歯: 上
押え金: スーパー模様縫い押え 1C



環ぬき止め縫い
- ポケット、ジャケット、ジーンズ、オーバーオールといった厚地の縫い終りを補強するために

ボタンホール環ぬき止め
- ボタンホールの環ぬき止めを補強するために

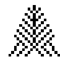
ソーイング
- 環ぬき止め縫いでは左上から縫い始めます。
- 自動的に止まります。



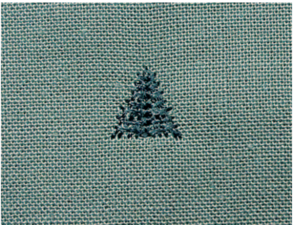
ヒント
飾り縫いの環ぬき止め
- ステッチの長さを長くして飾り縫いの糸を使って環ぬき止め縫いを縫います。＝（他のステッチと組み合せて）飾り縫いの小さな四角形ができあがります。または、環ぬき止めを2つ、直角に組み合せて、飾りに使うこともよいでしょう。

ファスナー
長過ぎるファスナーは、適した長さにカットした後、25番の環ぬき止め縫いプログラムを使って補強するとよいでしょう。

フライステッチ



ステッチ: フライステッチ #26
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸または飾り糸
送り歯: 上
押え金: スーパー模様縫い押え 1C、または横送り縫い押え４０C





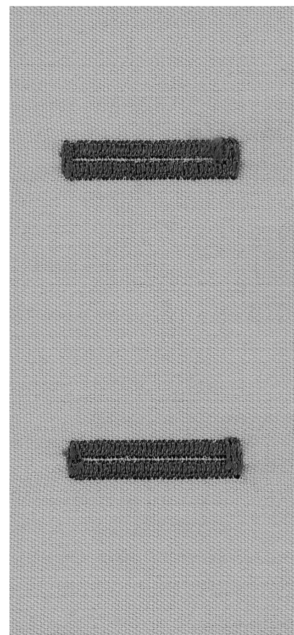
フライステッチ
フライステッチは、縫い終わりの補強に使われます。（例・ポケットまたはスリットの端部分）
- 中厚手の生地に適しています。

ソーイング
- １Cの押え金を、ポケットまたはスリットの縫い終わり部分中央に合わせます。
- フライステッチは、自動的に下から上へと縫います。
- 縫い終わると、ミシンは自動的に停止します。

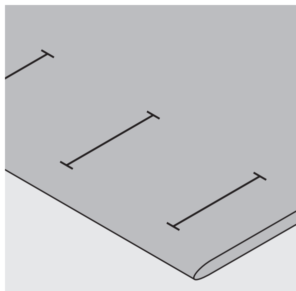


ヒント
手縫い風効果
- 手縫い風の効果は、太めの糸がベストです。
- フライステッチはまた、飾りとしても応用できます。

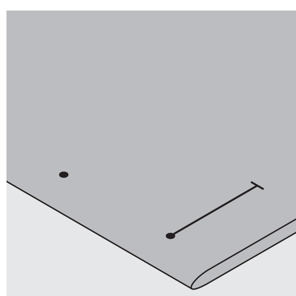
ボタンホールで大切なこと



糸調子
- ボタンホールを選択すると、糸調子は自動的に最適な状態にセットされ、
- 上糸の調子は少し緩く、
- 下糸の調子は少し強く、
- 布地の表側に丸みをおびた穴かがりを縫い、
- ボタンホールの見栄えを更に良くします。



手動で縫うボタンホールの場合
- ボタンホール用押えNo. 3 Cを使います。
- 適当な位置にボタンホールの長さの印をつけます。



自動ボタンホールの場合
- 自動ボタンホール用押えNo. 3 Aを使います。
- 最初のボタンホールの位置に長さの印をつけます。
- 最初のボタンホールを縫うと、次々自動的にボタンホールが縫えます。
- 二番目からは、ボタンホールを縫い始める位置に印をつけます。

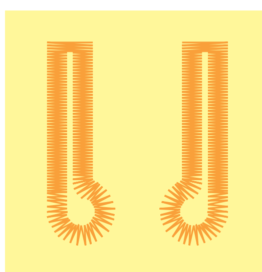
試し縫い
- 常に、同じ布地で試し縫いをして下さい。
- 同じ芯地を使って試し縫いします。
- 同じ種類のボタンホールを縫います。
- ボタンホールを縫いつける布地の方向も同じにして下さい（織り目に順目か、逆目か）




調節

ピッチ幅の調節：
- 振り幅を変える。

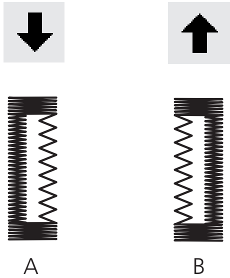
送り長さを変える
- 送りの長さの変更は常に左右の穴かがりに影響します（密および粗いずれの場合でも）。
- **必ずボタンホールを縫い始める前に、送りの長さを変更します。**



自動ボタンホールのバランス
- バランスの変更は常に左右の穴かがりに影響します。
- はと目ボタンホールまたはアイレットのバランスは、以下の方法で調節します。
- ミシンがはと目部分に達するまで直線縫いをし、停止します。
- 「バランス」をタッチします。
- はと目が図Aのように右側にゆがんでいる場合には、下向きの矢印を使って調整します。
- はと目が図Bのように左側にゆがんでいる場合には、上向きの矢印を使って調整します。
- OKをタッチして、ボタンホールを完成させます。

手動標準ボタンホールのバランス
- バランスの変更は常に左右の穴かがりに影響します。

はと目およびラウンドエンドボタンホールのバランス
- バランスの変更は常に左右の穴かがりに影響します。
- はと目ボタンホールまたはアイレットのバランスは、以下の方法で調節します。
- はと目が図Aのように右側にゆがんでいる場合には、下向きの矢印を使って調整します。
- はと目が図Bのように左側にゆがんでいる場合には、上向きの矢印を使って調整します。



ステッチカウント式ボタンホールのバランス
- バランスを調節すると左側穴かがりの縫目の密度を変えます。

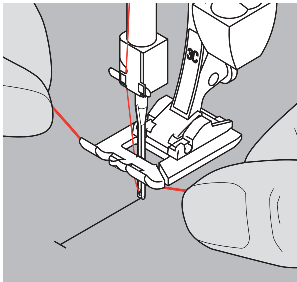
- 1．密な穴かがり（A）
- 2．粗い穴かがり

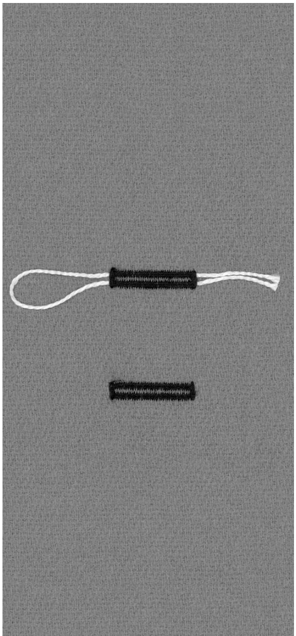
- 1．粗い穴かがり（B）
- 2．密な穴かがり

- バランスを変更したら、必ず最初のボタンホールを縫い直してサイズを記憶させて下さい。

バランスのクリア
- 画面右横の≪clr≫ボタンを押します。

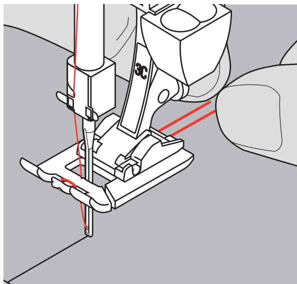
芯糸
- 芯糸はボタンホールを補強し、見栄えを良くします。
- 芯糸の輪の部分が最も力のかかるボタンホールの端に来るようにします。＝つまりボタンを縫い付ける位置。
- それに応じて位置を決めます。
- 芯糸は特に標準ボタンホールと伸縮ボタンホールにお勧めします。





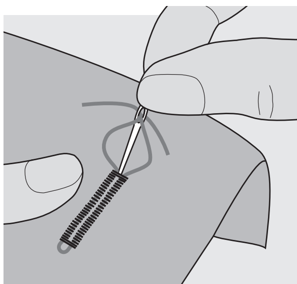
芯糸に適するコード:
- パールヤーンの 8 番
- 太い手縫い糸
- 細い鈎針編みの糸

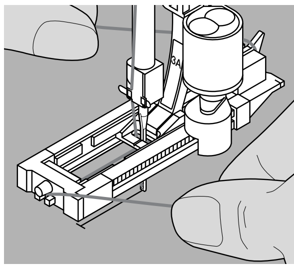
布ガイド付自動ボタンホール押え−#3C を使った芯糸の掛け方
- ボタンホールの始点に針を刺します。
- 押え金を上げます。
- 芯糸を両手で持って、押えの後ろにある突起に上からかぶせるように芯糸を引っ掛けます。
- 両方の芯糸を押えの下を通して、手前に持ってきます。
- 押え金を下げます。



縫い方
- 両方の芯糸を左右の芯糸止めにそれぞれ引き込みます。
- ボタンホールを縫い始めます。

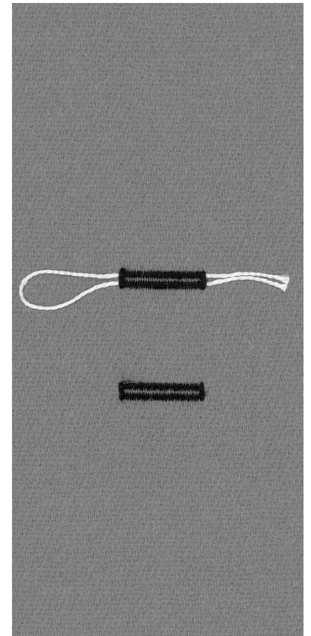
芯糸の始末
- 両方の芯糸の端をボタンホールに沿って引きます。
- 芯糸を手縫い針で布地の裏側へ通します。

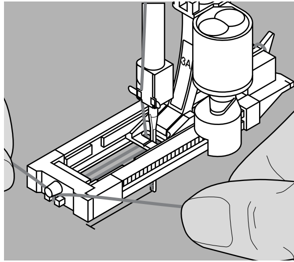




No.3Ａの自動ボタンホール押え金のつのに芯糸を掛ける

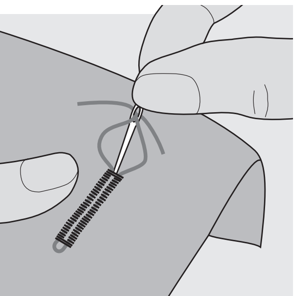
・ ボタンホールの始点に針を刺します。
・ 押えを上げます。
・ 芯糸を中央から右側に引きます。
・ 押えの後ろにある突起に芯糸の輪になった部分を引っ掛けます。



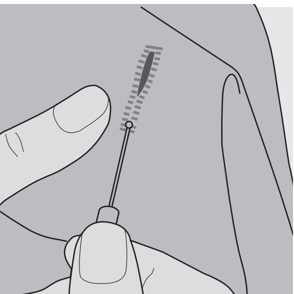


・ 芯糸の端は二本揃えて、押え下の二本の溝を通して前方に引きます。
・ 押えの前にある止め具に紐をかけます。

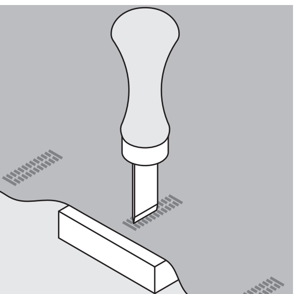
縫い方
・ 押え金を下げます。
・ ボタンホールを縫い始めます。
・ その時芯糸を強く引っ張らないで下さい。



芯糸の始末
・ 両方の芯糸の端をボタンホールに沿って引きます。
・ 芯糸を手縫い針で布地の裏側へ通します。
・ 結んでおきます。



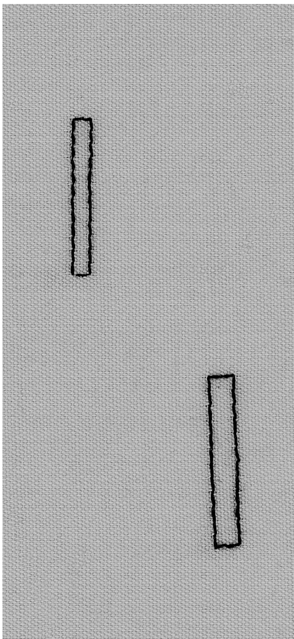
ボタンホールを開ける
・ リッパーを使って、両端から中心に向かって切り込みます。
・ 短いボタンホールの端部分を間違ってカットしてしまうことがないよう、端に待ち針を打っておくとよいでしょう。



ボタンホールカッターとブロック（オプション）
・ 布をブロックの上に置きます。
・ ボタンホールの中心にカッターを当てます。
・ カッターを手で押すか、ハンマーで軽く打って穴を開けます。
・ ボタンホールオープンナーよりも正確に穴あけが可能です。

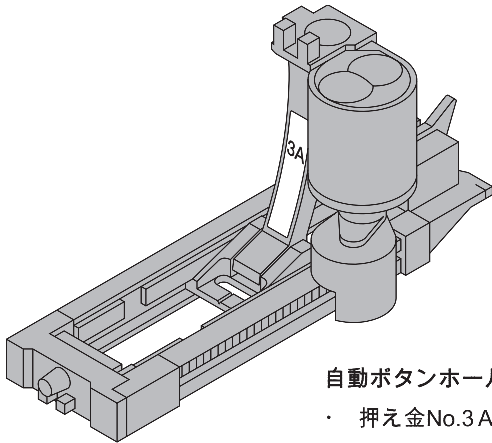
直線縫いボタンホール

直線縫いのボタンホールは、ほつれやすい生地などの穴かがり部分や環ぬき部分を補強します。





模様: **直線縫いボタンホール-#59**
針: **生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え金: **ボタンホール用押えNo.3C、またはNo.3A**

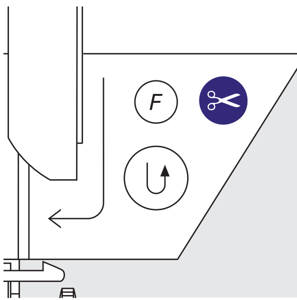


自動ボタンホール押えNo.３Ａを使った自動プログラム

- 押え金No.3Ａについたセンサーが自動的にボタンホールの長さを記録します。

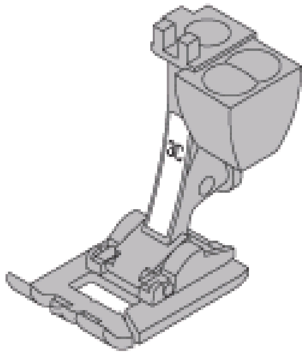
縫い方

- 最初のラインを直線縫いで縫います。
- 適当な長さを縫ったら手元返し縫いボタンを押します。
- **画面に«AUTO»**が表示されます。 = 長さが記憶されました。
- 自動的に直線ボタンホールを縫います。
- 次に続くボタンホールは自動的に同じ長さになります（返し縫いボタンを押す必要はありません）。
- 左右の縫目の間隔はステッチの幅で調節されます。



押え金No.３Ｃを使った直線縫いボタンホール

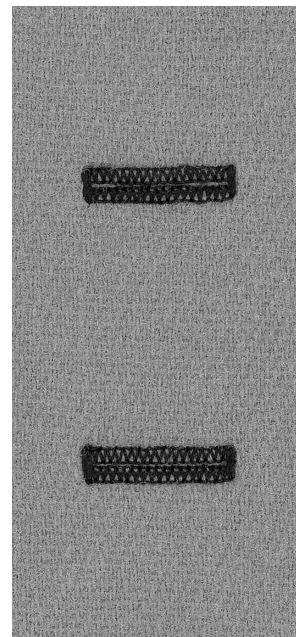
- ステッチカウント式のボタンホール機能の押え金No.3Ｃを画面でタッチします。
- ボタンホール押えNo.3Ｃのセンサーがボタンホールのステッチ数を読み取り記録します。



ステッチカウントボタンホールを縫う

- 最初の穴かがりを縫い、適当な長さで止めます。
- 手元返し縫いボタンを押します。
- 環ぬき止めをクロスステッチで縫い、返し縫いで右側の穴かがりを縫います。
- 穴かがり左側の縫い始めの位置で止めます。
- 手元返し縫いボタンを押します。
- 水平に縫って止め縫いをします。
- ミシンは自動的に止まります。
- 画面に≪AUTO≫が表示されます。
- 同じ長さで記憶されたボタンホールを縫います。

自動ボタンホール（全種類共通）



左右両方の穴かがりを同じ方向に縫いますので、左右の穴かがりがきれいに揃います。

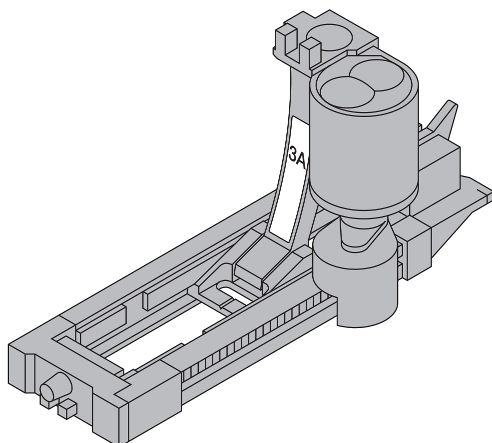
伸縮縫いのボタンホールはとりわけ伸び縮みする布地（ジャージーなど）に効果的です。というのは、穴かがりに使われているダブルオーバーロック縫いは伸び縮みしても縫目が開いてしまうということがないからです。

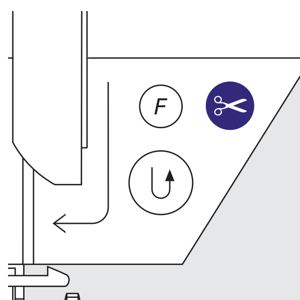
メモ：布ガイド付自動ボタンホール押えは完全に布地に平らに置かれていなければなりません。（もし押えの一部が布から浮き上がっていたらコンピュータが長さを正確に計れないからです）。

模様：**自動ボタンホール（全種類に共通）**
針：**生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸：**ミシン糸**
送り歯：**上**
押え：**ボタンホール押え No. 3A**

自動ボタンホール

・ボタンホール押えNo.3Cについたセンサーでボタンホールの長さを自動的に読み取ることができます。
・4 - 29ミリのボタンホールを縫うことが出来ます。

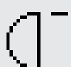




最初の穴かがりを縫う
・順番が画面に表示されます（押え金の表示の右）。
・最初の穴かがりを前進で縫い、止めます。

ボタンホールをプログラムする
・手元返し縫いボタンを押す。
・«AUTO»が画面に表示される。= ボタンホールの長さがプログラムされました。
・ミシンが自動的にボタンホールを完成させます。

自動ボタンホール
・ミシンは次のボタンホールの最初で止まります。
・次のボタンホールからは同じ長さで自動的に縫えます（返し縫いボタンを押す必要はない）。



注意：
・縫い直しする時は、«模様頭だし»機能をタッチします。
・ミシンはボタンホールの始めに戻ります。



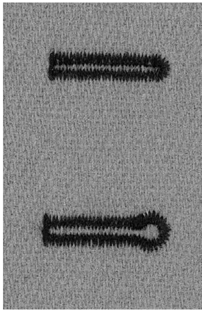
ヒント
長さも見た目も同じボタンホール
・自動機能は各ボタンホールが正確に長さも見た目も同じに仕上げます。

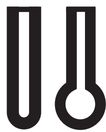
印をつける
・ボタンホールの始点にだけ印をつける＝ 実に簡単。

ソーイングスピード
・全ボタンホールを穴かがりの目の大きさが変わらないよう同じスピードで縫います。
中くらいのスピードで縫うと仕上がりは一番きれいです。

ラウンドエンド、はと目および手縫い風ボタンホール

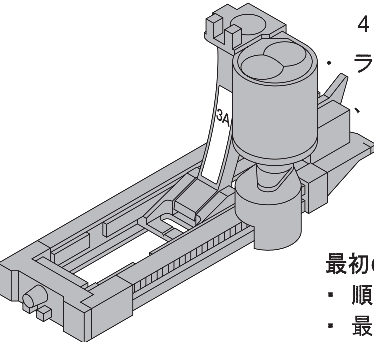
左側の穴かがりは前進で縫い、右側の穴かがりは返し縫いで縫います。
穴かがりの長さは、自動的に決定され、ラウンドエンドあるいははと目ボタンホールの部分は、適切なサイズで縫われます。



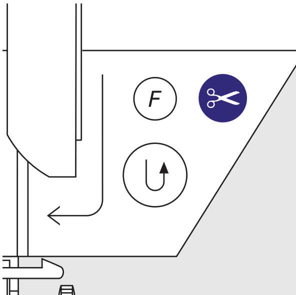


模様：**ラウンドエンドボタンホール＃54-55**
はと目ボタンホール＃56－58、手縫い風#63
針：**生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸：**ミシン糸またはかがり糸**
送り歯：**上**
押え：**ボタンホール押えNo.3A**

自動ボタンホール
・ ボタンホール押えNo.3Ａに付いているセンサーが自動的にボタンホールの長さを記録します。
・ 4 - 29ミリのボタンホールが縫えます。
・ はと目ボタンホールには、＃５６、＃５７、＃５８（４ミリから２４ミリ）、
・ ラウンドエンドおよび手縫い風ボタンホールには、＃５４、＃５５、＃６３（４ミリから２７ミリ）

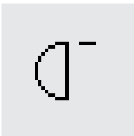


最初の穴かがりを縫う
・ 順序は画面に表示されます（押え金の表示の右側）。
・ 最初の穴かがりを前進で縫います。
・ミシンを止めます。



ボタンホールをプログラムする
・手元返し縫いボタンを押します。
・≪AUTO≫が画面に表示されます。＝ ボタンホールの長さがプログラムされました。
・ミシンが自動的にボタンホールを完成します。

自動ボタンホール
・ ミシンはボタンホールの始点で止まります。
・ 次のボタンホールからは全て同じ長さで自動的に縫います（手元返し縫いボタンを押す必要はありません）。



重要事項
・ もし間違えたら、≪模様頭だし機能≫をタッチして下さい。
・ ボタンホールの始めにセットされます。



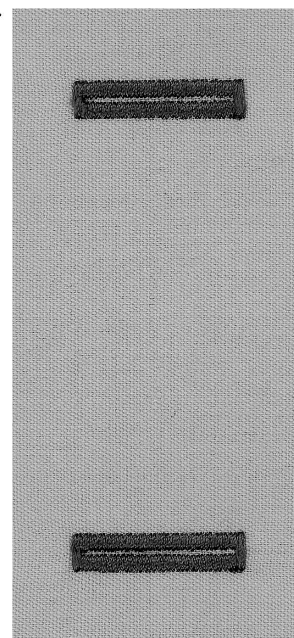
ヒント：
長さも見た目も同じボタンホール
・オート機能で各ボタンホールは前のものと同じ長さと形に確実に仕上がります。

印をつける
・ボタンホールの始めに印をつけるだけ。＝実に簡単。

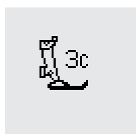
はと目ボタンホールの二度縫い
・ 厚い布地でははと目ボタンホールを二度縫いするとしっかりした仕上がりになります。
・ 最初のボタンホールを縫い終わった後、そのまま押え金も生地も動かさないで下さい。
・ フットコントローラーをもう一度踏むだけです。

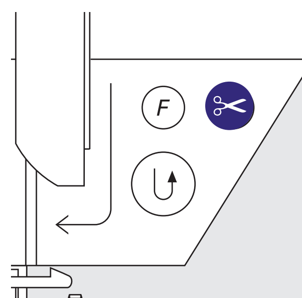
ステッチカウント式ボタンホール（全種類のボタンホールに適用）
（メモリーに記憶可能）

最初の穴かがり（左）は前進で縫います。 次の穴かがり（右）は返し縫いで縫います。



ステッチ： **ボタンホール（全種類）**
針： **生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸： **ミシン糸**
送り歯： **上**
押え金： **ボタンホール押え、No.3C**





左側の穴かがりの長さ
- 最初の穴かがりを縫って止めます。
- 手元返し縫いボタンを押します。

環ぬき止め縫い、右側穴かがり
- 下側の環ぬき止めと右側の穴かがりは返し縫いで縫います。
- 最初のステッチでミシンを止めます。
- 手元返し縫いボタンを押します。

環ぬき止め縫い、止め縫い
- 上側の環ぬき止めと止め縫いを縫います。
- ミシンは自動的に止まります。
- ≪AUTO≫が画面に表示されます。
- ボタンホールはプログラムされ、記憶されました。
- 続きの各ボタンホールは同じサイズで縫えます。

プログラムしたボタンホールを削除する
- 画面右横の≪clr≫ボタンを押します。
- ≪AUTO≫が消えます。
- 新しいボタンホールがプログラムできます。

変更
・ステッチの幅、長さ、バランスなどに変更があればもう一度ボタンホールをプログラムします。

異なる布地にボタンホールを作る
- 記憶したステッチカウント式ボタンホールを異なる布地で縫うと、まったく異なるサイズに仕上がります。
- もし新しい布地を使うならば、ボタンホールのプログラムはもう一度やり直して下さい。



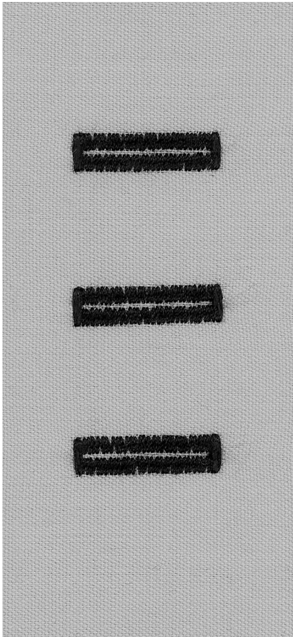
ヒント：
押え金No. 3 Cでよりボタンホールを縫いやすく
- 布ガイドスライド付の大きい押えでは縫いにくいボタンホールに最適です。

きれいなボタンホール
・縫目が揃うようにスピードは一定に保って下さい。
・普通のスピードで縫うのが一番きれいに仕上がります。

印を付ける
・ボタンホールの始点に印を付けるだけ。＝ 実に簡単！

マニュアルの4-6ステップのボタンホール（全種類）

一つだけのボタンホールを縫ったり、修繕するのであれば手動でボタンホールを縫う方が手軽です。

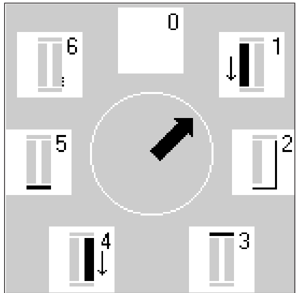


手順の数はボタンホールの種類によります。
手動で縫ったボタンホールは記憶できません。

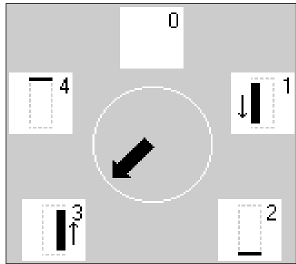
ステッチ: **全てのボタンホールステッチで可能**
針: **生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸: **ミシン糸**
送り歯: **上**
押え金: **ボタンホール押えNo.3C、またはNo. 3 A**



プログラムを開く
- ボタンホールを選択します。（#51から#59、または#63）
- マニュアルボタンホール機能を選択します。



手順の表示
- 次の手順が画面に示されます。
  選んだボタンホールの手順
  標準＝ 6 ステップ
  ラウンドエンド ＝ 4 ステップ
  はと目 ＝4 ステップ
- 円内の矢印は≪0≫の所にあります。



4 ステップあるいは6ステップのボタンホール
- 画面の≪1≫にタッチし、最初の穴かがりを縫います。
- 穴かがりの終りでミシンを止めます。
- ≪2≫にタッチして、縫います。

ボタンホールが完成するまでこの方法で続けます。



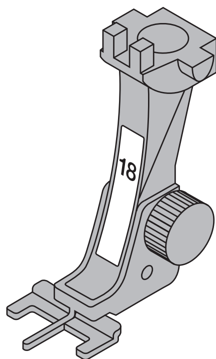
ヒント:

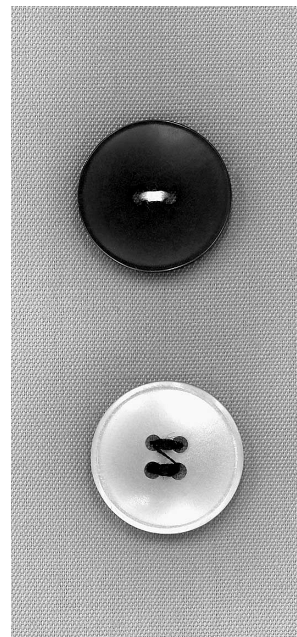
ボタンホールの補修
- 手順は省略することが出来ます。
- 擦り切れた部分を修繕するために必要な手順だけ使います。

ボタン付けプログラム



模様: ボタン付けプログラム＃60
振り幅: ボタン穴の間隔によって決めます
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 下
押え金: ボタン付け押えNo.18

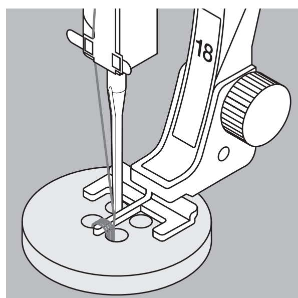




ボタン付けプログラム
- 2穴か4穴のボタンを縫いつけます。
- 足(ボタンと布地の間の長さ)は必要に応じて長くも短くも出来ます。

2穴ボタン
- ボタン付け縫いを選択します。
- はずみ車をまわして、穴の間隔を測ります。
- 必要があれば振り幅を調整します。
- 縫い始めは二本の糸を手に持って下さい。
- 縫い始めます。
- 完成すればミシンは自動的に停止します。
- そして次のボタンを縫う用意も自動的に出来ています。

糸の始めと終り
- 糸は止め縫いされており、切り取るだけで始末できています。



止め縫いの仕上げについて
- ボタンの際で上糸を切ります。
- 下糸を引っ張って、上糸を布裏に引き込みます。
- 下糸を切ります(必要に応じて玉結びをして下さい)。

4穴ボタン
- 初めに手前の穴を縫います。
- 注意してボタンを手前に引きます。
- 奥の穴を縫います。



ヒント:

ミシンでボタンを縫いつける
- シャツやブラウスなどのように同じボタンをいくつか縫う時には特に時間を節約できます。

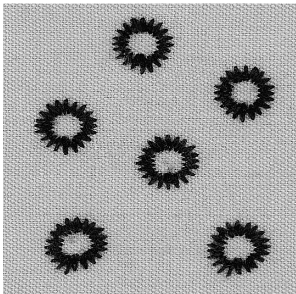
ボタン付けプログラム
- 長すぎるファスナーなどもこのプログラムを使って、簡単に止め縫いできます。

送り歯ドロップ
- ボタン付けの間は送り歯を下げておくと安定します。

アイレット（鳩目）



模様: ジグザグ・アイレット（鳩目）＃６１
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様縫い押えNo. 1 C



ジグザグ・アイレット縫い
・装飾的作品、子供服、または手芸品に。
・ひもや細いリボンを通す穴として利用されます。

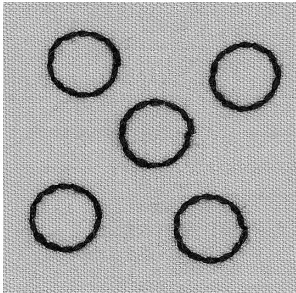
縫い方
・まずアイレットを選び、
・プログラムに従って縫います。
・ミシンは、自動的に停止します。
・次のアイレットを縫う用意も自動的に出来ています。

アイレットの穴をあける
・アイレット用パンチ（別売りオプション）をご利用下さい。

直線縫い・アイレット（鳩目）



模様: 直線縫い・アイレット（鳩目）＃62
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様縫い押えNo. 1 C



直線縫い・アイレット
・装飾的作品、子供服、または手芸品に、
・ひもや細いリボンを通す穴として利用されます。



縫い方
・まずアイレットを選び、
・プログラムに従って縫います。
・ミシンは、自動的に停止します。
・次のアイレットを縫う用意も自動的に出来ています。

アイレットの穴をあける
・アイレット用パンチ（別売りオプション）をご利用下さい。







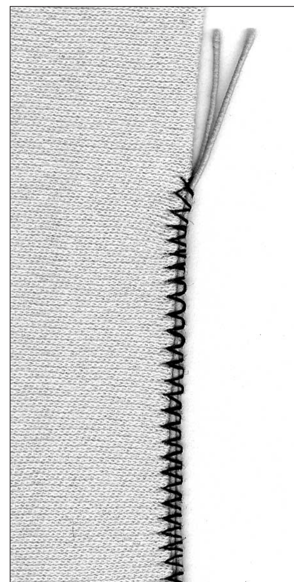
ヒント：
アイレット
・縫いぐるみや人形等の目に最適です。

装飾的アイレット
・飾り糸を使って、ほかの飾り縫いや刺しゅうと組み合せた装飾的作品を作りましょう。

縁かがり-ゴムひもを使ったニット地の縁かがり



模様： ジグザグ #2
振り巾： 約５ｍｍ
送り長さ： １～1.5
針： 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸： ミシン糸
送り歯： 上
押え： スーパー模様押えＮｏ.1C



シャーリングゴムひもを使ったニットの縁縫い

・ 布端の伸びや型くずれを防ぎます。

縫い方

・布端に沿って、二重にしたゴムひもをジグザグステッチで縫い付けます。
・その際軽くゴムひもを引っ張りながら縫います。





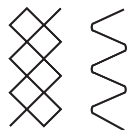
ヒント：

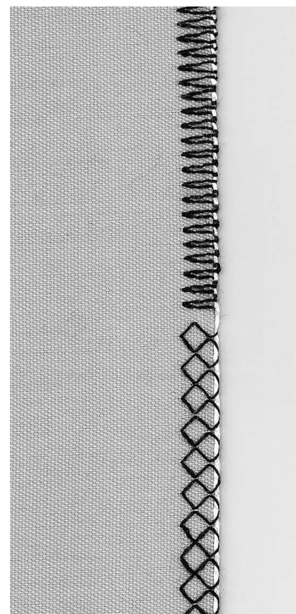
・ゴムひもの上を縫わないように注意します。
・縫い終わったら、ゴムひもを引っ張って、形やサイズを整えます。

縫っている間に生地が伸びるとき

生地に合わせて押え圧を弱くします。

補修縫い–編み地の縁を補修する





ステッチ: ネットステッチ＃8、ランニングステッチ＃4
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: 細手のミシン糸
送り歯: 上
押え金: スーパー模様縫い押えＮｏ.1C

縁を補強
・作業布、テーブルリネン、タオルなどに。

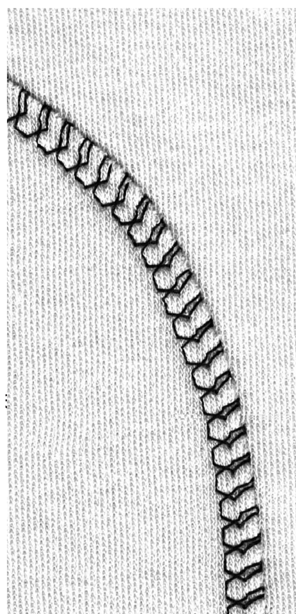
準備
・共色の紐を使います。

紐
- パール紡ぎ糸
- 細い鈎針糸
- 丈夫な手縫い糸

ソーイング
- ネットステッチかランニングステッチで縁をつくろい縫いします。
- 補強するために縁に沿って紐をつくろい縫いします。
- 必要があれば、縁から幾らか中側にもう一列縫います。

パッチ縫い（つぎあて）–ニット地/ジャージー





ステッチ: ジャージーステッチ 14 番
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え金: スーパー模様縫い押えNo.1C

ほころびや摩耗個所のつぎあて
・伸縮する布やランジェリーに特に適しています。

準備
- 擦り切れた部分は、切り取らないで下さい。
- あて布は、角をつけないで丸くすると、全方向に伸縮性が残ります。
- 待ち針を打ち、右側をしつけ縫いします。

ソーイング
- 縁を縫います。
- 必要があれば最初に縫った内側をもう一列縫います。
- 擦り切れた部分を切り取ります。



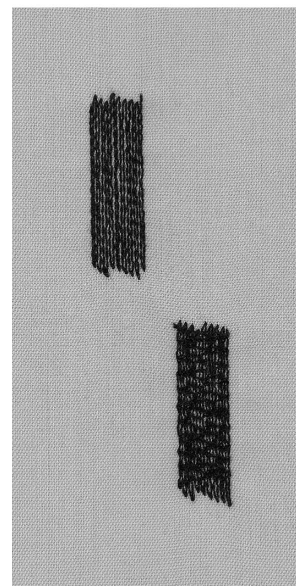
ヒント：

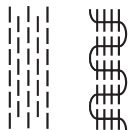
ニット地
- ニット地を傷めないように、新しいボールポイント針を使うようにして下さい。

伸縮地を縫う
- ストレッチ針（130 - 705H-S）を使うと、針の先端が繊維の間をすべるように縫うので、生地を傷めません。

生地の伸縮とうねり
生地が伸びて、うねるような場合は、押え圧を弱くして下さい。

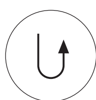
つくろい縫い自動プログラム
穴開き、または擦りきれた部分への手早い応急処置



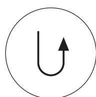


ステッチ: 標準つくろい縫い-＃22、補強つくろい縫い-＃23
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え金: ボタンホール押えNo.3Ａ、
またはスーパー模様縫い押えNo.１Ｃ

準備
- 生地が歪まないように、つくろい縫い用の刺しゅう枠（オプション）に生地を伸ばしてはさみます。



シンプルなつくろい縫いステッチ＃22
- 布の縦目に合わせて縫います。
- 押え金はNo.１Ｃを使います。
- 機能バー上で、ステッチカウンター機能（押えNo.３のアイコン）をオンにします。
- まず、縦に１列縫います。
- ここで手元返し縫いボタンを押す必要はありません。
- ２列目を縫います。
- 手元返し縫いボタンを押して、放します。これで、２列目の長さがプログラムされました。



- 縫い続けます。終わればミシンは自動的に停止します。

修正
- つくろい縫いのスタートと終りが斜めに歪むようでしたら、«バランス»を使って修正します。

つくろい縫いを補強するステッチ＃２３
- 糸を布の縦横両方にかけるように縫います。
- 自動ボタンホール押えNo.３Ａを使用します。
- 最初の縦１列を縫います。
- 好きな長さで、手元返し縫いボタンを押して放します。これで長さがプログラムされました。
- 縫い続けます。終わればミシンは自動的に停止します。

大きなほころびを縫う
- 押え金の下で生地を移動します。
プログラムを繰り返します（長さは記憶されています）。



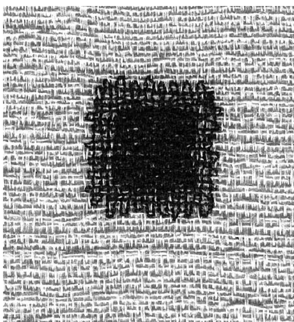
ヒント:

つくろい縫いを補強する
- つくろい縫いをする前に擦り切れた個所の下にガーゼを当てます。

大きなほころびを縫う
- つくろい縫いの縦横の大きさは押えの下で生地を移動させて広げてゆきます。

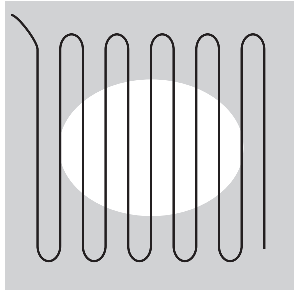
つくろい縫い−フリーモーション・ダーニング

ステッチ: 直線縫い＃1
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸
送り歯: 下げる
押え金: つくろい縫い押えＮｏ。９（オプション）



穴かがり、つくろい縫い
・どんな生地でも縦糸と横糸を足してつくろうものです。

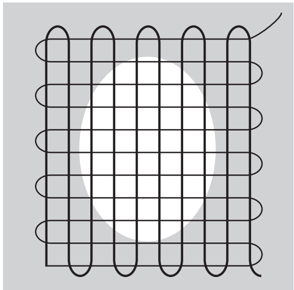
準備
・ 布縮みを防ぐために、刺しゅう枠（別売りオプション）に修繕する生地を張ります。
・ 補強テーブルを使うと、作業がしやすくなります。



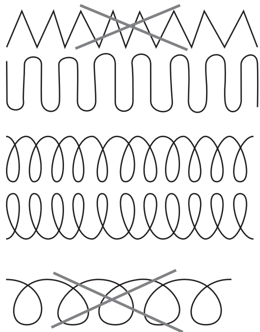
ソーイング
・ 刺しゅう枠を滑らかに動かします。
・ 左から右に縫います。
・ 押え圧はゼロにしておきます。

縫い方:

穴を縫うステッチ
・ 穴を覆うように最初の列を縫います（間隔が狭すぎないように）。
・ 生地を90˚回します。

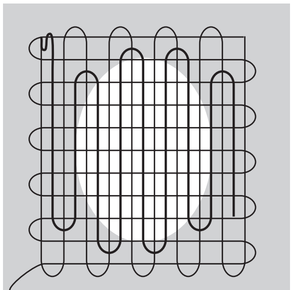


つくろい縫いを完成させる
・同じ方向に緩く二列目を縫います。



筒物を縫います
・ 最初は横方向です。
・ それから第二、第三段階として、縦方向に縫います。

要領がつかめたら
・各列の長さをわざと揃えないで縫うと、ステッチの糸が生地にかくれて、目立たなくなります。



重要事項
・ カーブで方向を変える（尖らないように）。
＝ 穴あきを防ぎます。
＝ 糸切れを防ぎます。
・筆記体のLやMを書くように動かします。
・円形は生地の糸目になじまないで、かえって目立ってしまうので、避けて下さい。



ヒント：

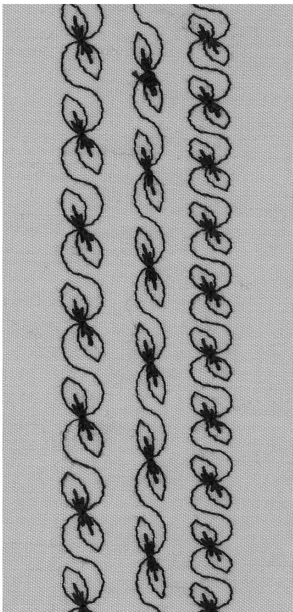
糸切れ
・ 刺しゅう枠を滑らかに動かしてみましょう。

縫目が乱れて、上糸が生地の表側で緩む
・ 針のスピードに対して、刺しゅう枠の動かし方が速いからです。

生地の裏側に糸ループが出来る
・ 刺しゅう枠の動かし方が遅すぎるからです。

飾り縫い

ステッチ： 9ミリ幅飾り縫い（例えば、＃718）
針： 生地に合った刺しゅう針
糸： ミシン糸
送り歯： 上
押え金： スーパー模様縫い押えNo.１C、
オープン刺しゅう押えNo.２０C、
透明押えNo.３４、またはNo.３４C（別売りオプション）



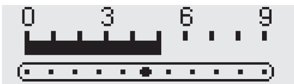
A B C

A：標準のふり幅
B：ふり幅を小さく
C：振り幅を大きく

飾り縫い
・ あらゆる生地に
・ 飾り付けに

ステッチの選択（A）
・ 画面右横のボタンを押して飾り縫いを選びます。
・ メニューからステッチのグループを選びます。
・ ステッチを選択します。

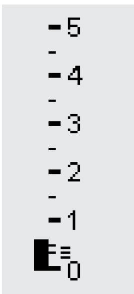
画面
・ 選択したステッチは明かりが点っています。
・ 押え金インディケーター
・ 基本セッティング（幅と長さ）



基本セッティングを変える

ステッチ幅（B）
・ 幅を狭くします

ステッチの長さ（C）
・ 長さを短くします



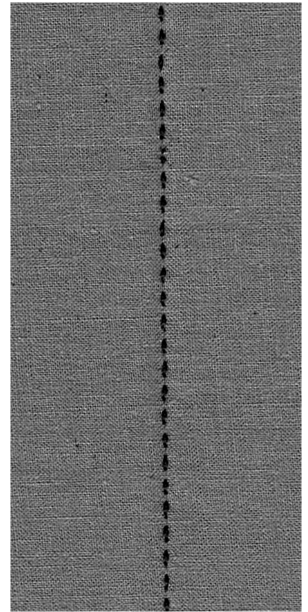
注意
その他、以下の要素を変更できます。
・ 針基線
・ 糸テンション
・ バランス



ヒント：

基本設定の変更
・ 飾り縫いは、好みのままに調整できます。
・ 例　人形の服では振り幅を狭くします。
モチーフのサイズも、小物に合わせて縮小することが可能です。

キルティングステッチ−手縫い風



模様: 手縫い風・キルティングステッチ #328、#346-350
針: キルティング針、またはジーンズ針
上糸: モノフィラメント(ナイロン透明糸)
下糸: ミシン糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様押え No.1C

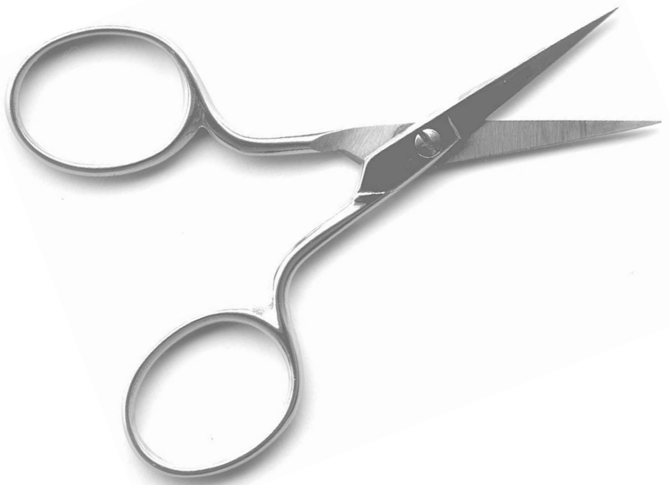
手縫い風・キルティングステッチ
・手縫いのような縫目を可能にし、手縫い風を表現したい作品に最適です。

試し縫い
・下糸が表面に交互に出るように縫います。
・上糸はモノフィラメントなので、下糸が一目おきに目立つようになり、手縫いの効果を出します。

上糸テンション
・生地により、6〜9に強くします。
・ソーイングガイドを参照して下さい。

送り微調整
・必要に応じて調整して下さい。

縫い方
・針位置はどこでも縫えます。
・必ず押え金を使って縫います。フリーモーション・キルティングには使えません。

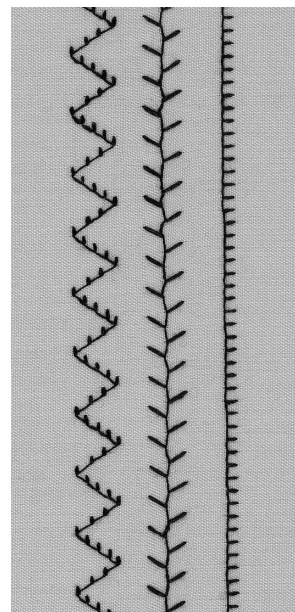




ヒント:
コーナーをきれいに仕上げるには
・コーナーを縫う直前に一模様縫い機能をオンにし、コーナーでミシンを一旦停止してから生地を回し、続けて縫います。

モノフィラメントが糸切れする場合
・縫う速度を落として下さい。
・上糸テンションを少し緩めて下さい。

キルティングステッチ–飾り縫い



模様: キルティングステッチ, #326-338、＃351-353
針: キルティング針、またはジーンズ針
上糸: コットン糸,レーヨンまたはポリエステル刺しゅう糸
送り歯: 上
押え: スーパー模様押えNo. 1 C

直線縫い #326
・2mmの送り長さの短い直線縫い。
・ピーシングに最適です。

キルティングステッチ
・あらゆる生地やキルティングに。
・クレージーキルトに最適です。

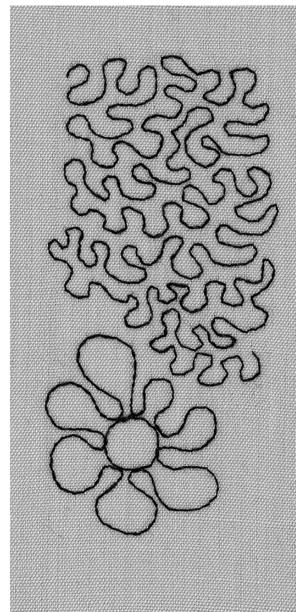
バランス
・必要に応じて調整します。

縫い方
・キルティングステッチを選んで縫います。
・組み合わせて縫ったり、組み合わせたステッチをメモリーに保存しておくことも出来ます。



ヒント:
コーナーをきれいに仕上げるには
・コーナーを縫う直前に一模様縫い機能をオンにし、コーナーでミシンを一旦停止してから生地を回し、続けて縫います。

キルティングステッチ–フリーハンド

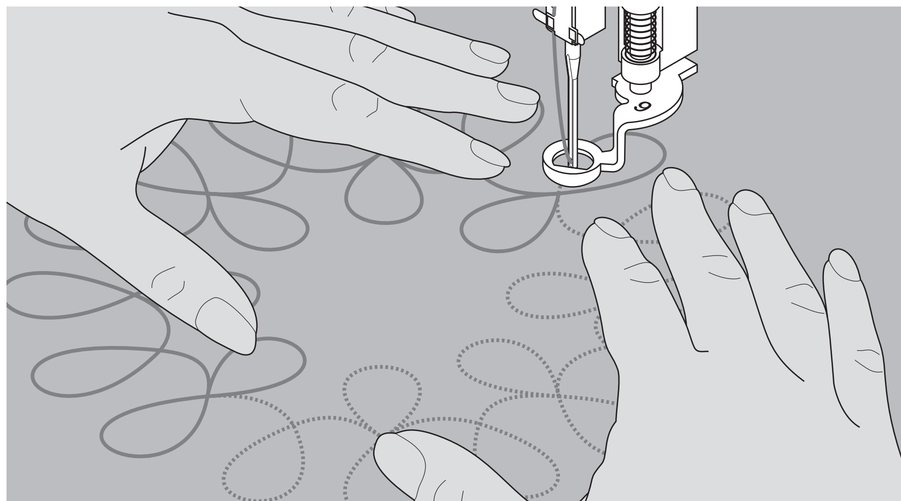


ステッチ: 直線縫い＃1、キルティング用直線縫い＃３２５、またはピーシング用直線縫い＃３２６
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸、刺しゅう糸、ナイロンモノフィラメント
送り歯: 下
押え金: つくろい縫い押え No.9、または
キルティング押え No.29C

フリーハンドキルティング
・あらゆるフリーハンドのキルトに。

準備
・安全ピンで、トップ、中綿、土台布をしつけします。
・補助テーブルを使うと作業がしやすくなります。

縫い方:
ずれないように生地を押えます
・生地の中心から外側へ縫っていきます。
・両手を刺しゅう枠のように使って、生地をしっかりおさえます。



キルトラインを縫う
・選んだキルトパターンを縫うコツは、滑らかに丸く生地を回して動かして下さい。（フリーハンドの場合も、テンプレートを使う場合も同じです。）

スティップリング・キルティング
・キルトの全体を埋める手法で、基本的な縫い方は、縫目が交差しないように縫います。



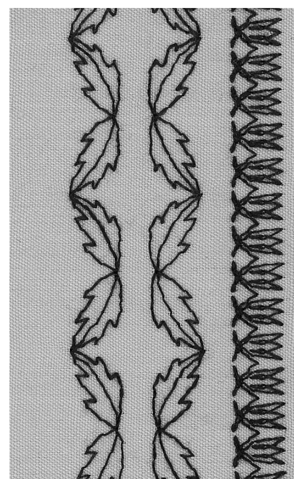
ヒント:
フリーハンドキルティングとつくろい縫い
・共に基本的な縫い方は同じです。

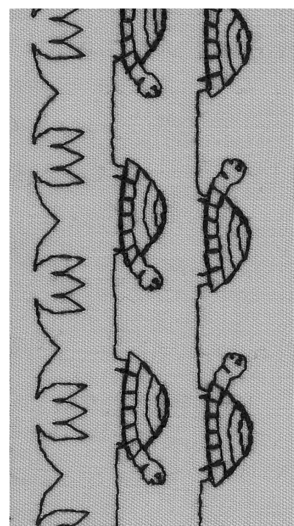
糸切れ
・手を早く動かしすぎる時に起こります。　生地は滑らかに均一のスピードで動かして下さい。

ステッチの形が悪く糸のループが出来る
・縫う速度が速すぎます。
・生地の裏で糸絡みが起こるときは、縫う速度が遅すぎます。

ナイロンモノフィラメントの糸切れが起こる
▪ 縫う速度を遅くして下さい。
▪ 上糸テンションを弱くして下さい。

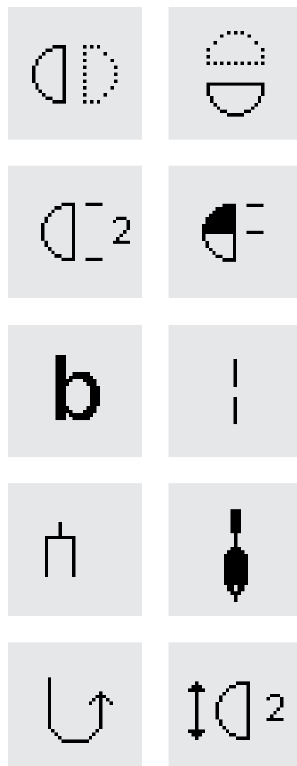
飾り縫いと各種機能の組合せ





ステッチ: 9ミリ 飾り縫いステッチ
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸、刺繍糸
送り歯: 上
押え金: リバースパターン押えNo.1C、または刺しゅう用押えNo.20C、または透明押えNo.３４、またはNo.３４C

基本設定と機能を組み合せる
基本設定と様々な機能を組み合せると、今以上にお楽しみ頂けます。



左右模様反転機能
上下模様反転機能

模様繰り返し機能 1-9 回
1/2模様機能

バランス(送り微調整)機能
ロングステッチ機能

二本針用振り幅限定機能 2-8 ミリ
ウィング針用振り幅限定機能

連続返し縫い機能
模様拡大機能 2-5 倍

準備
- 糸調子は選択したステッチに自動的にセットされます。

バランス
- バランス機能を使ってステッチの変化を楽しめます。
- バランスの取り方によっては、ステッチは伸びたり、縮んで詰まったりします。
- “バランス”の項 49-50 ページも参照して下さい。

方法
- 機能を選択します。
- ステッチを選択します。
- 一つのステッチに複数の機能を使う事が出来ます。

機能を解除する
- 画面右横の≪ｃｌｒ≫ボタンを押します。
- 削除したい機能表示を、一つずつ個別に、画面でタッチして下さい。



ヒント
基本設定と機能の変化
- 新しく組み合せて使いたいときは、先に使った機能を全てクリアして下さい。

一枚布でする飾り縫い
- 必ず接着芯や安定紙を使って下さい。
- 縫い終わったら、取り除きます。

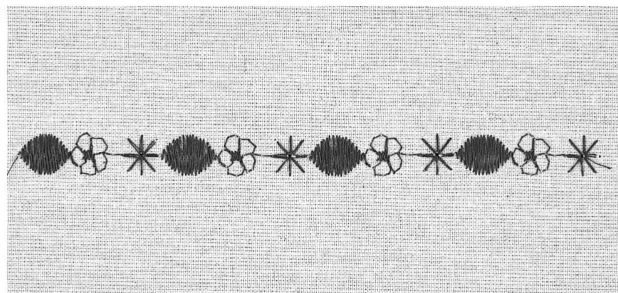
長く縫う時は針下停止機能を起動させる
- 一旦停止した時に、止めた針位置をキープします。

一模様縫い機能を使う
- ひとつの模様を縫い終わるたびにミシンは自動的に停止します。

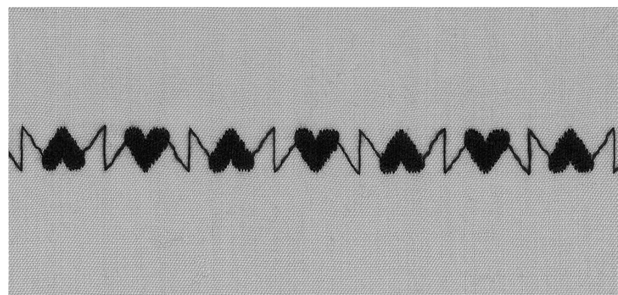
メモリー － 実用縫いと飾り縫い

・メモリーの容量は 1023 模様です。
・実用縫いも飾り縫いも全て、プログラムしメモリーに記憶させる事が出来ます。
・模様は、実用縫いでも飾り模様でも、文字および数字を含む、どんな組合せでも記憶・保存出来ます。（例外は、ボタンホールとアイレット）
・保存したデータは、電源を切っても、消去されることはありません。
・いつでも、メモリーを呼び出して縫う事が出来ます。

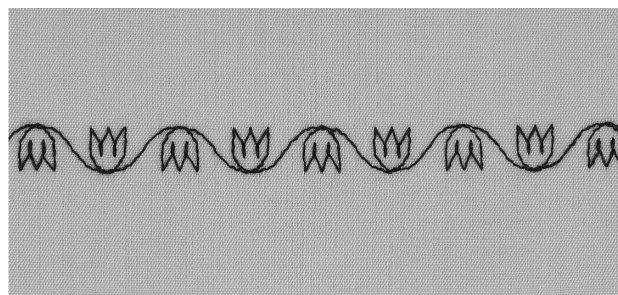
実用縫いと飾り縫いをプログラムする
・メモリーの外部ボタンを押して、メモリーを開きます。
・メモリー1をタッチして、メモリーのリストを開きます。
・空白のメモリーバンクを指定します。
・OKをタッチすると、前画面に戻ります。
・必要なステッチを選択します。
・ステッチが、メモリーバーに表示されます。
・次のステッチを選択します。
・希望の組合せが完成するまで、この作業を繰り返します。
・保存するには、<<保存>>をタッチします。



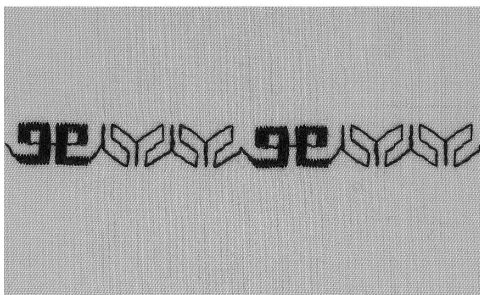
模様の組合せをプログラムする
・ステッチの組合せをプログラムします。
・ステッチ＃407、＃１０２と＃711
・縫います。
・必要ならば«保存»します。



機能を使った模様をプログラム
・模様をプログラムします。
・模様＃413を一回入力。
・左右模様反転機能をタッチします。
・反転された模様をプログラムします。
・縫います。

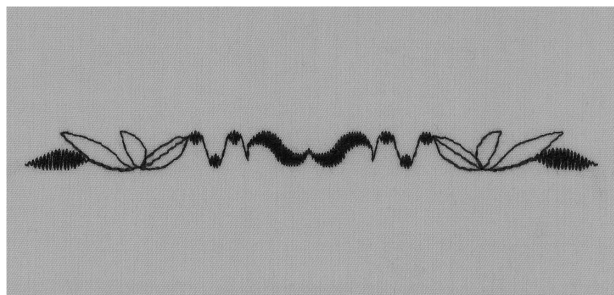


・メモリーを開きます。
・模様＃104を一回入力。
・左右模様反転機能をタッチします。
・模様＃104を一回入力。
・縫います。
・保存するには、«保存»をタッチします。



模様の組合せを一模様として縫う

・ 模様の組合せをプログラムします。
・ 模様＃409と＃616
・ 一模様縫い機能を起動させます。（×２ ）
・ 組み合せた模様が二回りする毎に､ミシンは自動的に停止します。



反転模様を入れた模様の組合せを繰り返す

・ 所々に反転模様を入れたステッチの組合せをプログラムします。
・ ステッチ＃109と＃414
・ 一模様縫い機能を起動させます。（×１ ）
・ 組み合せた模様が一回りする毎に、ミシンは自動的に停止します。

メモリーに保存する

･前節の使用説明書を御覧ください。



ヒント

刺繍糸を使った飾り縫いの組合せ

・ステッチがより密に､豪華に出来ます。

二枚重ねの生地にする模様縫い

・下の布がつれる事はありません。

一枚布にステッチする場合

・ 必ず安定紙をお使い下さい。
縫い終わったら､取り除いて下さい。

メモリー － 文字と数字を縫う

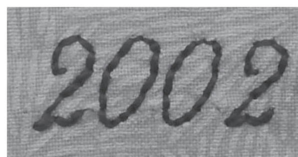
- 1023 種類の模様をメモリーに保存出来ます。
- 実用縫いも模様縫いも全てプログラムし、メモリーに保存出来ます。
- 文字および数字を様々な模様縫いと組み合せて、メモリーに保存することも可能です。（例外は、ボタンホールおよびアイレット）
- 電源を切ってもデータは保存されています。
- メモリーの内容は、いつでも呼び出して縫えます。

文字と数字をプログラムする
- メモリーの外部ボタンを押して、メモリーを開きます。
- メモリー1をタッチして、メモリーのリストを開きます。
- 空白のメモリーバンクを指定します。
- OKをタッチすると、前画面に戻ります。
- 必要な文字を選択します。
- 文字が、メモリーバーに表示されます。
- 次の文字を選択します。
- 希望の組合せが完成するまで、この作業を繰り返します。
- 保存するには、<<**保存**>>をタッチします。





文字のプログラムの例
- 上記の手順に従って、メモリーバンクを開きます。
- 文字の外部ボタンを押します。
- ブロック体を選択します。
- BERNINA とつづってみましょう。
- ツールバーで、模様の繰り返し機能×1を起動します。
- ステッチします。ミシンは最後の1文字を縫ったところで、自動的に停止します。
- 保存するには、<<**保存**>>をタッチします。
- 2倍の長さの文字にするには、模様の拡大機能×2を、プログラム前に選択しておきます。

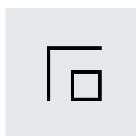




数字のプログラムの例
- 文字のプログラムの例をご参照の上、文字の代わりに数字を選択してください。
- ステッチします。最後の数字をステッチすると、ミシンは自動的に停止します。
- 保存するには、<<**保存**>>をタッチします。



小さなモノグラムの例
- 上記の手順に従って、メモリーバンクを開きます。
- 文字の外部ボタンを押します。
- 9mmの文字をタッチします。
- ツールバーで、模様の繰り返し機能×1を起動します。
- ステッチします。ミシンは最後の1文字を縫ったところで、自動的に停止します。
- 保存するには、<<**保存**>>をタッチします。



止め縫い
- 止め縫い機能を選択します。
- 最初と最後の文字が、止め縫いされます。

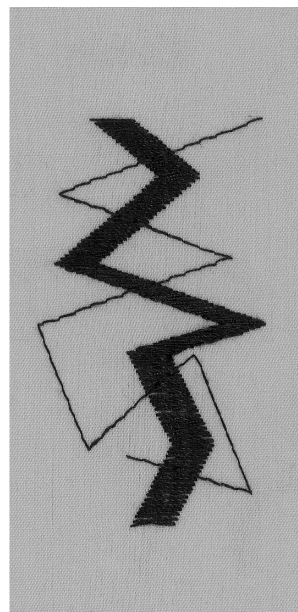


ヒント

プログラムしたら、一模様縫い機能を起動します。
- 一度プログラムしたものを縫い終わるとミシンは停止します。

一枚布に文字を刺繍する
- 必ず接着芯や安定紙を使って下さい。
- 縫い終わったら取り除いて下さい。

16 方向(パノラマ)縫い



模様: 直線縫い＃３９、ジグザグ縫い＃４０
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸、刺しゅう糸
送り歯: 上
押え金: 横送り縫い押えNo.40C

16 方向縫い
- 創作的な装飾に
- 生地を回さずにキルティングが出来ます。

画面上の右横のボタン
- 画面右横の≪キルト/横送り縫いボタン≫を押します。
- ≪16 方向縫い≫にタッチします。

模様の長さと幅

直線縫い:
- ステッチの長さは通常全ての方向に 3 ミリです。
- 変える事は出来ません。

ジグザグ縫い:
- ステッチの長さはサテンステッチになっています。
- 長さは 0 から 1 の間で自由に変える事が出来ます。
- ステッチの幅は 0 から 9 の間で自由に変える事が出来ます。

糸調子
- 糸調子は 16 方向縫いを選択した時、自動的にセットされています。

画面
- 直線縫いとジグザグ縫いが表示されます。
- “コンパス”が画面中央に表示されます。
- 押え金がコンパス中央に表示されます。
- 16 方向を示すポイントが表示されます。
- いずれかの方向にタッチして下さい。 ＝ 縫う方向を選ぶワンステップです。
- 続けて別の方向を押します。 ＝ 素早く方向が変わります。
- 選択した方向は、画面に長い線で示されます。

縫い方
- ステッチを選択します。
- もし必要ならステッチの長さと幅を調節します。
- コンパスで方向を選びます。
- 縫い始めると選んだ方向に進みます。

方向を変える
- 必要な長さを縫って、ミシンを停止します。
- コンパスで別の方向を選択します。
- 縫います。



ヒント

刺しゅう糸で縫う 16 方向縫い
・模様がより密に豪華に見えます。

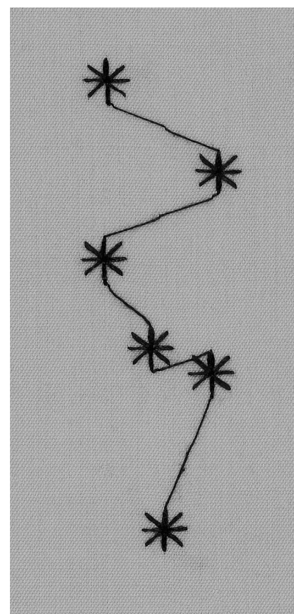
二枚重ねの生地に 16 方向縫いを縫う
・下の布がつれることはありません。

一枚布に 16 方向縫いを縫う
- 裏に必ず安定紙かティッシュペーパーを当てて下さい。
- 縫い終わったら取り除きます。

16 方向縫い
- いろいろな方向に創作を広げる事が出来るよう、他のステッチと組み合せて、メモリーにプログラムすることが出来ます。

16 方向（パノラマ）縫い

ステッチ: 直線縫い＃３９
機能: ロングステッチ
針: 生地に合わせてサイズとタイプを選びます
糸: ミシン糸、刺繍糸
送り歯: 上
押え金: 横送り縫い押えNo.40C



16 方向を直線縫いでつないで縫う
- 横送り模様や、モノグラムを長い直線縫いでつないで縫います。
- 縫い終わったら、長い直線縫いの糸は切り取ります。

ステッチの長さ
- ロングステッチでつなぐステッチの長さは 9 ミリです。（全方向共）。
- 長さを変えることは出来ません。

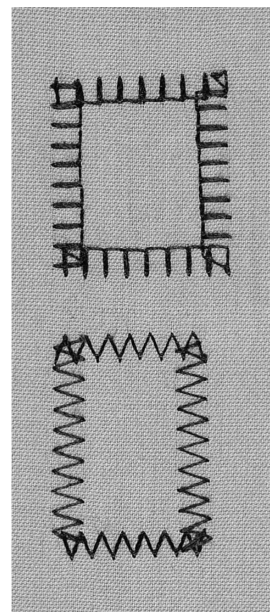
縫い方
- 直線縫いを選択します。
- コンパスで方向を選択します。
- ロングステッチ機能を起動させます。
- 選んだ方向に 9 ミリの長いステッチで縫います。



ヒント

メモリーを使ったロングステッチ機能のあとで
- 直線縫いを使った 16 方向縫いを終わったら、忘れずにロングステッチ機能をクリアして下さい。
- 普通の模様縫いをしようとして、ロングステッチ機能が起動したままで縫うようなひどい失敗は避けられます。

4方向の自動パッチ縫い(飾り縫いで四角やパッチを縫う)



ステッチ:	**パッチ縫いステッチ＃4１–＃48**
針:	**生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸:	**ミシン糸**
送り歯:	上
押え金:	**横送り縫い押えＮｏ.40Ｃ**

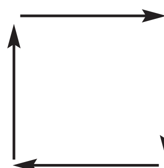
4 方向の自動縫い

- 生地を回さずに 4 方向に縫います。
- 洋服に継当てする時に。(特にズボンや袖などに)

縫い方:

飾り縫いで縫う四角や継当てのテクニック

- 画面右横の≪キルト・16 方向縫い≫ボタンを押します。
- 4方向縫いボタンをタッチします。
- ステッチを選択します。
- 最初の縫い方向は前進にセットされています。
- パッチの端に押え金の右端をそろえて縫い、適当な位置で止めます。
- 左向きの矢印を画面でタッチし方向を変えます。
- 二番目の縁を縫います。
- 続けて、残りの布端を縫います。四角形や長方形を縫うときは、上から下へ、右から左へ(時計回りに)縫うのが最もきれいに仕上げるコツです。
- ステッチのきわで余分なパッチを切りそろえます。



パッチを縫う

- パッチを仕上がりより大き目に用意します。
- 縫い付ける位置に当てます。

パッチを上手に縫うテクニック

- 画面右横の≪キルト・16方向縫いボタン≫を押します。
- 4方向縫いを選択します。
- ステッチを選びます。
- パッチの最初の縁を押えの右端に揃えて縫い始めます。(一模様縫い機能で 1-9 回の繰り返しをしてゆきます)
- 右向きか左向きの矢印で方向を変えます。
- 二番目の縁を縫います。
- 正方形や長方形を縫うときには、上から下へ、右から左へに時計回りに縫うのがもっともきれいに仕上がります。
- ステッチの際でパッチを切り揃えます。
- 継ぎ当て個所の裏側でほころびを切り揃えます。

模様の繰り返し縫い機能を使う

- 模様の繰り返し機能1から9回を起動します。
- 必要なステッチを、1回から9回までの希望の回数で指定します。
- 4方向とも、同じステッチ数で縫われます。
- 時計回りに縫うとよいでしょう。
- その他、必要なステッチ数をメモリーに保存して縫うという方法もあります。



ヒント

一模様縫い機能で継当てを縫う

- 素早く効果的に出来るように一模様縫い機能を使います。

継当てを縫う

- 時計方向に縫います。 (右から左へ = ↓←↑→)

生地がひどくほつれている時

- パッチを継ぎ当ての大きさにそろえます。
- パッチのちょうど内側を縫います。

パッチを切りそろえないままにします。

横送りステッチ ― アウトラインデザイン



ステッチ: **横送りステッチ/組合せ文字**
針: **生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸: **ミシン糸 / 刺しゅう糸**
送り歯: **上**
押え金: **横送り縫い押えNo.40C**

横送り模様縫い
- アウトラインデザイン、つまりモチーフの輪郭だけを縫う模様縫い
- モノグラム
- 横送り模様は画面上にクロスした矢印で示されています。

生地の送り
- 生地は普通通り前後に動きます。
- さらに左右にも動きます。

糸調子
- 糸調子はステッチを選択した時に自動的にセットされています。

サイズ
- 横送り縫いのサイズは変えることは出来ません。
- モノグラムは 3 種類のサイズ(30/20/15)で縫う事が出来ます。

ステッチの長さと幅
・横送り模様縫いの長さと幅は変える事が出来ません。

バランス
- ステッチの出来上がりの感じは生地、安定紙、糸の質によって変わります。
- バランスを使って、選んだ生地にステッチを合わせることが出来ます。
- “バランス”の章を御覧ください。

横送り模様縫いと機能
- 横送り模様縫いは、例えば反転模様機能などのように、画面上に表示されている全ての機能と組み合せることが出来ます。

試し縫い
- 必ず使おうとしている生地、安定紙、糸を使って試し縫いをすることが大切です。

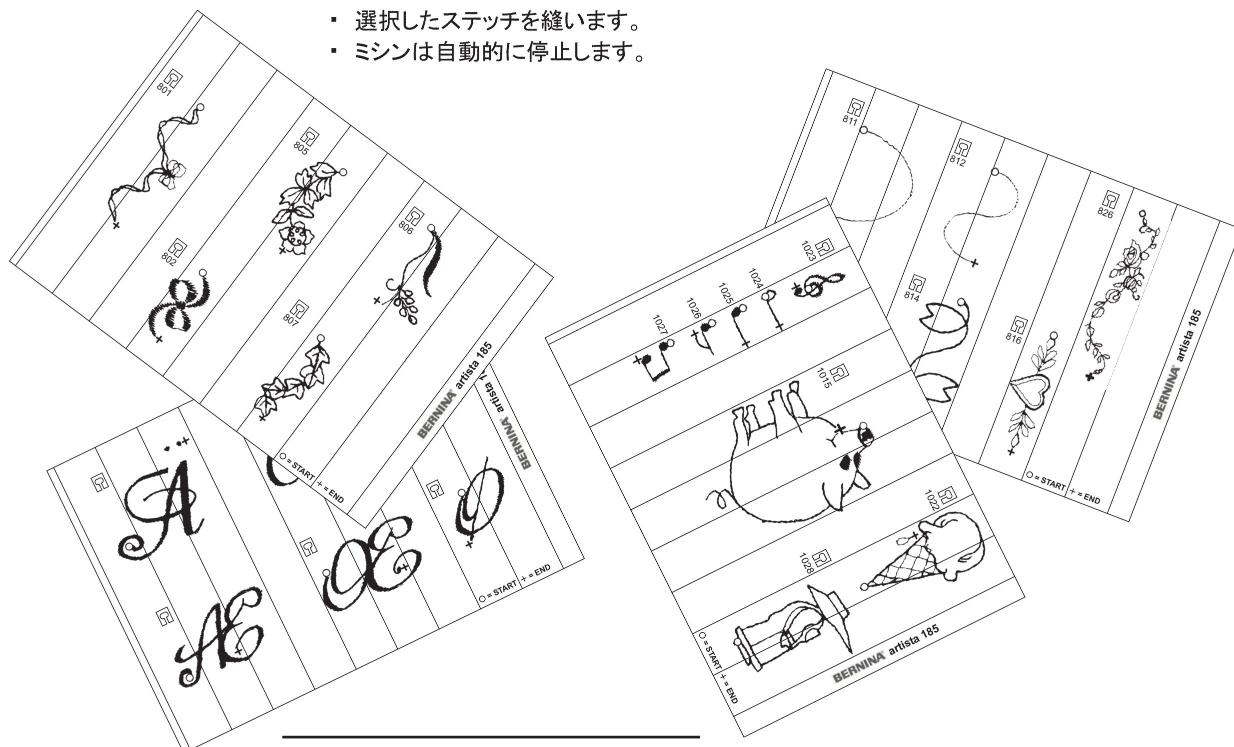
テンプレート(ソーイングの補助に使う)
- テンプレートはモチーフの位置を決めるのに使います。
- 横送り模様縫いは全てテンプレートのサイズです。
(例外: 中サイズと小サイズのモノグラム)
- ○印は始点を示しています。
- X 印は縫い終わりを示しています。
- マーキングを簡単にするために始まりと終りには穴が開けてあります
- 縫う方向は押え金マークと破線で示されています。
- 押え金は常に線に平行に走るように縫います。
- テンプレートは説明書の中カバーの折り返しに挟んであります。

中サイズと小さいサイズのモノグラム
- 縫い始めと縫い終わりが一本の線上にあるので、これらにはテンプレートは用意されていません。
- 文字を書くような感じで縫えます。

画面右横のボタン
- 画面右横の飾り縫いボタンを押します。
- 組み文字をするのには画面右横の文字ボタンを押します。

画面
- クロスした矢印でマークされたモチーフの中から選択します。
- あるいは組み文字を選択します。

縫い方
- 型板を使って、生地の上に縫い始めをマークします。
- 縫う方向に注意します。
- 針をさします。
- 生地の位置を決めます、そうすれば破線が押え金に平行に走ります。
- 選択したステッチを縫います。
- ミシンは自動的に停止します。



ヒント:



大きな生地に横送り模様を縫う時
- 様々な方向に生地を動かすので途中で生地が絡まないように十分気をつけて下さい。
- 送り歯は重い生地を充分に動かす事ができないので、送り歯に負担を掛けないように、生地を押え金の周りで突っ張ったりしないように注意します。

横送り縫いを縫う
- 生地を動かす時は、軽く触れて指先で送るようにして下さい。
- 縦に並べるように生地を押えて下さい。
- 生地を引っ張らないで下さい。
- 生地の上に消えるペンなどで平行線を引いて、模様のガイド線にします。

横送り縫いと補助テーブル
- 横送り模様には、補助テーブルは大変便利です。

一枚布に横送り縫いを縫う場合
- 必ず安定紙を使って下さい。
- 縫い終わったら、取り除いて下さい。
- 横送り縫いの中には、続けて縫うことのできるパターンもあります。

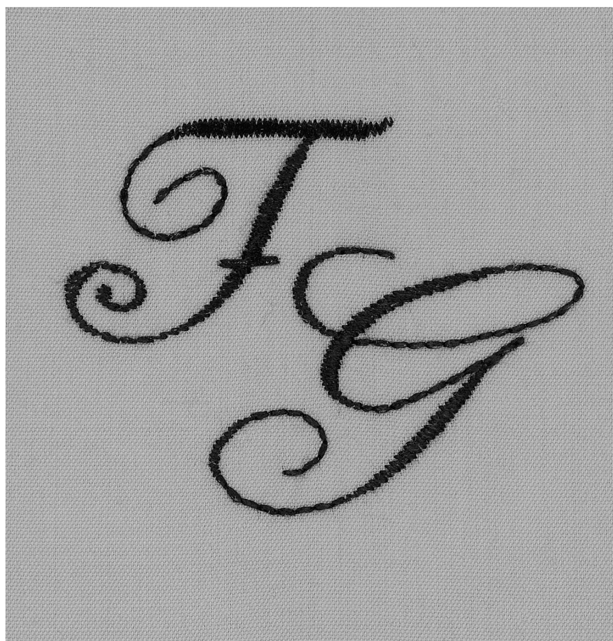
横送り縫い － メモリーを使う

メモリーを使った横送り縫い
・ 横送り縫いとモノグラムは全てプログラムでき、メモリーに保存することが出来ます。
・ しかしながら、飾り縫いと違って続けて縫う事は出来ません。
・ 横送り縫いの始まりと終りはかなり特殊で、時にはステッチの内部で停止します。
・ 従って、通常のステッチのように連続して模様をメモリーに記憶することはできません。

メモリーを使って横送り模様やモノグラムを組み合せる方法
・ １６方向縫いを使って、このような横送り模様やモノグラムを組合せ記憶することができます。

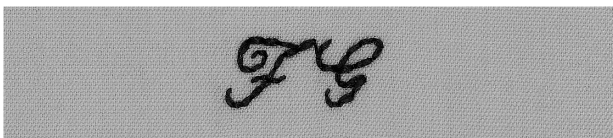
方法

メモリーをオープンし、文字をプログラムする。
・ 画面横の≪mem≫ボタンを押します。
・ ステッチを選択します。
ステッチがメモリーに表示されます。



テンプレートを使って間隔を決める
・ 例えば、F とGのテンプレートを使って、縫う位置を決めます。
・ 二つの文字の縫う方向を一致させます。
・ 最初の文字が縫い終わる位置に、16 方向縫いのテンプレート上の押え金マークをあわせます。
・ 各テンプレートの縫う方向が一致しているのを確かめます。
・ 次に縫う文字の始点を決めます。
・ 9 ミリの送り回数を決めます。
・ 方向と 9 ミリの送り回数をメモリーに記憶します。（第一章の"16 方向縫い"も御参照ください）

二番目の文字をプログラムする
・ 二番目の文字をプログラムします。
・ 一模様縫い機能をプログラムします。
・ 縫います。



中および小さいサイズのモノグラム
・ 中および小さいサイズのモノグラムはいつも直線上で縫い始め、縫い終わります。
・ あたかも書いているように縫います。
・ 従って、16 方向縫いとこれらの文字を組み合せる事はとても簡単です。



ヒント

横送り縫いとその他のステッチ
・横送り縫いと他のステッチを組み合せると楽しいデザインが作れます。

横送り縫いと補助テーブル
・補助テーブルは大変便利です。

バランス

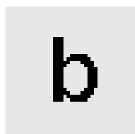
全ステッチは全て工場から出荷される時にテストされ、調整もすんでいます。

種類の異なる生地、糸、安定紙でステッチに歪みがでることもあり、縫目が伸びたり（間が離れてしまっている）、縮んだり（押しつぶされている）します。

電気的なバランスで調整して生地にぴったりの完璧な形のステッチになるように、歪みを修正する事が出来ます。

ステッチ：**すべてのステッチ**
針：**生地に合わせてサイズとタイプを選びます**
糸：**どんな糸でも良い**
送り歯：**上**
押え金：**画面の表示どおり**

試し縫い
・いつも、これから使う生地、安定紙、糸を使って試し縫いをすることはとても大切です。



バランスを起動させる
・ 機能のツールバーにある矢印にタッチします。
・ 画面をスクロールさせて、≪b≫機能を見つけます。
≪b≫にタッチします。

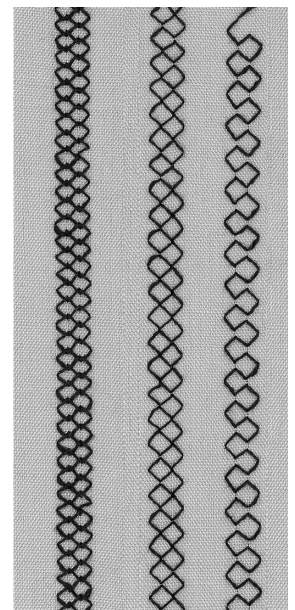
バランスと実用縫い／9 ミリの飾り縫い

・ ジャージーやトリコットのように柔らかな生地は押え金の圧力で伸びる傾向があります。
・ 従って、ネットステッチのような場合、網目がキチンと閉じた形にならないこともあります。
・ これはバランス調整で正しい形にすることができます。
・ 実際に選んだステッチがバランス画面に出ます。

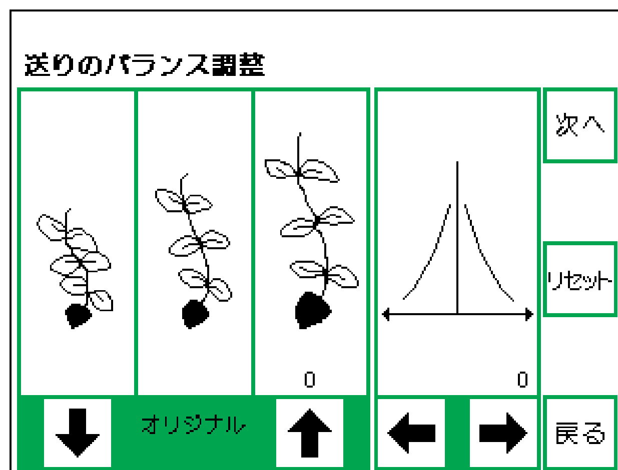
実用縫いのバランス
・正常なステッチの出来上がりの形が画面の中央に表示されます。（例）ネットステッチ
・左右には、歪んだ形の例が示されています。
・画面の下にある矢印がステッチの形を調整する方向を示しています。

訂正
・ステッチのバランスをとるために適当な矢印にタッチしてください。
・訂正に何段階のステップが必要かは矢印の上に出ています。
・実用縫いのバランスには、ふつう 2—5 段階のステップを踏めば充分でしょう。（最高は 50 ステップ）

9 ミリの飾り縫いのバランス
・ やり方は実用縫いの時と同じです。
同じコンパクトステッチは修正の参考に、バランス画面に表示されています。



縮んだステッチ　ｽﾃｯﾁ　開いたステッチ



ステッチが短過ぎる状態ならば、こちらの矢印を使って修正します。

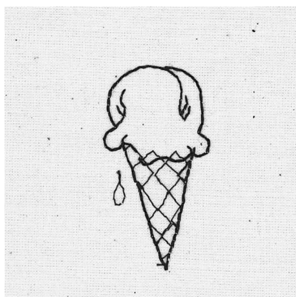
ステッチが長過ぎる状態ならば、こちらの矢印を使って修正します。

横方向への歪みの修正は、こちらの矢印を使います。

- 横送り縫いをきれいに仕上げるには、生地、糸、安定紙が全て大切な役割を果たしています。
- 時として修正が必要な場合もあります。

バランス

- 横送り縫いのステッチまたはモチーフを選択します。
- バランス«b»をタッチして、バランスを起動します。
- バランス画面が表示されます。
- 横送り縫いのステッチをバランス調整する場合、選択したモチーフはいつでも表示された状態です。
- ステッチは、画面の左半分の中央に表示されます。
- ステッチの隣には、形のよくない例が表示されます。図では、左側が短過ぎ、右側は長過ぎます。
- 画面の右半分には、横方向のバランスを修正するためのガイドが表示されています。



縦に訂正する

- もしもステッチの状態が、画面右側のものに近かったら、右側の矢印を使って修正します。パターンを短くすることができます。
- もしもステッチの状態が、画面左側のものに近かったら、左側の矢印を使って修正します。パターンを長くすることができます。
- 縦方向への修正は、通常、1ステップから5ステップ程度の繰り返しで十分です。(最高50ステップまで修正できます。)
- 10ステップ以上修正しなくてはならない場合、ステッチが少し縮小されます。
- 試し縫いをしてから、必要ならば再度修正するようにするとよいでしょう。
-

横に訂正する

- 横のバランスは、画面の右半分で行います。
- 縦のバランスを直した後は、時々ステッチが横方向に伸びることがあります。
- 言い換えれば、中央の線が歪んで見えるのです。
- そこで今度は、反対側にバランスを取りましょう。通常は、5ステップから10ステップの修正で十分です.(最大 20 ステップ)
- 試し縫いをしてから、必要ならば再度修正するようにするとよいでしょう。

ステッチ画面に戻る

- 修正がすべて完了したら、OKをタッチして変更を確定、ステッチ画面に戻ります。
- リセットをタッチすると、ステッチの状態は、修正を加える前(バランス画面を開いたときの状態)に戻ります。

索引

04/01 JA 030 866 51 10